



# 国立 沖縄工業高等専門学校 創立十周年記念誌

Okinawa National College of Technology  
10<sup>th</sup> Anniversary







国立 沖縄工業高等専門学校  
創立十周年記念誌

**10th**  
Anniversary

---

Okinawa National College of Technology



# 沖縄工業高等専門学校校歌

作詞 古賀 義伸  
作曲 上江洲安彦  
編曲 上江洲安彦

深き緑の山原の  
丘に聳えし学び舎に  
夢を求めて集いし我ら  
友とともに、師とともに  
技術の地平を切り拓く  
ああ、沖縄高専  
光り輝け

辺野古の海を見晴るかす  
丘に聳えし学び舎に  
大志抱きて集いし我ら  
友とともに、師とともに  
未知なる海原漕ぎ進む  
ああ、沖縄高専  
光り輝け

日本の最南、美ら島の  
丘に聳えし学び舎に  
世界目指して集いし我ら  
友とともに、師とともに  
パイオニアの精神連綿と  
ああ、沖縄高専  
光り輝け

## 沖縄工業高等専門学校校歌

作詞 古賀 義伸  
作曲 上江洲安彦  
編曲 上江洲安彦

Allegretto  
♩ = 116

1 2 3 4 5  
ふ か き - みどりの や ん ば る の お か  
へ の こ - のうみ を み は る か す お か  
に ほ ん - のみ な み ち ゅ ら し ま の お か

6 7 8 9 10  
に - そ び え し ま な び や に ゆ め を - も と め  
に - そ び え し ま な び や に た い し - い だ き  
に - そ び え し ま な び や に せ か い - め ざ し

11 12 13 14  
て つ ど い し わ れ ら - と も - と - と も に  
て つ ど い し わ れ ら - と も - と - と も に  
て つ ど い し わ れ ら - と も - と - と も に

15 16 17 18  
し と と も に ぎ じ ゅ つ の - ち へ い を き り ひ ら く あ  
し と と も に み ち な る - う な ば ら こ ぎ す す む あ  
し と と も に パ イ オ ニ ア の - こ こ - ろ れ ん め ん と あ

19 20 21 22 23  
あ お き な わ こ - せ ん ひ か り - か が や け  
あ お き な わ こ - せ ん ひ か り - か が や け  
あ お き な わ こ - せ ん ひ か り - か が や け





創設前

before foundation





現在  
Today



# CONTENTS

## 8 挨拶

国立沖縄工業高等専門学校 校長

伊 東 繁

## 祝 辞

独立行政法人 国立高等専門学校機構 理事長

## 9 小 畑 秀 文

沖縄県知事

## 10 仲井眞 弘 多

名護市長

## 11 稲 嶺 進

国立大学法人琉球大学長

## 12 大 城 肇

名桜大学長

## 13 瀬名波 榮 喜

沖縄工業高等専門学校 産学連携協定会 会長

## 14 湧 川 昌 秀

沖縄工業高等専門学校後援会 会長

## 15 中 本 正 泰

沖縄工業高等専門学校同窓会 会長

## 16 坪 田 庄 真

## 17 第1章 写真で綴る今昔

## 29 第2章 沖縄高専の軌跡

30 沖縄工業高等専門学校 沿革

32 創立10周年記念座談会

44 歴任教職員名簿

寄 稿

46 初代校長・歴代事務部長・教職員より

67 卒業生・在校生より

78 学生寮創設から現在に至るまで

## 85 第3章 学生生活・部活動

学生たちの活動記録

86 学生表彰台帳 優秀賞

87 学生表彰台帳 沖縄高専・学術賞

88 学生表彰台帳 高専機構・表彰

88 学生表彰台帳 皆勤賞

89 学生表彰台帳 特別賞

94 学生表彰台帳 善行賞

99 Campus Life

## 105 第4章 地域連携・地域貢献

106 出前授業

地域貢献

110 出前授業等

112 2009JST女子中高生支援事業

112 ALLやんばる科学と教育のまちづくり

## 113 第5章 資料編

114 沖縄工業高等専門学校中期目標

116 教職員役員表

117 オープンキャンパス来場者数

117 サマースクール参加者数

118 交流協定状況

119 図書蔵書数推移(分野別)

119 学生会長・寮長

120 市町村別入学者数

121 卒業生・修了生進路先

インターンシップ先

125 平成21年度

126 平成22年度

127 平成23年度

教育課程表

128 別表第1:一般科目

129 別表第2:(1)機械システム工学科

130 別表第2:(2)情報通信システム工学科

131 別表第2:(3)メディア情報工学科

132 別表第2:(4)生物資源工学科

133 別表第3

134 別表第4:創造システム工学専攻

136 沖縄高専フォーラム・技術交流会

137 沖縄高専北部地区産学連携フォーラム・技術交流会

138 歴代産学連携協定会長

138 歴代後援会長

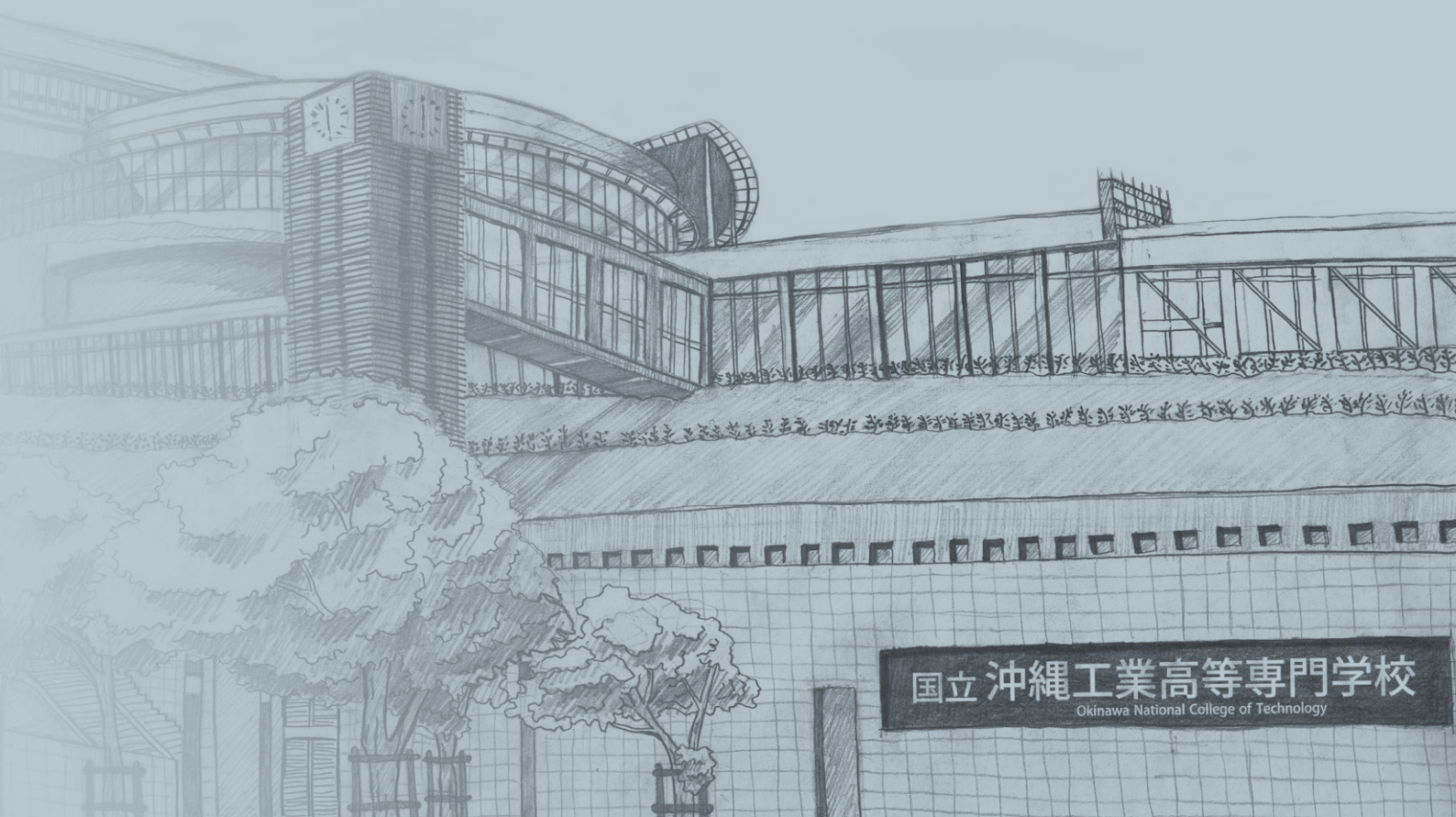
138 編集後記



# 10th Anniversary

Okinawa National College of Technology

## 国立 沖縄工業高等専門学校 創立十周年記念誌



本校校長

伊 東 繁

Shigeru Ito



## 沖縄高専の使命とこれからの歩み

沖縄工業高等専門学校は、沖縄県、関係市町村及び産業界からの強い要請を受けて、平成14年10月1日に55校目の国立高専として開学しました。平成25年春には、本科第10期生ならびに専攻科第5期生を迎えるに至り、教職員を含め千名に近い人員を擁する学舎と相成りました。これもひとえに、皆様方の厚いご支援の賜と深く感謝申し上げます。

本校は、『人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与する』ことを理念とし、確固たる専門的基礎知識と社会人として必要な識見を備えた実践的・創造的技術者の育成に邁進してまいりました。専攻科の新設、日本技術者教育認定機構（JABEE）による4つの技術者教育プログラムの認定、地域産業界の皆様や関係市町村、各教育研究機関との学術及び技術交流活動など、深化する産業界の要請に対応できるよう、より高度な技術者教育への取り組みを進めてまいりました。

また、産業まつりへの出展や高専フォーラムの開催、社会人向け講習会、小・中学校への出前授業、サイエンスランドの開設など地域活動の場を拡げてまいりました。地域の皆様と、本校の知見や研究成果を共有し、将来を担う子供達に学ぶことの大切さや、ものづくりの楽しさを伝えていくことは大変重要であります。沖縄県の教育と経済産業の振興に寄与すべく、地域の産学連携を深め、地域イノベーションの創出とそれを担う人材の育成に尽力してまいり所存です。

さらに本校は、中学校卒業後の最も伸び盛りの年代に一貫した専門教育を行うことを特徴としております。学生の個性や能力を十分に伸ばし、豊かな人間性の涵養を図るとともに、主体性、自律性、社会性を育み、国際社会の一員としての人間形成を促すことを重視し、正課の授業のみならず課外活動や教育寮（学生寮）での指導の充実に努めております。他者と協働し、新しい時代を切り開く、まさに開拓者たる技術人材の輩出を目指してまいります。

近年の社会・経済活動は一層グローバル化が進み、地域産業を担う技術者も国際的な視野をもって技術革新を捉え、複合的あるいは融合的な課題に取り組んでいかなければなりません。本校は学生の英語教育にも力を入れ、外国人留学生受け入れの推進や海外教育機関との交流協定の活性化も進めてまいりました。しっかりとした専門的知識、技能とともに幅広い見識と国際感覚を持った地域産学の先導的技術者の育成に取り組んでまいります。

これからも地域に根ざした高等教育機関としての使命を果たすべく、教育環境の高度化と学校活動のより一層の充実発展に教職員一同鋭意努力してまいります。

本校創立10周年の節目にあたり、皆様の温かいご理解とご支援に重ねて御礼申し上げますと共に、今後共変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

独立行政法人  
国立高等専門学校機構  
理事長

小畑 秀文

Hidefumi Kobatake



## 沖縄工業高等専門学校創立 10 周年に寄せて

このたび、沖縄工業高等専門学校が創立 10 周年を迎えられますことは、国立高等専門学校機構として大きな喜びとするところです。

高等専門学校は、我が国における科学技術を支え、更にその進展を促すために、5 年一貫教育を通して、しっかりとした学術的基礎の上に真の実践的な技術を身に付けた第一線の技術者を養成する新たな学校制度として、昭和 37 年度に創設されました。沖縄工業高等専門学校は、最も新しい国立高等専門学校として平成 14 年 10 月に開校されております。設立当初は、機械システム工学科、情報通信システム工学科、メディア情報工学科及び生物資源工学科の 4 学科で発足しましたが、平成 21 年には 4 コースから成る専攻科—創造システム工学専攻—を設置し、より高度な技術教育を実践する高等専門学校へと発展してきております。既に実践性・創造性を兼ね備え複合領域にも対応できる技術者を数多く育成してきており、ものづくり日本を担う技術者育成の拠点としての地位を築いております。

高等専門学校の特徴ある課外活動として全国規模の各種コンテストがあります。これに参加することは、学生の発想力、技術力、チャレンジ精神、自律性などの総合的な技術者力・人間力の育成に大きな効果をもたらします。そのようなコンテストの一つに全国の高校生、高専生を対象とした情報処理技術における優れたアイデアと表現力やプログラミング能力等を競い合う「パソコン甲子園」があります。沖縄工業高等専門学校は、これまでデジタルコンテンツ部門で 2 度グランプリを受賞するなど、この大会の常連校ですが、このたび、10 周年という記念大会である「パソコン甲子園 2012」において、デジタルコンテンツ部門及びモバイル部門の 2 部門でグランプリを受賞する初の快挙を収めました。日頃の教育のレベルの高さを示す一例といえましょう。

また、平成 23 年から「ALL やんばる 科学と教育のまちづくり」のプロジェクトをスタートさせ、名護市内に設置したサイエンスランドや科学イベントを通して、子どもからお年寄りの皆さんに科学に触れる・学ぶ・実践する機会を提供するなど、地域連携活動も極めて活発です。

国立高等専門学校機構としては、「進化する高専」をキーワードに更なる飛躍を目指し、イノベーションの創出、地域連携、及びグローバル化を視野に入れ、科学技術創造立国の一翼を担う感性と創造性豊かな実践的技術者を育成しつつ、文化の香り高い豊かな社会の発展に大きく寄与して参りたいと思います。沖縄工業高等専門学校の教職員並びに学生の皆さんにおかれましても、この 10 周年を契機に、更に決意を新たにされ、使命を達成され、その成果を沖縄の地から世界に向けて発信して行くことを期待しております。

沖縄工業高等専門学校創設 10 周年の節目にあたり、ここに改めてお祝いを申し上げますと共に、関係の皆様のごこれまでのご尽力に対して心より御礼を申し上げます。

沖縄県知事

仲井眞 弘 多

Hirokazu Nakaima



## 独立行政法人国立高等専門学校機構 沖縄工業高等専門学校創立十周年記念誌における祝辞

沖縄工業高等専門学校が、創立10周年を迎えられたことを心からお喜び申し上げます。

貴校は、平成14年10月の開学以来、「人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与する。」との建学理念の実現に努めてこられました。

これまでに1,600余名の学生が入学し、650余名の卒業生が県内外の幅広い分野で活躍されていることは、御同慶の至りであります。

高等専門学校の特徴である実学主義のカリキュラムにより、実践的な専門知識を有する人材の育成を担う貴校の創設は、県民の強い要望でありました。

その実現から10周年という節目に感慨新たな思いと同時に、この短期間にもかかわらず「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト」で上位入賞を果たすなど、目を見張る業績を挙げていることに深く敬意を表します。

さて、沖縄県の発展を支える人材の育成は県政の最重要課題の一つであり、とりわけ科学技術分野における優れた人材の確保が求められています。

その一翼を担う貴校が、より高度で実践的な技術者育成に力を入れ、魅力ある学校づくりに努め、多くの優秀な入学志望者を増やしていることは、心強い限りであります。

去る平成24年9月1日には近隣の恩納村に沖縄科学技術大学院大学が開学し、貴校とともに科学技術の専門者育成機関が揃い踏みしました。

このような恵まれた教育環境が最大限に活かされ、我が国はもとより世界で活躍する科学者や技術者が多数輩出することが大いに期待されます。

沖縄県としましては、高等学校での技術者育成の向上に努め、将来の沖縄を担う人材の育成を図って参ります。

創立10周年の節目を迎え、更なる飛躍を目指して魅力ある学校づくりに取り組まれ、社会で活躍する優れた人材の育成に御尽力されることを期待しております。

最後に、校長先生をはじめ教職員の皆様、学生の益々の御活躍と貴校の限りない発展を祈念して、祝辞といたします。



## 沖縄工業高等専門学校十周年記念誌あいさつ

沖縄工業高等専門学校の開学 10 周年、誠におめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。貴校におかれましては、平成 14 年 10 月の開学以来、科学・技術の専門知識を持った優秀な人材を数多く輩出するとともに、ロボットコンテストやパソコン甲子園における日本一獲得など、その活躍は全国にその名を馳せております。

また、名護市との間においては「連携に関する協定書」を締結し、多岐にわたる分野の研究成果等を通し交流を深めているところであり、地域の振興・発展並びに人財育成に多大なるご貢献をいただいております。

開学から今日までの 10 年は地域貢献を前面に掲げ、関係機関との連携、専攻科の設立などによる教育環境の充実など、着実な進展を遂げております。今では名護市のみならず沖縄県になくはならない存在となった貴校を誇りに思うとともに、多大なるご尽力を賜りました糸村前校長、伊東現校長はじめ教職員の皆様に対し心より敬意を表する次第であります。

現代社会は情報技術の革新、少子高齢化、経済のグローバル化などに加え、経済不況や地方分権、政権交代など、変化・変革が進んでいます。とりわけ、地方の自立については喫緊の課題となっており、それぞれの地域に応じた創意工夫が求められております。そのような中、名護市においては地域力を高め「市民が夢と希望を持てる日本一特色あるまち」を目指し市政運営に取り組んでいるところであり、今後とも、産学官連携を掲げる貴校と本市、そして産業界が手を取り合い、時代の変化に素早く対応できる体制と環境を構築できるよう、ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。また、在校生並びに卒業生の皆様におかれましては、社会の動きをいち早く察知しアクションを起こす行動力と、卓越された専門知識を身にまとい、わが国発展の一翼を担っていただくよう大きな期待を寄せる次第であります。

結びになりますが、この 10 周年を新たな出発点とし、沖縄工業高等専門学校がますますご発展されますこと並びに関係各位のご健勝を祈念申し上げ、お祝いの挨拶と致します。



## パイオニア精神をもつ創造的産業人材の輩出に期待

独立行政法人国立高等専門学校機構 沖縄工業高等専門学校創立 10 周年の記念すべき節目にあたり、心よりお祝い申し上げます。

貴校におかれましては、2002 年 10 月の開学以来、沖縄県並びに北部圏域の振興を担う創造性豊かな実践技術者の育成という地域社会の強い要請に応え、5 年一貫教育により有為な人材を地域社会へ輩出してこられました。

この 10 年間は、発展のための基盤づくりの期間として、校舎等の施設はもとより、最新の分析機器や培養・解析装置等の設備が整備され、産業界の人材需要に応える工業高等専門学校として、新たな伝統を確立してこられました。この間、学校運営に尽力されました歴代の校長先生をはじめ教職員の皆様方のご労苦、そして保護者、県内産業界、行政等関係者の方々の学校運営に対するご理解・ご支援に対して、心より深く敬意を表します。

東日本大震災からの復興や日本経済の再生など、解決が迫られる課題が山積する中、沖縄県は日本復帰 40 周年となる 2012 年に「沖縄 21 世紀ビジョン基本計画」に基づく新しい県づくりに着手しました。沖縄県の新たなスタートにあたって地域社会から求められる人材は、専門知識と各種の基礎能力はもとより、問題解決能力、幅広い統合化能力及び創造力を兼ね備えた、社会経済の発展に寄与できる技術者であります。貴校の教育理念と教育方針は、まさにそのような技術者の育成を目指した崇高なものです。

貴校は、全国の高専の中では歴史の新しい学校ですが、教授の陣容、施設の充実度、活動水準の高さなど、いずれの面においても特色ある高等専門学校の一つです。卒業生の皆様は、県内のみならず全国において、この国を支える優秀な人材としてご活躍されておられると伺っております。今後も、琉球大学をはじめ県内各界との連携を強化しつつ、沖縄県の人材育成の要として発展されることと確信しております。貴校から「パイオニア精神をもって技術の地平を切り拓き、未知なる海原を漕ぎ進む（貴校歌より）」多くの優秀な産業人材が輩出されることを強く期待いたします。結びにあたり、沖縄工業高等専門学校の今後ますますのご発展と、関係者の皆様方のご健勝とご活躍を心から祈念申し上げ、お祝いの言葉に代えさせていただきます。

この度は、誠におめでとうございます。



## 創立 10 周年を祝して

国立沖縄工業高等専門学校創立 10 周年を心からお祝い申し上げます。1997 年、沖縄県を始め、名護市や北部 11 町村の誘致運動が日本政府を動かし、琉球大学の協力もさることながら、ついに名護市辺野古の風光明媚な丘にわが国最後の高専として誕生を見るに至りました。当時、高専は要らないといわれていただけに、県民や市民の喜びは一入なるものがありました。爾来、10 年の歳月が流れ、その使命を果たし、幾多の有為な人材を育成し、地域に輩出してきたことを思うとき、関係者に対し敬意を表さずにはおれません。

それまで国立といえば、琉球大学のみでありましたが、沖縄高専が設立されたことにより、沖縄の中学生の胸の中に大きな夢と希望を与えることができました。何しろ、本県には 5 ヶ年一貫教育を行う公立の高等教育機関がまったくなかったからであります。かつ、2 ヶ年の専攻科がおかれ、修了すれば、大学学部並みに学士号を与えることができるだけでなく、大学院への道も開かれているからであります。すなわち、中堅技術者養成と同時に、研究者養成もできるという若者にとっては大きな特権があるからであります。

それというのも、高専が一高等教育機関としてのミッションを掲げ、それを着実に実践し、顕著な成績を修めているからであり、衷心より敬意を表さざるを得ません。たとえば、2008 年の全国ロボットコンテストにおいて優勝するという一大快挙を成し遂げ、全国に沖縄高専の存在価値をアピールしてくれました。そのことは、高専の教育研究のレベルがいかに高く、その質がいかに充実しているかを示すものであります。教員名簿を見て驚くべきことは、高専には最高の学位を持った教員がなんと多いことか！優秀な教員がおり、理論と実践をおろそかにすることなく、充実した一貫教育が行われていることを実証しています。優れた教育は、優れた研究から生まれてくるものです。

沖縄県北部には、中南部とは異なり、地層、地質、鉱物、動植物などが豊富にあります。これらは、科学する研究者のメスを待っており、高専が教育研究を通して、地域住民と協働し、地域の活性化と発展に貢献し、住民の福祉に寄与できるよう期待してやみません。創設 10 年を迎えるにあたり、高専の一層の発展を祈念いたします。

沖縄工業高等専門学校  
産学連携協力会  
会 長  
湧 川 昌 秀  
Masahide Wakugawa



## 輝いた10年、飛躍する10年 産業界の期待

創立10周年、おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

平成9年から10年にかけて、県や県経済団体会議は国に対し「県経済の自立的発展を図るためには、本県産業における技術力の向上と技術者の養成は大きな課題であり、工業高専の設置を強く要望する」という内容の要請を何度もいたしました。結果、平成11年12月「国立高専設置を含む県北部地域の振興に関する方針」が閣議決定されて、平成14年10月に晴れて沖縄高専の創立となりました。

開学準備で東奔西走されていた糸村昌祐初代校長は、開校後の産業界との連携の必要性を訴え経済団体によく足を運ばれました。産業界では経済10団体が団結して動き、開校する平成16年4月に沖縄工業高等専門学校産学連携協力会を設立いたしました。

島袋周仁初代会長は、5年で全国高専ロボットコンテスト大会での優勝を望むと挨拶しましたが、それに応じて開校5年目の平成20年11月、見事に優勝を成し遂げました。さらに、IT技術においても「プログラミングコンテスト」や「パソコン甲子園」でのグランプリ獲得など数々の好成績をおさめており、この10年の学生の活躍はまことに素晴らしいものがあります。また、産業界との連携のため進めている「高専フォーラム」「共同研究・開発」「技術講習会」などの事業も関係者から高い評価を得ています。

沖縄高専の目的は基礎能力と専門技術を身につけ、産業界の要請に対応しつつ、国際的にも活躍できる創造的実践的な技術者を育成することとあります。本県産業界の望む人材とは正にそうした人物像であります。沖縄高専はこれまで卒業生を5期輩出しましたが、県内企業への就職も業種が広がりつつあり、彼らが各職場で活躍していくことで自信と評価を得て、さらに多くの学生が県内企業を目指すことを強く望んでおります。

結びに、沖縄高専のこれからの10年が、さらに輝き飛躍する10年になることを心から祈念申し上げて祝詞といたします。



沖縄工業高等専門学校後援会  
会長

中本正泰

Masayasu Nakamoto



## 祝 辞

沖縄工業高等専門学校創立10周年並びに記念誌の発刊を、心よりお慶び申し上げます。

沖縄高専は、21世紀に向けた人材を育成することをねらいとして、平成14年10月に開学し、平成16年4月第1回入学式を挙行、そして平成21年には専攻科が設置され、高専としての骨格が形成されました。

この間、本科生及び専攻科生の活躍は目覚ましく、県内外への就職や進学はもとより、ロボコンやプロコンをはじめ、スポーツや文化活動でも輝かしい実績を築いてこられました。

振り返ってみますと、1期生が入学した頃はまさに創生期というにふさわしく、学生や先生方、職員の皆様をはじめ保護者も初めてのことに戸惑いや苦労も絶えなかったと思います。

特に、先生方や職員の皆様は、中学を卒業し、初めての授業や寮生活に戸惑う学生に対し、生活指導から関わっていただき、大変ご苦労をおかけしたことと思いますが、建学にかける情熱が学生を鼓舞し、沖縄高専の校風と輝かしい実績を築き上げてきたものと受け止めており、深く感謝を申し上げます。

これまでの10年が基礎を形成する時期といたしますと、これからは築いた基礎の上にさらなる飛躍が期待されることになり、沖縄高専の果たす役割はますます重要となってくるものと考えております。

後援会といたしましても、平成16年10月設立以来、学校及び学生の教育・研究事業を支援するため、様々な活動を展開しているところであり、改めて歴代の役員をはじめ会員の皆様のご尽力に対し感謝を申し上げますとともに、今後とも、学校・学生会・同窓会とも連携協力し活動を展開してまいりたいと考えておりますのでご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

結びに、沖縄工業高等専門学校の限りないご発展、そして学生及び卒業生のご活躍並びに関係者の皆様のご健勝を祈念申し上げ、祝辞といたします。

沖縄工業高等専門学校同窓会

会長

坪田 庄 真

Shoma Tsubota



## Chance favors the prepared mind.

1期生卒業から5年の月日が過ぎた。日本各地に巣立った卒業生は母校を誇りに想い、それぞれの人生を送っているだろう。久しぶりに会う度に、沖縄高専を卒業できて良かったと胸を張り、誇らしげに過去の思い出に華を咲かせ、現在の活躍を報告し合う。僕ら理系学生はなんでも数値化したがるものだが、沖縄高専の「果たせた役割」と「社会貢献」はなかなか数値化出来ない。しかしながら、ロボコンやプロコンを筆頭に様々な活動を行い、様々な賞を受賞し、目に見て分かるように沖縄高専としての役割や社会貢献が形になってきていると実感している。学校、教員、親から手厚いサポートを受け、学生たちは自由に学生生活を送り、自分の将来を自ら築いているだろう。

その一方で、この10年の間に見えてきた疑問点もある。「学生の質」「教育の質」である。「学生の質が下がった」「1期生に比べれば…」。「明るみに出にくい声が僕の耳にも届いているのが現状である。「教育のあり方」。結局何をやるにしても「人」を育てなければ、学校としても、沖縄県としても、国としても、良質な成果を残していくことは出来ない。10年経った今、過去を振り返りながら「教育のあり方」を根底から見直して欲しい。この5年間の高専生活の中で「何を：What」を教えるのではなく、「何故：Why」「どのように：How」を教えて欲しい。社会に出て要求されるのは応用力。学生の頃に学んだ“知識”だけでなく、それ以上に“知恵”が求められる。「Why」と「How」さえ知っていれば、どんな課題にもチャレンジ出来るし、乗り越えられる。そういう「教育のあり方」を意識しながら、学生を含め学校全体が精進して欲しい。

この5年間の中で学ぶ全てのことが、自分の人生を創る。“未来”の自分に投資するつもりで、“現在”この瞬間を精一杯生きて欲しい。「Chance favors the prepared mind.」10年経った沖縄高専に向けて、この言葉と共に祝辞としたい。

# 写真で綴る今昔

## 第1章

# 10th Anniversary

Okinawa National College of Technology

当時のデジタルカメラは、現在と比べると画質が良くなく、お見苦しい部分もあるかもしれませんが、それでも、伝えたいことがあり、限りある頁数の中でちりばめてみました。

# 創設前

# 2002



開校前の図面案  
現在の野球場とレイアウト、サイズが異なる



ミニチュア版のキャンパス基本設計（1/500スケール）  
現在も沖縄高専玄関に展示有り



2002（平成14）年 2月 メディア棟工事現場



2002 (平成14) 年 9月 沖縄高専候補地を望む



2002 (平成14) 年 11月 寄宿舍 (学生寮側)



2002 (平成14) 年 12月  
沈砂地を築造し、赤土流出防止対策を実施して  
周辺環境に配慮を行った

# 2002-2004

平成14年～平成16年

The establishment of Okinawa National College of Technology



2002 (平成14) 年 10月 沖縄高専創立祝賀会 琉球大学にて  
森田孟進学長、故岸本建男名護市長  
後列には創立時の教職員



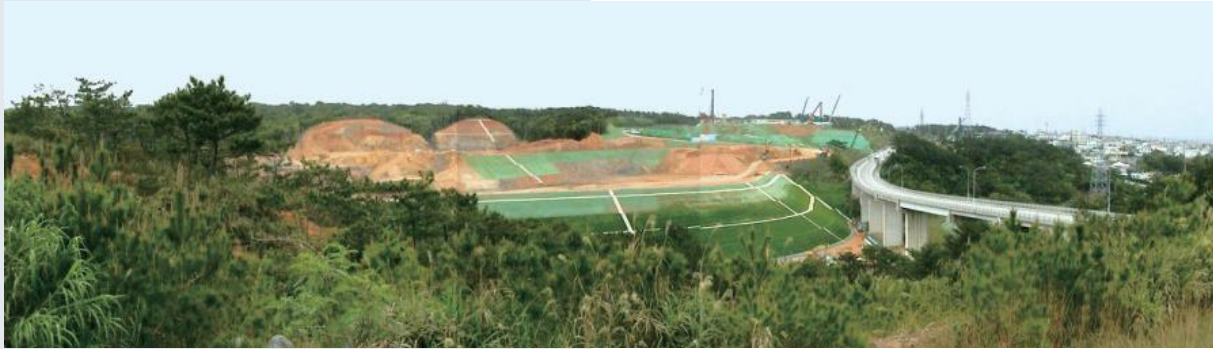
2002 (平成14) 年 10月 沖縄高専開学に伴い琉大事務局  
棟入り口に掲げた沖縄高専事務室の看板  
糸村初代校長と早坂事務長  
(15年4月に名護市に移転後はNTT名護別館入口に掲げる)



2003 (平成15) 年 1月  
運動場側は、校舎側(切土)からの土を盛土を行った



2003 (平成15) 年 2月27日 起工式



2003(平成15)年 3月 擁壁ではなく、法面工法を採用した



2003(平成15)年 3月 当初トラックは400m未満の予定であったが、400mになるよう調整を行った



2003(平成15)年 6月  
学校説明会(塾対象)



2003(平成15)年 10月  
学校説明会(名護市民会館中ホール)



2003(平成15)年 10月 コスト面、自然との調和を考慮して採用された法面工法  
法面の崩壊を防ぐために水平方向にアンカーボルトを一定間隔で打ち込んである



2004(平成16)年 1月5日 NTT名護別館内 沖縄高専事務室勤務の教職員



2004 (平成16) 年 3月  
事務室をNTT名護別館から辺野古新校舎  
に引っ越しの駅伝  
「国立高等専門学校(沖縄)創設準備室」  
から「沖縄工業高等専門学校事務室」  
までの3枚の看板を持つ



2004 (平成16) 年 4月  
辺野古新校舎事務室  
学生課職員



2004 (平成16) 年 11月5日  
竣工記念式典  
(沖縄高専体育館にて)



2004 (平成16) 年  
校舎へ上るスロープ  
ヤシの木を均等配置とせずに  
アクセントをつけた3本配置とした





2005 (平成17) 年 1月



2005 (平成17) 年 2月  
SORAIRO レリーフ除幕式  
マイクの前に新川教授



2005 (平成17) 年 2月  
SORAIRO レリーフ除幕式



完成直後の教育・実験棟 (温室)



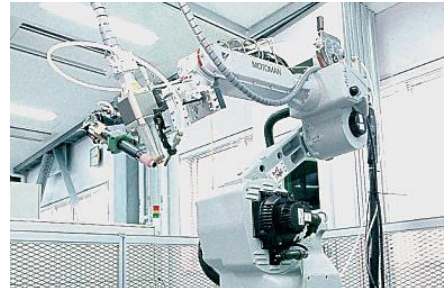
2005 (平成17) 年 5月  
後援会総会で役員紹介をする喜納初代後援会長

現在

2013



The present Okinawa National College of Technology



# 入学式

since 2004



開校式・平成16年度入学式



平成17年度入学式



平成18年度入学式



平成19年度入学式



平成20年度入学式



The entrance ceremony



平成21年度入学式



平成22年度入学式



平成23年度入学式



平成24年度入学式



平成25年度入学式



# 卒業式

since 2008



平成20年度卒業式



平成21年度卒業式



平成22年度卒業式・専攻科修了式



平成23年度卒業式・専攻科修了式



平成24年度卒業式  
・専攻科修了式

The graduation ceremony

# 沖縄高専の軌跡

第2章

**10th**  
**Anniversary**

---

Okinawa National College of Technology

本校は、沖縄県、関係市町村及び産業界からの強い要請を受けて、平成14年4月10日に「国立学校設置法の一部を改正する法律（平成14年法律第23号）」の公布により、平成14年10月に開学しました。平成16年1月28日のⅠ期工事竣工を経て、同年4月10日に第1回入学式を挙行し、175名の第1期生が入学しました。



# 沖縄工業高等専門学校沿革

## 平成9年（1997）

1月22日 沖縄政策協議会プロジェクトチーム現地会合において、沖縄県側から国立工業高等専門学校の誘致について要請

## 平成11年（1999）

8月11日 稲嶺沖縄県知事から国立高等専門学校の早期設置に関する要望書の提出

9月27日 稲嶺沖縄県知事から国立高等専門学校設置候補地について名護市辺野古地区を推薦し要請

12月28日 「国立高等専門学校設置の確実な実現」が盛り込まれた「沖縄県北部地域の振興に関する方針」等が閣議決定

## 平成12年（2000）

3月1日 国立高等専門学校（沖縄）創設準備調査室を琉球大学に設置

3月17日 国立高等専門学校（沖縄）創設準備調査委員会を設置

4月1日 国立高等専門学校（沖縄）創設準備委員会を設置

8月10日 「国立高等専門学校（沖縄）の創設について（中間まとめ）」を取りまとめ公表

## 平成13年（2001）

4月20日 国立高等専門学校（沖縄）創設準備委員会教育方法・課程等部会及び施設・設備等部会を設置

7月27日 国立高等専門学校（沖縄）の設置に必要な用地の取得等について依頼

## 平成14年（2002）

1月24日 国立高等専門学校（沖縄）創設準備委員会教員選考部会を設置

4月10日 国立学校設置法改正

6月5日 「国立高等専門学校（沖縄）の創設について（最終まとめ）」を取りまとめ公表

10月1日 沖縄工業高等専門学校開学（機械システム工学科、情報通信システム工学科、メディア情報工学科、生物資源工学科）  
初代校長に琉球大学教授工学博士糸村昌祐が就任

10月24日 沖縄工業高等専門学校開学記念シンポジウムの開催

## 平成15年（2003）

2月27日 沖縄工業高等専門学校起工式の挙行

3月31日 事務室をNTT名護別館（名護市大東）に移転

## 平成16年（2004）

1月10日 推薦による選抜試験の実施

1月28日 第Ⅰ期工事竣工

2月22日 学力検査による選抜試験の実施

3月10日 名護市民会館にて第1期生に対する入学説明会を開催

3月22日 事務室を新校舎（辺野古）に移転





# 1997-2013

- 4月10日 第1回入学式を挙行、175名が入学
- 4月21日 沖縄工業高等専門学校産学連携協力を発足
- 8月2日 学生会発足
- 9月30日 第Ⅱ期工事竣工
- 10月31日 沖縄工業高等専門学校後援会設立総会開催
- 11月5日 沖縄工業高等専門学校竣工記念式典を挙行

#### 平成17年 (2005)

- 2月2日 レリーフ除幕式を挙行
- 4月9日 第2回入学式を挙行、164名が入学

#### 平成18年 (2006)

- 4月8日 第3回入学式を挙行、167名が入学

#### 平成19年 (2007)

- 4月7日 第4回入学式を挙行、166名が入学

#### 平成20年 (2008)

- 4月5日 第5回入学式を挙行、165名が入学

#### 平成21年 (2009)

- 3月21日 第1回卒業式を挙行、147名が卒業
- 4月1日 沖縄工業高等専門学校専攻科（創造システム工学専攻）を設置
- 4月4日 第6回入学式を挙行、169名が入学  
第1回専攻科入学式を挙行、28名が入学

#### 平成22年 (2010)

- 3月20日 第2回卒業式を挙行、142名が卒業
- 4月4日 第7回入学式を挙行、164名が入学  
第2回専攻科入学式を挙行、37名が入学

#### 平成23年 (2011)

- 3月19日 第3回卒業式を挙行、173名が卒業  
第1回専攻科修了式を挙行、27名が修了
- 4月3日 第8回入学式を挙行、164名が入学  
第3回専攻科入学式を挙行、25名が入学

#### 平成24年 (2012)

- 3月17日 第4回卒業式を挙行、144名が卒業  
第2回専攻科卒業式を挙行、32名が卒業
- 4月3日 第9回入学式を挙行、164名が入学  
第4回専攻科入学式を挙行、24名が入学

#### 平成25年 (2013)

- 3月16日 第5回卒業式を挙行、137名が卒業  
第3回専攻科卒業式を挙行、25名が卒業
- 4月3日 第10回入学式を挙行、166名が入学  
第5回専攻科入学式を挙行、34名が入学

# 創立10周年 記念座談会

日時：平成24年10月6日（土）14時～16時半  
場所：大会議室

## 【出席者】

伊東 繁 校長 (平成22年4月1日～)  
糸村 昌祐 前校長 (平成12年3月1日～平成22年3月31日)  
早坂 勇二 元事務長 (現在・東京外国語大学企画調整役(兼)プロジェクト支援事務室長) (平成12年3月1日～平成15年3月31日)  
鈴木 龍司 元教授 (情報通信システム工学科) (平成14年8月16日～平成21年3月31日)  
真鍋 幸男 元教授 (機械システム工学科、現在広島大学客員教授・NPO法人ATACひろしまコーディネーター) (平成14年6月1日～平成24年3月31日)  
新川 智清 教授 (総合科学科) (平成14年5月1日～)  
知花 恭史 寮務係長 (元創設準備室) (平成13年10月1日～平成17年3月31日・平成23年7月1日～)

※（ ）内は沖縄高専または創設準備室での在籍期間。

## 【十周年記念誌編集委員会】

網谷 厚子 教授 (総合科学科・記念誌編集委員会、司会)  
屋良 朝康 技術長 (技術支援室)  
城間 弘充 学生課課長補佐 (元創設準備室)  
大城登樹子 図書情報係長

(以下敬称略)

司会： 本日は、糸村前校長先生、また、東京から早坂元事務長、奈良から鈴木先生、広島から真鍋先生と遠路はるばるありがとうございます。お久しぶりにお会いできた方が多く、とても嬉しいです。よろしくお願ひ申し上げます。

本校伊東校長より、ご挨拶申し上げます。

校長： 本日はありがとうございます。平成14年10月の創設まで大変なご苦勞がおありだったと推察いたします。10周年記念式典は、来年度10期生が入学してくるので、平成25年9月21日に開催することで現在準備を進めています。創設当時のお話をお聞かせいただき、今後の10年を考えていく糧としたいと思います。

## 現在の高専をご覧になって：

司会： 創設についてご尽力された皆様にお集まりいただき、本校がなぜ現在のようになつたのか、経緯やご苦勞をお話しいただけたらと思います。当時の方々しかご存じないことなどあると思います。

まず、皆様から、現在の沖縄高専をご覧になってのご感想を一言ずつお願ひします。

糸村： 国立高等専門学校（沖縄）創設準備調査室が琉球大学に設置された平成12年3月1日付けで、早坂さんと一緒に創設準備に関わってから、2期生が卒業した平成22年3月末

まで、10年間仕事をさせていただきました。創設計画の段階で、文部省（当時）のちに省庁再編された文科省から、専攻科設置を念頭に置いた教員人事や施設計画を求められていましたので、専攻科棟が当初の計画どおりに完成したことに深い感慨を覚えます。沖縄高専の校長として、名桜大学の10周年記念式典に出席したときに、大学関係者や地域の人々も含めた参列者の喜びを肌で感じ、沖縄高専の10周年記念式典も、同じように祝福される式典になるだろうと楽しみにしています。

早坂： 創立10周年おめでとうございます。

平成12年3月から平成15年3月



までの3年1月の間、主幹、事務長の立場で創設に携わってきました。当初はベースとなるものが何も決まっていない状態で、関係の方々の協力、特に琉球大学の全面的な協力があったからこそスタートできたわけですが、当時、琉球大学事務局や創設準備室の職員の中にも早々と10年後に思いを馳せる方が少なからずいました。抽象的ですが、従前の高専のイメージを一新し沖縄振興の一翼を担う、県内はもとより全国の高専の中でも一目置かれる存在になればと思い描いていました。

創設に関わると思い入れも強くなるようで、私自身も高専を離れてからその動向や活躍が気になって、文教ニュースなどで「沖縄高専」の文

字があると思わず読み入ってしまいます。1期生の入学式や卒業式、ロボコンで全国優勝したときには大変嬉しく思いました。沖縄高専の学生や教員が表彰を受けたとか、沖縄高専の様々な取組のニュースに接するたびに頼もしく感じます。このような活躍はすべて、糸村前校長、伊東校長をはじめ、沖縄高専の教職員及び関係の方々のご努力、ご尽力があつてのことと思います。

今後国の財政も厳しくなり、大学・高専は難しい運営を迫られる状況です。教職員が一丸となって飛躍へ知恵を絞ってこれからの10年を乗り切っていただきたいと思います。沖縄高専の潜在力と今後の可能性に期待して、あえて発展途上中と形容し

ますが、ここに10周年を迎えられたことは、創設に関わった1人として大変嬉しい限りで、重ねてお祝いを申し上げます。

**司会：** お二人は沖縄高専の「生みの親」ですね。鈴木先生はいかがですか。

**鈴木：** 沖縄高専の定年退職者第1号です。1期生から5期生までの学生は、沖縄高専の実績がゼロにもかかわらず、多くの入学者がいたことを嬉しく思います。そして、1期生から4期生たちが、就職・進学に対して大きな成果をあげてくれたことは、ほっとしたのとあわせて嬉しい限りです。

さらなる実績づくり、伝統を作っていただけたらと思います。卒業生

の実社会での活躍を期待します。

**真鍋：** 私は今年の3月に退職したばかりです。新設校でしたので当初最も心配した就職・進学はこれまでは良い結果が出ていますが、現在は少し問題が出つつあると思います。マスコミなどを利用して広報し良い学生を集め、現状に満足することなく、維持・発展することを望みます。

**新川：** 私はこちらに採用される前まで高校勤務でしたので、「高専」についてよくわからず大変でした。「入口（受験生の確保）」と「出口（卒業後の進路）」について、準備室でよく議論しました。ユニークで个性的な1期生が入ってきたときは、建物（校舎・寮）の半分しか建っていませんでした。彼らは私たちの期待以上に成長してくれました。「高専」について地域・保護者・中学生の理解は深まってきていると思いますが、まだまだです。周知する努力が必要と感じています。

**司会：** 知花係長は、昨年沖縄高専に戻って来られました。多和田元学生課課長補佐や城間現学生課課長補佐と同じですね。



新川 智清  
Tomokiyo Arakawa

**知花：** 平成13年10月琉球大学に採用と同時に高専創設準備室に配属になりました。よくわからない状況

で無我夢中でした。昨年沖縄高専に戻ってきてからは、日々の業務に追われるだけで、自分の周りのことしか見えなくなっていたところでしたが、この機会に、もう一度設置の理念に戻り、創設時に思い描いた沖縄高専と現在の沖縄高専を比較する中で、「理想通り」と「うまくいっていない部分」、施設や規則などの面で見えてきたことはないか、考えていきたいと思っています。

## 沖縄高専の「生みの苦しみ」

**司会：** ありがとうございます。それぞれの方々の「創設準備」の頃のお話から伺いたと思います。まず、糸村先生や早坂元事務長に、平成12年3月1日から3月31日まで創設準備調査室が琉球大学内に設置されたあたりのお話をしていただけませんか。

**糸村：** 文部大臣辞令で高専創設の仕事を拝命する前は琉大工学部の教授でした。平成10年度の琉大職員録には、国立高等専門学校（沖縄）創設準備調査室というページがあり、配布され

たときは空白のままでしたが定年される元工学部長がその職に就くのだろうと思ったものです。当時はまさか自分が創設の仕事をする事になるとは思ってもいませんでした。平成12年はうるう年で、3月1日付の大臣辞令を2月29日に文部省で受け取り、とんぼ返りで沖縄に戻ったことを覚えています。学会を通しての知人には高専教官もあり、高専の校長をされておられる方もいましたが、カリキュラムや単位、授業時間数など大学との細かな違いは、創設準備調査室に配置されてから勉強

しました。工学部在勤中に、教官として学科新設に関する仕事をしたことはありますが、事務的な仕事は初めてで、早坂さんにはいろいろと教えてもらいました。

**早坂：** 私は創設準備調査室勤務を命ぜられる前は兵庫教育大学にいました。

**司会：** えっ、兵庫県ですか。

**早坂：** 内示を受けたのが平成12年2月4日で、2月20日から10日間、文部科学省専門教育課に移り沖縄高専創設に関してのにわか勉強をして、3月1日に赴任しました。糸村先生とお会いしたのはその時初めてで、通常誰もが思うことでしょうか、上司になる人はどういう方なのか、馬が合わないときはどうしようかと内心不安でしたが、糸村先生の温厚な人柄にほっとした記憶があります。

**司会：** 特にお二人が中心となってお仕事をするわけですから、相性は大切でしょうね。

**早坂：** 準備調査室は、琉球大学事務局棟の1階、学生課、入試課と一緒にフロアに間借りして、準備調査室スタッフも琉大職員から4人配置していただきました。高専という高等教育機関は沖縄の方にはほとんど馴染みがなく、琉大職員のみなさんも知らない。その上、創設という仕事は私も含めて誰も経験がないということで、本当に創れるのだろうか、当時沖縄はいろんな面で全国的に注目されていた時期でもあり、とんでもないことになったなと思っていました。

この一か月間での創設準備調査室の一番の仕事は、創設準備調査委員会を開催することでした。委員長は森田琉球大学学長（当時）で、議題、配布資料等の準備や議事進行などを整理し、初会合で顔合わせという意

味合いもあり、スムーズに開催できました。

ただ、4月から本格的に議論していく予定でしたが、検討の参考資料とすべく文科省が業務委託したシンクタンク（株式会社沖縄計画研究所）の調査報告書が未完成ということが判明しました。そこで、本来はシンクタンクがやるべき仕事ですが、急遽、シンクタンク職員と共同して報告書を作り上げる作業を行い、3月下旬には徹夜で仕上げ、なんとか創設準備委員会に提出（「高等専門学校における人材養成と沖縄県の産業構造との関連についての調査報告書」平成12年3月）することができました。

また、創設準備のプロセスやオペレーションが不案内だったので、奈良先端大学院大学から創設時の資料をダンボール箱で数個分を借り受けて、必死に勉強するという状況でした。

**糸村：** 私も若いころは、学生と一緒に徹夜で実験したこともありましたが、60歳近くになって、あの報告書まとめでの徹夜は久々でしたし、大変でした。あれが導入で、そのあとも、文科省への報告まとめや予算要求の資料作りなど徹夜は何回もありましたね。

**校長：** 産業界の動きの中で、技術者養成が必要な時期に、なぜ「高専」だったのでしょうか。

**糸村：** 私も、何人もの県外産業界の方々から、「何故、今、高専なのですか？」と聞かれました。国立高専が全国に設置された昭和30年代、沖縄はまだ米国民政府の統治下でしたし、本土復帰した昭和47年当時は、琉球政府立琉球大学を国立大学に移管するための整備充実が急務で、高専設置の話は当時の沖縄には全く無かったと聞いています。昭和49年



伊東 繁

Shigeru Ito

の徳山高専と八代高専の創設以降、文部省内の方針が変わったのか、国立高専の新設はありませんでした。琉球大学の整備が進み「沖縄にも高専の設置を」との要望が出てきた頃には、沖縄も例外ではなくなっていたと思います。それなのに、「沖縄への高専設置」が陽の目を見るのは、沖縄振興に力を注いだ当時の橋本首相の鶴の一声だろうと聞いています。100項目近い沖縄振興策の一つとして、琉球大学は当時の文部省に大学の整備充実を要望していましたが、沖縄県は国立工業高等専門学校の誘致を内閣府に要請し、北部振興などの観点から、高専の設置が急浮上したのだと思います。

**司会：** 平成12年4月1日から平成14年9月30日まで、国立高等専門学校（沖縄）創設準備室が置かれたのですね。

**糸村：** 沖縄県に国立の高専を創設するための準備を行うという意味で、準備室の名称がこのように付いていたようですが、この時にはまだ「工業」が入っていません。工業系学科以外の学科の設置も許容されるようにとの含みがあったようです。実際、沖縄県が県内各団体からの要望として挙げていた設置が望まれる

6分野の中には、物流関係のいわゆる文系学科もありました。

沖縄の特色を活かした将来的に期待できる分野として、バイオ関連、環境関連、物流関連の3分野、技術の高度化に対応した人材の育成が必要とされる分野として、マルチメディア関連、機械・電気関連、土木建築関連の3分野でした。

**司会：** 文系の学科も検討されていたことは存じませんでした。

**早坂：** 創設準備調査室から創設準備室に、また、委員会も同様に創設準備委員会と改められました。この委員会に教育面と施設設備面を専門的に検討するための部会を設け、具体的な検討を開始しました。平成12年8月には中間まとめを公表し、県内外の関係者の意見等を聞きつつ、さらに委員会で議論を重ねてきました。

沖縄高専は、沖縄県や名護市の強い要望により創設することになったのですが、その後、沖縄県の沖縄振興計画の中にも高専の設置が位置づけられ、沖縄高専への期待は非常に高いものがありました。名護市議会や沖縄県議会でもたびたび審議されていたようです。

また、森田琉大学長（当時）をは

じめ創設準備委員会委員や部会委員も相当な熱意を持たれており、精力的な議論をいただきました。

創設に関係する機関等も、準備室の置かれた琉大をはじめ、文部科学本省、福岡工事事務所、内閣府、沖縄総合事務局、沖縄県、名護市、辺野古地区の方々、地権者の方、県工業連合会、沖縄電力株式会社等々、非常に多くの機関、方々が関わっていました。準備室が接した方々はどなたも沖縄高専の創設に好意的で、それぞれの立場から協力を惜しまないという姿勢には非常に心強い思いでした。本日の座談会でぜひ話さないといけないと思っていた一つですが、各方面から大勢の方々の理解と支援があったからこそ沖縄高専が誕生したということです。

**司会：** 一つの新しい学校が誕生するまでの大変さがよくわかりました。

を込めて一字一句を精査したものです。

高専は、県民一般の方にはもちろん馴染みがなく、中学校でも高専という高等教育機関はポピュラーとは言えない状況にあったので、様々な層の方に知ってもらうことも課題でした。

**司会：** 広報は、現在でもまだまだ十分とは言えないかもしれません。

**早坂：** ポスターやパンフレット、リーフレットを大量に作成し、県内の公的機関や施設に掲示あるいは配布してもらうほか、沖縄の産業まつりでは準備室スタッフが土日出勤でリーフレットを一般の来場者に配るなどもしました。

創設準備室の業務も広範にわたり、午後11時や12時に帰ることが常態化する時期もしばしばありました。文科省への説明、相談に行く際には、徹夜で資料を作成することが

多く、準備室スタッフの頑張りには頭が下がる思いでした。

**知花：** 県民の皆さんに沖縄高専を知ってもらうために、ポスターやパンフレットは本当にたくさん配布しましたが、印象に残っているのは、理容室・美容室にも置いてもらったことです。

理容室や美容室は、中学生も含めて子供からお年寄りまで1~2ヶ月に1回は必ず利用するので、リーフレットを置けば効果は大きいと思い、沖縄県の理容業・美容業の組合に協力を依頼して、全県の加盟店に配布してもらいました。配布を依頼して数週間後に馴染みの理容店に行くと、沖縄

高専のリーフレットが貼ってあり、思わず理容師さんに「ありがとうございます。」と言いましたよ。本当にいろいろな方々にご協力いただきました。

**司会：** 理容室・美容室に配布するとは、素晴らしいアイデアでしたね。

## 沖縄高専開学される！

**司会：** いよいよ平成14年4月10日「国立学校設置法の一部を改正する法律」が公布され、校名と開学時期（平成14年10月1日）、1期生受け入れ時期（平成16年4月）が決まり、創設準備室から「沖縄工業高等専門学校」となったのですね。その頃は、事務室の場所はまだ琉球大学でしたか。

**糸村：** まだ琉球大学でした。平成14年10月には、間借りしていた琉球大学事務局の玄関前に、早坂さんと一緒に「沖縄工業高等専門学校事務室」の看板をかけました。

**司会：** その写真を見たことがあります。それで早坂元事務長とは本日初対面でしたが、どこかでお会いしたような錯覚がありました。

**早坂：** 開学時期が決まったということで、さらに急ピッチで準備を進める必要がありました。創設準備の仕上げの時期で、5月と6月には、部会と委員会を合計8回という強硬日程で開催し、検討の集約を進めたということもありました。このときは会議前後の整理時間が短くて、さすがにきつい思いをしました。

また、開学記念として何らかの行事を行うことにしましたが、沖縄高専の風土文化の元として華美に思わず、実質的に意味のある行事をしよ



早坂 勇二  
Yuji Hayasaka

**早坂：** 創設の基本的考え方は、創設準備委員会の「最終まとめ」にまとめられています。非常に簡潔な内容となっていますが、会議は教育と施設の部会も含めて合計28回行い、その結論は従前の大学創設の例に倣って短い文章に集約したもので、委員会でもその思い

うと、名護市民会館でシンポジウムを行うことにしました。

技術者教育の在り方や沖縄高専の構想をアピールすることを第一に、基調講演はノーベル賞受賞者をお願いできないかと複数の方に打診しましたが日程的に都合が合わず断念しました。そこで、日本の製造業の代



糸村 昌祐

Shosuke Itomura

表的な企業である日本電気株式会社の佐々木元代表取締役会長（社団法人日本工学教育協会会長）に基調講演をご快諾いただき、10月24日に開催することができました。シンポジウムには名護市内の中学生も招待し、県内外から多数参加いただき、引き続いての祝賀会も質素な料理しか出しませんでした。多くの方々の出席を得て盛会なイベントとなりました。

**糸村：** 講演謝金は既定の金額しか準備できなかったのですが、ノーベル賞級の方の場合、100万円という話もありましたね。佐々木会長は、謝金・沖縄への出張費とも不要と辞退され、まさに手弁当で講演してくださいと記憶しています。

**司会：** その開学記念シンポジウムのことは、名護市広報「市民のひろば」でも、詳しく報道されましたね。その後のパネルディスカッションは、「沖縄高専と沖縄の可能性について」というテーマで行われ、コーディネーターとして島袋秀光氏（沖縄県

広報アドバイザー）、パネリストとして四ツ柳隆夫氏（国立高等専門学校協会会長）・上間恒義氏（沖縄県工業連合会副会長）・仲田美加子氏（沖縄県市町村教育長協会会長）・牧野浩隆氏（沖縄県副知事）・岸本建男氏（名護市長）、そして糸村先生がご参加されていましたね。

※（ ）は当時の役職

**城間：** その頃私は教務係長でしたが、限られたスタッフで多岐にわたる業務をこなさなくてはならなかったため、シンポジウムや平成14年8月の造成起工式などの企画・運営、施設の事を考えたり、図書を琉球大学から借りたりするなど

一人何役もの仕事をしていました。本校の建設予定地には39名の地主の方がいらして、交渉・調整が大変でした。

**司会：** そんなに大勢の地主の方がいらっしたんですか。

**知花：** 平成15年3月には、NTT西日本名護営業所内の一部を借り上げ、事務室を名護市内に移転しました。

余談ですが、平成16年3月には校舎が完成して、事務室を現在のメディア棟に移転するわけですが、移転する日に、仮事務所のあった名護市大東から辺野古までの約12kmを、事務室の看板をたすき代わりに担いでリレーする「引っ越し記念駅伝」をやりました。

4月の入学式・開校式に向けて大変忙しい時期でしたが、教職員ほぼ全員が参加しました。真新しい事務室に初めて足を踏み入れる最終ランナーは、糸村先生でしたね。

**司会：** 感動的なエピソードですね。私たちにも今でも感動が伝わります。

## 文系学科案消え最後に生物資源工学科が入って4学科に！

**司会：** 平成14年5月以降、新川先生、真鍋先生、鈴木先生、高野先生（現在琉球大学）と順次採用されたのですね。その頃は本校が開学していないので、琉球大学教授沖縄工業高等専門学校創設準備室という肩書きだったとか。

それでは、「最終まとめ」を参考にしながら伺います。「沖縄工業高等専門学校」という校名はどのように決定されたのでしょうか。

**糸村：** 準備室設置の段階では校名は決まっておらず、「工業」高専となるのかどうかも決まっていませんでした。どのような学科構成になるか不明であったためと思われます。といいますのも、シンクタンクが報告書をまとめる2年前に、株式会社三菱総合研究所が報告書をまとめ（「沖縄県における高等教育の実態とニーズに関する調査 報告書」平成10年3月）、工業系学科以外に「経済」や「流通」などの文系学科も考えられていたからです。

**司会：** 文系学科も検討されており、どのような学科構成になるか不明のため、当初は工業高等専門学校になるかどうか決まっていなかったということですね。

**糸村：** 創設時に設置すべき学科として四つの学科名が決定されてから校名に「工業」が入りました。情報2学科に加え、「ものづくり」の重要性から「機械」を入れることが認められました。沖縄県の将来構想として「バイオ」が産業界のリーダーになるのではないかと、創設準備委

員会のメンバーからの強い提言があり、沖縄県側からの要望も加わって、最後の「生物」を認めていただきました。文科省は3学科ではなかったのかと私ども準備室に反発がありましたが、最終的には4工学科設置、沖縄工業高等専門学校となったわけです。

**早坂：** 校名は「名護工業高等専門学校」とか「沖縄北部」をつける案なども検討されましたが、他高専の名称も参考にしながら、沖縄県全体の振興が趣旨であり、全国的にも分かりやすい名称が良いという理由で創設準備委員会で決定されました。

**糸村：** 「うるま工業高等専門学校」という案もありましたね。

**司会：** 学科が決まる過程で、「最終まとめ」の学科の順番が「情報」「メディア」「機械」「生物」となっているのですね。今では「機械」から始まる順番なので不思議でした。文系の学科案はどうして消えたのでしょうか。

**糸村：** 「流通」「経済」が消えたのは、同様の学科がすでに名桜大学など沖縄県内の大学にありましたが、就職先が限られており、就職が難しいのではないかと意見があったためです。「土木」は、琉球大学にあり、就職先は公務員が多く、やはりこれも就職が難しいのではとの意見があり、採用されませんでした。

**司会：** それで現在の4学科に。

**早坂：** そのあたりのことを詳しく述べたいと思います。沖縄高専が4学科を設置することになったいきさつですが、まず、平成11年9月に沖縄県から設置候補地の推薦とともに、情報通信系の学科の要望が出されていました。

委員会では、先ほどお話ししましたシンクタンクの調査報告書も参考に、沖縄振興のための高専としてど

んな学科がふさわしいかというテーマに対して、まず沖縄県から要望のあった情報工学系で、ハードとソフトをそれぞれ専門とする情報通信系とメディア系の2学科とモノづくりの基本である伝統的な機械系の3学科を設置するのが良いという議論で進んでいました。

情報通信システム工学科、メディア情報工学科、機械システム工学科の3学科にまとまりかけていたところ、委員から、沖縄の産業振興の観点から、沖縄らしい学科、沖縄の特色を生かす学科があるべきとの強烈的な意見が出されました。ほんとうに議論が収束しかけていた時期で、文科省との調整を重ねてきた準備室の立場では絶句状態でした。

**司会：** 最初は3学科を検討していたということですか。「生物資源工学科」が入ってくる経緯には驚きです。

**早坂：** そのころ、文部科学省では委員会の議論の経過を踏まえつつ、3学科の設置ということで省内関係部署の合意も得られ、後年度の予算等のシミュレーションなどを終え、法律改正などの諸準備が進められていました。文科省専門教育課の担当補佐や課長、関係の方々も青天の霹靂という状態で、非常に困惑されたようです。さらに1学科の増となると、必要な人員や施設設備の規模、開学後の運営コストなど、様々な見直しや後年度の負担増になるので、省内では厳しい意見がかなりあったようです。

委員会での熱心な議論の末に、亜熱帯性の気候、地理的条件下の生物が豊富であるという沖縄ならではの特色を生かすため、4番目の生物資源工学科を設置することを提言するに至り、文科省にも最終的には4学科設置に理解・了承していただきました。

**司会：** 現在の4学科になるまでには、紆余曲折があったんですね。

## なぜ辺野古へ？

**司会：** よく言われることですが、なぜ「辺野古」の地に創設されたのでしょうか。

**早坂：** 沖縄県に国立高等専門学校を設置したいという希望は、昭和50年代からあったようです。沖縄県議会の議事録などを参照していただければ、芸術大学と並んで設置構想を打ち出していたということが分かります。しかし、当時、国、文科省は高専の増設より教育の質の向上に軸足を置いていたので、新設は厳しい状況にありました。その後も県議会では、沖縄県工業立地促進条例の制定や中堅技術者養成の必要性、沖縄県の子どもの修学機会均等、経済的負担軽減の観点から、国立高専の設置は必要であるとの議論がされています。

平成8年に策定された「沖縄振興開発の課題と展望」では、技術者養成のための高等教育機関の設置を検討していくとされ、沖縄県の産業振興と雇用の促進を図り、経済の自立的發展を目指していくためには、技術力の向上と産業技術の高度化に対応し得る専門技術者の要請は重要で、そのための専門教育機関の設置は緊急の課題と考えられていました。このような経緯や背景から平成9年6月に沖縄県から文部大臣、沖縄開発庁長官に対し設置の要望がありました。この直前には、名護市から県に対して久志地区への誘致について陳情されているようです。

その後、国、沖縄県ともに、沖縄振興において県土の均衡ある発展、北部地域の振興開発が重要との認識が示されて高専の設置も現実味を帯





び、平成11年には、沖縄県から国に対して名護市辺野古地区が適地であるとして候補地の推薦がありました。県によれば、名護市からの強い要請、北部振興会や国立高専設置促進期成会などからの同様の要請をも踏まえ、名護市への設置は北部振興につながり、県の均衡ある発展に望ましいこと、県内の高等教育機関は北部地域には名桜大学1校で配慮が必要であること、名護市東部地域の振興を図っていくことを名護市及び北部市町村全体が要望しており北部圏域全体の発展につながるものと期待されることなどを挙げ、要するに、沖縄県の均衡ある発展や教育の振興を図る観点から名護市辺野古区が適地であると判断したとされています。

**司会：** それでなぜ辺野古が挙げたのでしょうか。

**早坂：** 当時の名護市の担当者から聞いたところでは、名護市では、大学等特別委員会が中心となって、他の高専の視察、調査なども行い検討を進めていましたが、久辺三区からも高専設置の強い要望もあり久辺三区に設置する、その場合、高専に必要な広さの用地を確保するには現在地しかなかったということでした。

国が国立の高等教育機関を設置する場合、用地買収など準備から設置後の教育環境の保持、円滑な学校運営に至るまで、地元自治体等の協力はできません。沖縄高専の場合は、創設準備委員会として現地視察も行いましたが、沖縄振興、北部振興を趣旨としていることから、名護市や県の結論を踏まえた要望や推薦を尊重して辺野古区に設置することを提言したのが実情です。

**糸村：** 森田委員長は、創設準備委員会として設置位置を検討しようにも、県知事から文部大臣に推薦されている候補地は一箇所しかないのだからと、最終まとめに沖縄県から文部大臣に対して推薦のあったと前置きをして、「沖縄県名護市辺野古地区（辺野古集落北側に隣接する港原一帯）とする、としましたね。

**司会：** それで辺野古になったのですね。

**糸村：** 国立学校設置法の一部を改正する法律案の審議を行った衆参両院の文教科学委員会では、「沖縄工業高等専門学校の設置予定地は、米軍基地（弾薬庫、演習地）に隣接しているのみならず、普天間飛行場代替施設の建設予定地に隣接していることもあり、教育環境に影響が及ぶ

懸念がないとは言えないが、沖縄の特殊事情も勘案し、学校の建設及び運営については学生の安全を第一に、万全の配慮をしつつ計画を進めること」というような内容の付帯決議がついていたようです。

## 国道をまたいでブリッジ建設！

**司会：** 現在の建物を建築するまでのご苦労、デザインについて、何か工夫されたことはありましたか。施設・設備の方針や計画はどのようなものだったのでしょうか。校舎、図書館、体育館、学生寮、専攻科棟など。また、校舎と寮を結ぶブリッジなどもかなり斬新な設計だと思いますが。

**早坂：** 創設準備委員会の議論を踏まえて、沖縄県の技術者教育の拠点として、象徴的な建物としてインパクトのある校舎にする必要があること、従前の高専のイメージを脱皮した斬新な建物にすることが基本にあり

ました。物理的には、候補地は、国道を挟んで飛び地となっていますが、高専として必要な施設を敷地内

に収めること、自然環境に配慮して土地の形状を生かしつつ、敷地からの土の搬出搬入は行わないことなど、様々な条件の下に検討しました。

司会： 何もないところに建設するのは大変でしたでしょうね。

早坂： 中でも土地の形状や土の搬入搬出はしないという制約は避けられず、琉大施設部にいくつかの案を検討してもらいました。飛び地の使い方も複数の案を考えてもらいましたが、教育機能を勘案すると校舎はまとまりをもたせ、学生寮を飛び地に建設し、校舎とはブリッジで結ぶというアウトラインを描きました。寮の学生が毎日国道を横切る危険性もありブリッジの構想は当初からありましたが、この時点ではブリッジ

番高い辺野古区側から入る方法、橋の付け根から入る方法、中央の窪んだ場所から入る方法の3通りが示されました。この3通りの案をいろいろな角度から吟味すると、中央からカーブを描いて上っていく現在のアプローチを取り、校舎は両翼に延びて奥に重層的な建物というイメージとなりました。それを下手なスケッチに描き福岡工事事務所に送ったところ、きれいな建物の外観図（パース）ができあがり、具体的な設計も進められることになりました。

このほかにも、敷地内には沖縄電力の送電鉄塔や水神様があり、その移設の対応もありました。

司会： 水神様の移転は大変だったのではありませんか。

知花： しかるべき人に頼んでしっかり行いました。

司会： 川が流れていたのも埋め立てたとか。

糸村： 現在の正面の大きな階段から寮のC棟下を流れていました。校舎・寮建設予定地には川が3本あり、すべて埋め立てました。

早坂： 送電鉄塔の移設については、敷地の奥（北側）は米軍の使用地で手続きや時間的に困難さがあり、辺野古地区側（南側）は住宅地となっている上、寮からの景観を損ねるので道路に埋設という案もあったのですが、費用がかかりすぎるといって、やむを得ず現状の位置に移設することになりました。送電線を埋設できず鉄塔が残って景観を損ねてしまったことは残念な思いですが、ここでも、辺野古区

の方々の理解があって、それぞれの移設ができました。

## PBLの導入へ

司会： 「教育課程」「技術者教育」の効果的な教育方法についてはどのようなお考えで、お決めになられましたか。

真鍋： 全体の教育方針・カリキュラムについては、当時の在籍教員全員でずいぶん討議をしました。特に「自己学習力や応用のための基礎力の育成」をまず大切に考えました。

また、チームで課題解決を図り、プレゼンテーション能力の育成を図れる「PBL方式の授業」を全学科で導入し、本校教育方針の「目玉」にしました。

新川： 本校の学生のプレゼンテーション能力の高さは、ここで培われていると思います。

糸村： 同感です。

## 必死に学生募集を

司会： 初めての学校ということで、「学生募集」はご苦労されたかと思います。先ほど早坂元事務長のお話にもございました。1期生の試験会場のうち、北部は北部農林高校をお借りしたと聞いています。

鈴木： 沖縄県では今まで「高専」がなかったので、イメージが薄く、他高専の例を出して説明しました。当時も就職環境は厳しい状況でしたが、その中で「高専」は就職率がいいと言っても、開学前の沖縄高専には卒業生の就職・進学の実績がないわけですから、実感



知花 恭史  
Yasushi Chibana

を造るには国道事務所との協議もあり、予算もそこまで認めてもらえるのかという心配もありましたが、施設係長などが何回も足を運んで設置できたものです。

司会： 寮生たちが雨の日も濡れずに登校できるのはブリッジのおかげですね。

早坂： アプローチ（入り口）は国道からしか入れない地形なので、考えられるのは3か所、すなわち、一

を持っていただくのが難しかったのです。

**新川：** 名護の中学生で他高専に進学した子のコメントを学校案内パンフレットに載せたりしていました。中学校長の会合や中学校の先生方の集まり、産業祭りなど機会を見つけ



真鍋 幸男  
Yukio Manabe

ては説明させていただきました。

**真鍋：** 当時は県内のメディアが熱心に取り上げてくださいました。新聞では教員一人一人へのインタビューの連載企画もありました。学校説明会場はどこもいっぱい、会場を増やしたこともあります。たくさんの方に興味を持っていただけたと思います。これからの学生募集も、マスコミをもっと活用して広報すると応募倍率も今より上がるのではと思います。

**鈴木：** 1期生の卒業生が良い成果を上げてくれましたが、それをもっとPRした方がいいと考えます。

**司会：** 入学者選抜の方法については、どのようなお考えがあったのでしょうか。

**新川：** 高専の学力検査問題は全国統一ですが、推薦選抜や内申書の評価については、他高専や県内の進学校を参考に「基準」を定めました。

**司会：** 「地域連携・連携協力」については、どのような構想がございましたか。

**糸村：** 創設準備委員会の委員として参画して下さった沖縄県経済団体会議議長や沖縄県工業連合会会長の方々から、委員会開催中に、「国

立であれば、予算は限られているだろう。創設後も産業界として支援したい。」との言葉をいただいていた。沖縄高専の開校・第1回入学式のスケジュールが秒読みになった段階で、まずは工

業連合会に事務局を置く形で沖縄高専産学連携協会組織を立ち上げ、平成16年4月28日の設立総会に漕ぎ着けていただきました。1社3万円の年会費で、個人は1万円、現在130社から150社のご協力を得ています。

沖縄高専産学連携協会の立ち上げに際し、初代の協会会長（沖縄県工業連合会会長）殿から、「高専を創って終わりではない。今後も支援する必要がある」との力強いご協力の言葉と、ロボコンの全国優勝を期待するとの激励に身が引き締まる思いだったのを覚えています。2期生を主体とするチームが全国優勝を果たしてくれた時は、県内産業界の期待に応えられたという思いでいっぱいでした。

**司会：** その他の具体的な活動についてはどうですか。

**屋良：** 地域共同テクノセンターが

中心となって行っています。出前授業、産業界・地域公共団体との共同研究、「ALLやんばる科学と教育のまちづくり」、公開講座など地域との連携は今後もさらに発展して続いていくと思います。

## 関係諸機関との折衝は？

**司会：** 創立までは、様々な関係諸機関との折衝があったと思います。国（文科省・内閣府）総合事務局、沖縄県、名護市、琉球大学、辺野古区との折衝はどのようなご苦労がございましたか。

**早坂：** 毎月1回は文科省、主に専門教育課と文教施設部ですが、検討状況や進捗状況の報告と相談に行き、施設整備の経費は内閣府予算で措置されるという前例のない形で進められていた

ので、沖縄総合事務局にも足を運んで状況説明をしていました。

用地買収は名護市が行うことになっていましたが、地権者が本土にいてなかなか接触できない等、思った以上に進まず、名護市の担当者には何度もクレームをつけたりしましたが、今思うと一生懸命努力されていたのに申し訳なかったと反省しています。そのほか、先ほどお話しした鉄塔移設、ブリッジ設置などの特別な事案から些細なことまで多岐に渡りますが、折衝での苦労というより、関係する法令や制限などの知識不足、経験不足により、教えてもらいながら対応を考えることの気苦労が多かったような気がします。振り返れば、一つ一ついろんな方々の協力が思い起こされ、関係された方々には感謝したいと思います。

# 1期生を迎えての思い

**司会：**平成16年4月1期生を迎えた時の思いをお聞かせください。

**糸村：**教職員、校舎そして学生と三者が揃って初めて「学校」になり、ようやくスタートできて嬉しい思いでした。授業は持ちませんでしたから、学生の顔と名前をみな覚えるというわけにはいきませんでした。1期生に対しては特別な思い入れがあります。1度だけです。学生寮宿直の経験もし、第1回高専祭、第1

回体育祭、1年生だけでのロボコン九州地区大会参加など、どれも思い出多いものでした。それだけに1期生の卒業式の感激はさらに大きく、彼ら、彼女らとの別れは万感胸にこみ上げるものもありました。

校舎・寮がまだ半分しかできていなくて、パーティションで仕切られており、学生たちには工事現場は危険だから近寄らないようにと注意していました。

**新川：**高専の事務の方たちも私たちと心をつにして一緒に仕事をしていました。学生たちは個性豊かで、すべての学生を教えて、教える喜びを実感しています。

当時私は学生主事をしていましたが、何か指導することが生じた学生は、校長室に呼び、校長から直接お言葉をいただきました。

**司会：**学生がまだ少ない時代でしたから、それはありがたいですね。

**知花：**入学式の前日ようやく学生寮の畳が納品されました。しかし、畳は拭かないとすぐカビが生えるということで、職員総出で午前3時頃まで170名分の畳を拭いたことを、たった今思い出しました。

**城間：**1期生の試験に関して、問題の部数や試験会場の教室数など、すべて予想が難しく大変でした。開校式そして1期生の入学式を迎えたときは、ほっとした思いでした。

**早坂：**この時はすでに高専を離れていましたが、入試倍率も高く、名実ともに

沖縄の方々に高専が受け入れられたと安堵すると同時に、実際に学生を受入れるには具体的なカリキュラムや教育設備・機器、備品のほか、運営に関わる多様なルールやソフトを準備しなければいけない訳ですが、糸村先生の下に、各先生方と事務スタッフのご尽力はいかほどのものか

と想像していました。

学生あっての高専ですから、本当の意味で沖縄高専が誕生し船出したという思いでした。

## 最後に

**司会：**最後に言い残されたことなどがあればお願いします。

**鈴木：**沖縄高専の「目玉」として、全員にノートPCを持たせるということで、ネットワークの構築を一生懸命やりましたが、現在はどうなのでしょうか。お聞かせいただけたらと思います。

**司会：**それは後ほど触れることにします。

**糸村：**学生が「二極化」しているのではないかと思います。ますます少子化が進む中で解決策はないものかと考えています。

**新川：**一人一人素直な学生ばかりです。入学したからには、伸ばせる力量は備わっていると思うので、それを伸ばしたいと思います。

**知花：**寮務係長を現在していますが、保護者と話す機会が増えました。高専は大切な時期の学生を育てているということを常に念頭に置いて、職務遂行にあたりたいと思います。

**早坂：**これからも沖縄高専の歴史を重ねられると思いますが、10年前とは環境が大きく変わり、今日では、学校や人材のグローバル化が大きなテーマとなっています。

一方では、沖縄県民の声として、卒業生の7～8割が県外に就職している現状から、沖縄高専で育った優秀な人材が流出しその損失を懸念する声もあるようです。

僭越ながら、今後も沖縄高専における技術者教育はどうあるべきなのか、何をすべきなのか、何ができる



鈴木 龍司  
Ryuji Suzuki

**鈴木：**無我夢中でした。入学式の受付の時、沖縄独特の名字が読みにくかったです。ゼロから開学まで取り組んで、ようやく1期生を迎え、うまく育って欲しいと願いました。

**真鍋：**学生募集でも倍率が高く、優れた学生が入学してくれたと思いき感激しました。

のか、何をしたいのか、伊東校長の下、教職員が一丸となって追求し、沖縄県民も納得できる答えを見いだして一步一步、着実に進んでいただけたらと思います。

**城間：** 伊東校長のトップセールスによる中学校訪問に付き添って、今までの本校の実績があまり知られていないと実感しました。地域によっては沖縄高専は「あこがれ」であり、また、別の地域では全く知られていないという実態があります。いい学生にたくさん入学してもらえるよう、これからも頑張りたいと思います。ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

**真鍋：** 退職者が出てきて、全国に散らばっています。これを活用して全国に進学・就職した卒業生のフォローができるような仕組みを作っていただきたいと思います。

**司会：** 本日はありがとうございました。これからも沖縄高専の未来を見守っていただけたらと思います。最後に伊東校長からお礼を申し上げたいと思います。

**校長：** 本日は創立までのこと、1期生を迎えての思い、様々なご苦勞をお聞かせくださり、身がひきしまる思いです。諸先輩たちのご努力を無駄にすることはできないと新たに思う機会となりました。

第1学年からノートPCを持たせることについては、現在検討中です。沖縄県の156校ある中学校のうち118校は直接訪問しましたが、本校については、意外と知られていないと思いました。数学が苦手な学生には、専攻科の学生がTAをして教えることもしています。

次の10年をどう発展させていくか、教職員一丸となって取り組んでいきたいです。本日は誠にありがとうございました。



# 歴代教職員名簿

50音順

糸 村 昌 祐  
12.3.1-22.3.31

伊 東 繁  
22.4.1-

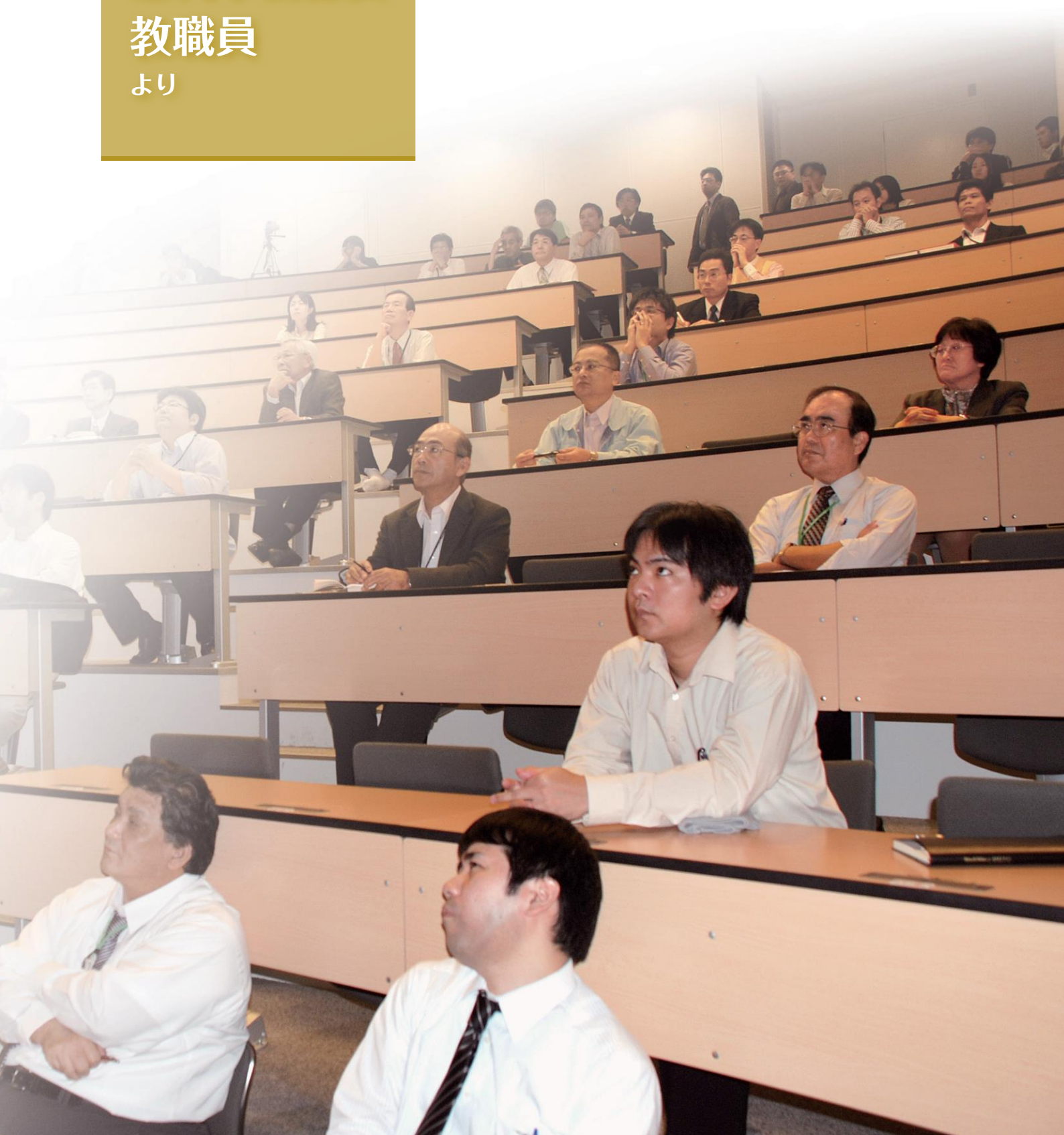
青 木 久 美 16.4.1-	稲 福 太 一 22.7.1-24.3.31	小 渡 志 保 子 24.7.1-	金 城 桃 子 16.4.1-19.3.31	島 袋 朝 輝 24.4.1-	高 嶺 司 18.4.1-25.3.31
青 柳 亮 吾 17.4.1-21.3.31	稲 福 真 21.7.1-23.6.30	折 尾 信 幸 21.4.1-24.3.31	具 志 孝 17.4.1-	島 元 香 織 24.2.20-	滝 雅 士 19.4.1-24.3.31
赤 嶺 雅 哉 17.4.1-20.6.30	伊 波 俊 雄 15.4.1-18.3.31	嘉 数 絵 都 子 18.12.1-21.6.30	工 藤 雄 博 19.4.1-24.3.31	下 郡 剛 17.4.1-	武 田 ひ と み 21.4.1-
安 里 健 太 郎 23.4.1-	伊 波 靖 16.4.1-	嘉 数 久 乃 21.4.1-	久 保 田 隆 弘 23.7.1-	下 地 栄 24.4.1-	武 村 ク 二 子 21.4.1-25.3.30
安 里 美 波 22.4.1-25.3.31	伊 良 波 望 23.6.6-	賀 数 幸 隆 16.4.1-19.6.30	久 米 大 祐 24.11.1-	下 嶋 賢 21.4.1-	武 村 史 朗 19.4.1-
姉 崎 隆 19.4.1-	上 江 洲 成 雄 13.4.1-17.3.31	河 西 愛 次 16.4.1-17.12.31	藏 屋 英 介 17.4.1-	城 間 弘 充 14.4.1-17.3.31 23.4.1-25.3.31	嶽 本 あ ゆ み 24.4.1-
網 谷 厚 子 20.4.1-	上 原 恵 美 16.4.1-19.3.31	春 日 透 17.4.1-20.6.30	栗 延 敏 徳 22.4.1-25.3.31	城 間 義 尚 20.4.1-25.3.31	多 田 千 佳 17.4.1-20.3.31
新 川 智 清 14.5.1-25.3.31	上 原 清 25.2.1-	金 谷 辰 昭 16.4.1-19.3.31	小 池 寿 俊 15.10.1-	新 里 牧 16.10.12-	田 中 克 也 17.4.1-20.3.31
新 田 保 敏 22.4.1-	上 原 信 彦 12.3.1-13.3.31	兼 城 千 波 19.4.1-	古 賀 義 伸 16.4.1-19.3.31	神 馬 真 裕 16.8.1-17.3.31	田 中 徹 25.4.1-
飯 島 淑 江 25.4.1-	内 山 亮 18.1.1-19.3.31	神 里 志 穂 子 18.4.1-	古 謝 有 紗 20.7.1-22.6.30	末 吉 智 恵 美 19.4.1-	田 中 博 23.4.1-
飯 田 智 行 20.4.1-23.3.31	浦 崎 清 伸 14.4.1-15.3.31	神 谷 隆 彦 17.4.1-21.6.30	古 謝 久 美 子 19.4.1-21.9.30	杉 本 和 英 21.10.1-	田 中 隆 治 19.4.1-21.3.31
池 原 智 子 23.7.1-	運 天 誠 23.4.1-25.3.31	神 山 は る か 23.7.1-	小 早 川 倫 広 20.4.1-21.3.31	鈴 木 極 19.7.1-22.6.30	棚 原 翔 24.4.1-
池 松 真 也 18.4.1-	大 石 敏 広 18.4.1-25.3.31	神 山 勝 18.4.1-19.6.30	佐 加 伊 裕 也 18.6.16-	鈴 木 大 作 21.4.1-	棚 原 盛 行 18.4.1-21.3.31
池 宮 城 香 25.4.1-	大 里 祥 子 20.7.1-22.6.30	川 満 信 男 22.4.1-25.3.31	坂 下 和 也 20.7.1-22.6.30	鈴 木 龍 司 14.8.16-21.3.31	田 邊 俊 朗 18.4.1-
伊 佐 泰 子 18.4.1-18.6.15	大 城 登 樹 子 24.4.1-25.3.31	岸 本 智 15.4.1-18.3.31	崎 原 航 20.1.1-21.3.31	角 田 キ ャ テ ィ ー 17.4.1-	玉 城 龍 洋 22.4.1-
伊 地 信 人 19.4.1-	大 城 林 23.7.1-	岸 本 尚 子 22.4.1-	崎 山 英 樹 18.4.1-21.6.30	角 田 正 豊 15.4.1-	玉 城 均 17.4.1-20.6.30
石 川 清 史 18.4.1-21.6.30	太 田 佐 栄 子 18.4.1-	喜 瀬 慎 一 郎 25.4.1-	崎 山 用 順 12.3.1-13.3.31	平 良 淳 誠 19.4.1-	玉 城 守 15.4.1-17.3.31
石 川 洋 次 郎 14.4.1-17.3.31	大 嶺 千 代 美 19.4.1-21.3.31	北 上 丈 夫 17.4.1-19.12.31	佐 竹 卓 彦 17.4.1-	平 良 直 人 18.4.1-	玉 城 康 智 17.4.1-
石 田 修 己 18.4.1-24.3.31	大 嶺 幸 正 22.4.1-	木 村 和 雄 18.4.1-	佐 藤 尚 20.10.1-	平 良 喜 彦 15.4.1-18.3.31	玉 城 優 奈 24.2.20-
磯 村 尚 子 20.6.1-	尾 方 亮 日 20.7.1-23.6.30	喜 屋 武 由 香 21.6.1-	座 波 世 一 20.7.1-23.6.30	高 江 洲 文 枝 16.4.1-18.3.31 25.4.1-	多 和 田 真 利 15.4.1-18.3.31 21.4.1-23.3.31
射 手 矢 涼 子 18.4.1-21.7.16	荻 野 正 25.1.1-	許 田 正 勝 18.4.1-21.6.30	澤 井 万 七 美 17.4.1-	高 江 洲 み な 子 12.3.1-15.3.31	タ ン ス リ ヤ ボ ン ス リ ヨ ン 19.4.1-
伊 東 昌 章 20.4.1-	奥 田 篤 士 17.4.1-19.9.30	金 城 伊 智 子 21.4.1-	三 宮 一 宰 19.4.1-	高 木 茂 16.4.1-	知 念 幸 勇 17.4.1-
糸 数 康 24.7.1-	奥 間 多 江 子 15.4.1-17.3.31	金 城 邦 光 24.4.1-	塩 屋 仁 史 17.4.1-20.6.30	高 野 良 14.7.1-19.8.31	知 念 隆 25.4.1-

知念直紹 15.4.1-21.3.31	仲松直美 24.3.1-	畑添壮一 17.4.1-20.3.31	星野恵里子 25.4.1-	三浦敬 19.4.1-20.3.31	屋宜直行 16.4.1-19.3.31
知念芳和 19.7.1-22.6.30	中村絵理子 16.8.1-19.6.30	鉢嶺元安 21.7.1-23.6.30	本田愛 25.4.1-	水野正志 18.4.1-21.3.31	山城光 19.4.1-
知花恭史 13.10.1-17.3.31 23.7.1-	仲村剛 17.4.1-20.6.30	濱田泰輔 15.4.1-	前里桂吾 25.1.1-	三枝隆裕 17.4.1-	山城秀之 18.4.1-25.4.30
津村卓也 25.1.1-	中村範章 22.7.1-24.6.30	早坂勇二 12.3.1-15.3.31	真栄田恵美 25.4.1-	宮城かおり 24.12.1-	山田親稔 19.4.1-
釣健孝 16.4.1-23.8.31	中本正一朗 18.4.1-	比嘉修 18.4.1-	前山由香里 21.9.1-	宮城元 22.4.1-23.3.31	山本寛 16.4.1-
出村千恵子 15.4.1-18.3.31	仲山晋一 18.4.1-22.3.31	比嘉勝也 20.4.1-	眞喜志治 18.4.1-	宮城美佐枝 15.1.1-18.3.31	屋良朝康 16.4.1-
照屋ひとみ 21.10.1-24.3.31	名嘉山リサ 19.4.1-	比嘉桂 23.7.1-	眞喜志隆 16.4.1-	宮城安暉 19.4.18-	横山貴史 25.2.1-
渡久地政信 13.4.1-16.3.31	名城道広 21.7.1-23.6.30	比嘉健太郎 24.4.1-25.3.31	眞喜志睦 17.4.1-20.6.30	宮田恵守 18.4.1-	吉川友子 21.7.1-
渡名喜一夫 13.4.1-16.3.31	成田誠 20.1.1-	比嘉信 18.4.1-	政木清孝 19.4.1-	宮成隆明 19.4.1-24.3.31	吉永文雄 18.4.1-23.3.31
鳥羽弘康 20.4.1-	南部元義 19.4.1-24.3.31	比嘉隆幸 17.4.1-20.6.30	正木忠勝 16.4.1-	宮藤義孝 18.4.1-	吉原安久 25.4.1-
當山弘 25.4.1-	西村篤 17.4.1-	比嘉道也 20.8.1-	眞志喜得永 20.4.1-23.3.31	宮良信作 19.9.1-23.3.31	与那覇明弘 19.4.1-22.3.31
豊川雅喜 18.4.1-	野口健太郎 17.4.1-25.3.31	比嘉康夫 19.4.1-23.3.31	益田鮎子 16.4.1-19.3.31	宮良透 21.7.1-24.6.30	与那嶺さなえ 16.1.13-
中尾卓嗣 16.4.1-21.3.31	野崎真也 16.4.1-20.12.31	比嘉吉一 17.4.1-	増永誠 22.7.1-	室溪浩 15.4.1-17.3.31	與那嶺岳也 20.9.1-
永澤健 16.4.1-20.3.31	野島千代子 17.4.1-18.11.30	平山けい 16.4.1-	又吉瞳 21.8.1-	銘苺真里 19.7.1-22.6.30	渡邊一成 17.4.1-20.3.31
仲宗根明 16.4.1-19.6.30	野原茂 17.4.1-19.3.31 23.4.1-25.3.31"	藤田優子 18.4.1-19.3.31	松栄準治 17.4.1-25.3.31	望月謙二 15.4.1-19.9.30	渡邊謙太 20.4.1-
仲宗根勉 15.4.1-18.3.31 25.4.1-	バイティガザカリ 19.4.1-	藤元高德 23.4.1-	松田昇一 16.4.1-21.2.28	森田正亮 16.4.1-21.3.31 23.4.1-	渡辺みちよ 20.10.1-
仲地豊勝 23.4.1-	芳賀文 23.5.9-	藤山瞳 24.7.1-	松林勝志 24.4.1-25.3.31	森山喜代美 22.7.1-24.6.30	和多野大 23.4.1-
仲地善則 25.4.1-	畑亮次 23.9.1-	古屋淳 17.4.1-	真鍋幸男 14.6.1-23.3.31	屋宜俊介 18.4.1-21.6.30 24.7.1-	



Message from Teachers

初代校長  
歴代事務部長  
教職員  
より







初代校長  
糸村昌祐

## 沖縄高専に関わった10年

沖縄高専が平成16年、4学科に1期生を迎え入れてから丸10年、ここに開校10周年を迎え、創設準備から10年間、関わってきた者として、感無量である。

直近の徳山・八代の両高専創設から25年経ち、社会情勢も変わり、高専新設は無理と言われていた中で、沖縄県振興のためには高度な技術、知識を有する人材の育成が不可欠として、平成9年1月下旬の沖縄政策協議会プロジェクトチーム現地会合において、打ち合わせ当日に県商工労働部工業振興課から追加提案された高専創設案。精査のため東京に持ち帰られたあと、2月17日には自民党沖縄県支部連合会が、「沖縄県振興に関する要請」の中で、国立高専の設置を党本部に対して要請している。

3月25日に行われた総理大臣と県知事との会談時に、総理からの提案の形で「国立高専を名護市に設立することを積極的に検討したいので知事におかれてもよろしくお願ひしたい」との発言があり、4月3日には商工労働部が国立高専誘致についての基本的考え方（案）をまとめている。5月に公表された県の「国際都市形成基本計画」には、名護市に国立高専が位置付けられていた。その後、平成10、11両年度で文部省主体による創設準備調査が行われ、12年3月、琉球大学内に国立高等専門学校（沖縄）創設準備調査室が設置され、小生は工学部から配置転換で室長に任命された。地元で創設準備（調査）室が設置されたことで、以後、創設作業は急ピッチで進展していく。

このように、辺野古ありきでスタートした沖縄高専の創設準備であるが、一時期は校舎や学生寮の建設が間に合わない場合を想定して、名護市青年の家を借用してでも開校時期は予定通りとの覚悟であった。故岸本建男市長の一声と地元辺野古区の有力者の説得で用地取得、名護市土地開発公社による敷地造成発注へと動き、建設関連業者の必死の努力で校舎と学生寮の1期工事が完了したのは、開校目の2月だった。4月の1期生受け入れと授業開始に向けて、開校前の数少ない教職員の苦労も大変なもの感謝している。

平成14年10月に沖縄高専として開学したあと、校舎建設や設備の選定・調達も大変だったが、田中真紀子元文科大臣の騒動で有名になった、設置審（大学設置・学校法人審議会）の教員審査に対する準備も大変だった。高等教育機関である高専は、設置審で担当科目適合性審査が行われるため、公募要領にもその旨を記載した。採用時期が5か年にわたるため、途中で一身上の都合による任用辞退、あるいは1期生が卒業する前に他機関に転職するなど、教員に変動があると、その都度、全国公募・書類選考・面接を行い、設置審での適合性審査を経て任用に至った。文部省の課長さんから「教員採用を任期制にしては？」と進言されたが、応募者が減るのでとの危惧から、決断できなかった。

開校から6年間学生諸君と接してきた。第1回卒業式は、万感胸に去来するものがあり、校長告示を読みながら声が詰まってしまった。2期生の卒業式は、高専ロボコンで全国優勝してくれた中心メンバーの学生たちと共に、私自身の卒業式でもあって感無量だった。

多くの方々に支えられた10年だった。願わくは、沖縄高専の卒業生諸君が、県内産業界に貢献し、高専の名を高められんことを切に祈り、開校10周年の祝いの言葉としたい。





河西 愛次

元事務部長

(平成16年4月～  
平成17年12月)

## 10年前の沖縄高専を振り返って

「暑い！」平成16年4月1日那覇空港に女房と二人で降り立った時、同時に発した第一声であった。空港でレンタカーを借り、大雑把なナビの案内で、なんとかこれから暮らす名護の宿舎に到着したことを思い出している。

開学は平成14年10月であるが、学生受入は平成16年4月からであった。

学生受入までの間、当時の糸村校長先生、室溪庶務課長、更には設置準備室時代からの教職員や関係者の皆様方のご苦労は想像に難くありません。

また、学生受入後においても、若い職員の皆様は夜遅くまで仕事をされていましたし、未知の生活環境の中、何かと不安であったであろう学生のケアも、当時の濱田先生（寮務主事）を始め学生係職員だけでなく教職員全員で親身になって対応していました。

私は何の苦労もせず初代事務部長ということで、偉そうに赴任しただけであるが、沖縄高専への赴任にあたり、文部科学省関係者からの話の一つに「地元の方々と仲良くやって下さいね。」ということがありました。果たしてその要請に応えられたか…。

通勤のために15万円で購入した中古車が度々エンストを起こし、夜の国道329号線の真っ暗な闇の中、何度途方に暮れたことか。（その後、このボンコツ車は学生の教材として活用されたとか…これは、これでうれしい。）

ロボコンやICT関係の大会での沖縄高専生の活躍の報に接する度、学生達の努力に感心すると共に、短期間で学生をここまで成長させた教職員の皆様に、ただ々々頭が下がるばかりであります。

私自身、沖縄に住んでみないと経験できないことが沢山ありました。ただ、それは辛いことの方が多かったかもしれません。ここでは詳細は差し控えますが、そういうことが解決されない限り沖縄高専の真の発展はないと思っています。

沖縄高専を取り巻く諸情勢も不透明なところもありますが、これからも遠い空の下から一生懸命応援していきます。チバリヨー、沖縄高専！



内山 亮

元事務部長

(平成18年1月～  
平成19年3月)

## 沖縄工業高等専門学校 回想記

6年前（平成18年）の正月にホンダトゥディ 550CCの軽自動車を広島で購入し、7日（土）11時に草津住宅から布団や食器などを積んで乗り込み、小雪が舞う中を一路博多船客ターミナルを目指しました。山口県で大雪に変わり、ノーマルタイヤのまま、6時間かけてやっとの思いでフェリーまでたどり着きました。（途中でスリップの危険を感じたので引き返そうかと思いつながら。）

沖縄の安謝港に接岸したのは10日（火）の7時37分で3日間の船旅を満喫し過ぎました。（フェリーの定食も食べ尽くし。）

名護住宅まで73kmの国道を走り、9時前に到着。早速、マックスバリュー・名護ジャスコ・なんでも屋で買い出しをし、沖縄での生活をスタートすることができました。

愛車で、毎日名護住宅から沖縄高専まで14.5kmを15分の通勤です。（信号が二つしかないので高速道路のようでした。）

新しい高専レストランで、昼食（400円）夕食（375円）の定食を学生と一緒に美味しく食べ、夜はテニスでいい汗を流し、充実した15カ月間を過ごすことができました。

週末が来るのが楽しみで、沖縄そばの食べ歩き（最初の店は「那覇そば那覇亭」の本ソーキそばに目覚め、その後98杯を完食）。名護市立中央図書館と沖縄高専図書館で借りて読んだ本が211冊。お世話になりました。

沖縄の日本酒に「曙」という銘柄がありますが、やはり泡盛に魅せられました。最初に飲んだのが「瑞泉」でした。離島を含め48の蔵元がありますが、33の蔵元で42本の泡盛の味をストレートとチェイサーで楽しませてもらいました。今でもこの42枚のラベルは大切にノートに張って、たまに眺めています。（酒のアルテックで調達しました。）

心残りは離島に足を伸ばせなかったことですが、この楽しみは退職後に残しておくことにします。



与那覇 明 弘

元事務部長

(平成19年4月～  
平成22年3月)

## 6 番目の思い出

創立10周年、おめでとうございます。

私は、平成22年3月の定年退職までの3年間で事務部長として勤務させていただきました。退職直後から沖縄キリスト教学院に奉職しており、私立大学特有の業務、課題に追われる日々の中で、沖縄高専での思い出を振り返る機会を得て、懐かしく思い起こしています。

在職した平成19年4月からの3年間での出来事としては私が記すまでもないが、最初となる第1期生の卒業式、専攻科設置、ロボコン全国大会優勝などがあり、このような歴史的な時期に職員として在職できたことに感謝しています。

第1期生の進路状況も素晴らしく、糸村校長の強いリーダーシップの下に先生方の熱心な教育、技術職員と事務職員の各々の立場からの教育・研究支援、そして何よりも学生たちの頑張り、沖縄県の産業界、教育界そして県民の長年の念願であった「沖縄高専」の創立に見事に応えるものであったと思います。

私が在籍した3年間には、いろんな出来事がありましたが、その中で思い出として書き残したいのは何があるだろうと色々考えましたが、6番目ぐらいに思いついたのが「留学生交流促進センター」の設置です（1番目から5番目については、どなたかが必ず書かれると思い、敢えて触れません）。当時の高専機構が開催する会議等で必ず聞く言葉が、「スケールメリット」でした。全国にある国立高専が高専機構の下に集約法人化され、そのスケールメリットを活かした運営ができるというものでした。そのような背景の中で、留学生交流促進センターを沖縄高専に創るという話が突然ありました。「留学生30万人計画」に基づく時機を得た設置ではありますが、糸村校長をはじめ関係する教職員は設置準備、そして事業実施に向けて大変なご苦労がありました。事業の一つとして全国の高専から留学生を集め、名護青年の家を中心に留学生サマースクールを実施しました。旅行行程の違う留学生の受入れ、イスラム教学生の食事、礼拝、ラマダンとの重なりなどへの対応を懐かしく思い出します。

沖縄高専を退職後3年が経とうとしていますが、相変わらず沖縄高専の学生や教職員の皆様のご活躍を新聞等で拝見し、嬉しい限りです。ただ、県民の反対を押して配備された米軍機オスプレイが沖縄高専の上空を飛来する映像を頻繁に見ることがあり、懸念されます。

10年後、20年後の沖縄高専がどのように発展しているか期待が膨らみます。

教職員及び学生の皆様のご活躍と沖縄高専のご発展を心より祈念申し上げます。



川 満 信 男

元事務部長

(平成22年4月～  
平成25年3月)

## 沖縄高専創立10周年に思う

創立10周年おめでとうございます。私は4代目の事務部長として、平成22年4月から、勤務しております。高専勤務は2度目で、異動官職になって初めての勤務が佐世保高専の会計課長でした。佐世保高専は昭和37年に国立高等専門学校第一期校として九州地区ではじめて設立されました。この度、高専制度50周年を迎えた古い学校です。

私はその後、佐賀大学（統合と法人化を経験）、山口大学、総合地球環境学研究所、平成21年に再び琉球大学に戻り、平成22年4月から、沖縄高専です。

機関誌（文教速報）の新春特集号に沖縄高専の創設に携わった職員の記事が次のように掲載されておりました。

「沖縄高専の創設に携わったことは人生最大の誇りであり、死にものぐるいで日々を過ごした。」と言う記事を見て感銘を覚えました。我々は先輩方が築き上げたこの沖縄高専を汚すことなく益々前進させるように頑張らなければいけないと思いました。

この度、沖縄高専を最後に定年するという事は、退職後もしっかりと沖縄高専を応援なさいと言う天の声だと思っておりますので、沖縄高専の発展が30年、50年と続きますように、引き続き応援して行きたいと思っております。



事務部長

仲地善則

(平成25年3月～)

## 沖縄高専に勤務して

巡り合わせで、創立10周年の年に事務部長として赴任することとなりました。

今回の沖縄高専勤務で、高専に勤務するのは2回目です。

前は、法人化前の平成15年10月から平成18年11月までの期間で、熊本電波高専（現在の熊本高専）でした。熊本電波高専も沖縄高専と同様に、県内でも優秀な生徒が進学してきており、ちゃんと挨拶ができる学生たちでしたので、学生の雰囲気は似たところがありました。

その頃、出張で沖縄高専を訪れたことがありましたが、何にもないところに、急に大きな建物が現れ、道路を跨いで学生寮とキャンパスを結ぶ橋がかかっているのには驚いたことを覚えています。また、キャンパス内を案内してもらいましたが、熊本電波高専と違い、最新の設備が整っているなと感じたものでした。

沖縄に高専ができるという話を聞いて最初に思ったのは、沖縄で、優秀な学生が集まるのだろうか。就職先はあるのだろうかということでした。しかし、ロボコンで全国制覇をしたり、就職率が100%であるということを知ったり、また、高専の色々な競技の全国大会で活躍している話を聞きますと、それが杞憂であったと思っています。

今後も、沖縄高専が、沖縄県内だけではなく、全国さらに海外でも活躍できる人材を輩出できるように、少しでもお役に立てればと思っています。





元総務主事  
機械システム工学科  
松 榮 準 治

## 地域連携・地域貢献について（第2代地域共同テクノセンター長として）

初代の地域連携推進室長であった生物資源工学科の高野先生から産学連携担当を引き継いだのが平成18年度で、その後2期4年間地域連携業務を担当し、平成22年度に生物資源工学科の池松先生に引き継ぎました。担当期間中に、平成19年の地域連携推進室から地域共同テクノセンターへの改組と、平成20年度の地域共同テクノセンターの部屋設置に立ち会いました。池松先生に引き継いだ後も、技術支援室長としてセンター運営委員に加わり現在に至っています。

在任中に九州・沖縄地区高専テクノセンター等長会議に参加してみると、他高専に比べ沖縄高専には産業界の手厚い支援があって、我々は恵まれた環境にあるということを痛切に感じます。企業による支援組織が無い高専や、あったとしても沖縄高専ほど支援を受けているところは無いのが実情です。沖縄高専の場合、平成16年に第一期生の入学式を挙行した2週間後には、100社を超える企業の参加のもと沖縄工業高等専門学校産学連携協力が発足し、以後様々な形でご支援を受けています。この場をお借りして、協力会発足・維持にご貢献頂いている産業界の皆様、および中心的組織である（社）沖縄県工業連合会の会長並びに職員の皆様に厚く御礼申し上げます。

一方、地域共同テクノセンター長在任を振り返ると、産業界の皆様にとって有意義な活動ができたとは思えず、担当者として反省しなければならないと感じています。学年進行中で研究に携わる学生がいない、毎年新しい授業の準備が必要であるなどの理由があるにしても、沖縄高専全体が産業界に対して「待ち」の姿勢であったと思います。このまま続くと、俗に言う「敷居の高さ」に繋がり、さらに産業界との交流が希薄になるという悪循環に陥って行ってしまうのではないかと恐れています。

平成24年度、産学連携担当の伊東昌章先生、地域共同テクノセンター長の池松真也先生には協力会会員企業様を訪問して頂いています。このように教員が積極的に出かけて、企業の皆様と頻りに顔を合わせ、意志疎通を図ることが相互交流の希薄化を防ぎ、その中から協業が生まれると信じています。今後の10年で、この活動を機に沖縄高専の教職員の方々が、沖縄県産業界との交流をさらに推進して行くことを希望して、地域連携への取り組みの報告と致します。



教務主事  
生物資源工学科  
平 山 け い

## 10周年を迎えるにあたって

私は、沖縄高専開校の平成16年4月、新しい学校を学生と一緒に作りあげて行こうという気持ちを胸に赴任いたしました。1期生の入学式には、入学者の5倍を超える保護者や来賓の方々にご来場いただき、沖縄県の皆様の沖縄高専に寄せる思いを大きく感じ、本校のこれからの教育に対し心を新たにすることを覚えています。開校当時の校舎は、西側だけが完成しており、1期生の前期の講義では、ベニヤ板で区切られた東側校舎工事の中で進められ、講義中でも時折ドリルなどの音が響いていたことが今でも記憶に新しく思い起こされます。初代校長の糸村昌祐校長先生が本校を去られる際に、平成22年4月からの教務主事を託していただき、お引き受けをして、現在2期目の教務主事を拝命しております。今年50周年を迎えた高専制度の中で、高専教育の使命そのものが「創造性のある実践的技術者の育成」—グローバル時代のイノベーションを担う人材育成を目指して—に変わり、変革の時期を迎えています。教育の在り方や学生の資質も時代の流れとともに大きく異なっており、改革が叫ばれている中、高専が育てる人材が社会へ果たす役割も大きく変化しつつあります。本校も沖縄高専独自の教育方針の良さや特徴を継続しつつ、高専機構に所属する51高専の中の1高専として足並みをそろえ、創造性ある実践的技術者の育成に向け教育改善を常に意識し、教員一丸となって動いていかなければなりません。現在、高専機構に所属するどの高専を卒業しても身につけている最低限の技術や知識はすべて等しく卒業生が備えているという観点から大きな教育改善が行われています。カリキュラムの総点検と改善を行いつつモデルコアカリキュラム試行への対応や社会の技術者人材育成の要望に見合った学科の高度化再編などが動いています。一方、学生の学力や学習意欲の二極化の傾向が大きくなりつつありこの問題にも対応していかなければなりません。高専の教員は、大学に比べ少ない教員数で教育・研究・地域貢献と非常に多くのことを求められ業務多忙が常となっていますが、その中でも学生の教育に対して一番の時間を割いていかなければなりません。これからもより良い教育より良い人材の育成を目指して教育改善を推進し、卒業生・在校生が誇れる学校作りを目指しながら教務主事室主導で教員一丸となって沖縄高専の教育に邁進していきます。次の10年間も皆様方の温かなご支援をいただけますようお願い申し上げます。



機械システム工学科  
眞喜志 隆

## 沖縄高専での10年間を振り返って

小職と沖縄高専との関係は2001年からのことになる。当時は準備室の形で開校準備が進んでおり、カリキュラム・施設・設備の準備作業のお手伝いをしてきた。縁あって2004年に1期生と共に赴任してからは、学科担任・学生相談室室長・技術支援センター長・学生主事を担当した。このうち学生主事は総合科学科・新川教授の後を受け2008年度から5年間担当し、その中で大きな出来事を経験した。そのことについて述べる。

学校行事関連での大きな出来事は、2009年度の全国高専体育大会のバスケット競技の開催・ロボコン九州沖縄地区大会の開催、2010年度の高校総体全国大会でのカヌーと剣道競技の担当、2011年度の九州沖縄地区高専体育大会の野球競技の開催である。いずれの大会も関係教職員と学生の協力と事務方の苦労がなくては実行できないような内容で、特に準備作業には学生係を中心とした事務方の頑張りによって実行できたものと感謝をしている。また、特に高校総体では、2年と3年の学生のほぼ全員に補助してもらったが、細かなトラブルはあったものの、本校の学生の行動は素晴らしく、大会関係者にも評価されたものと考えている。

学生生活関連では、4名の学生が事故で亡くなっており、このうち交通事故で亡くなった学生が2名出ている。交通事故に関しては、どちらも二輪車運転中のことであり、亡くなった学生には、普段から運転には注意するように話していたこともあって、自分が思っていた以上に精神的に堪えた出来事であった。このことは、今でも小職の中では整理できない問題として残っている。今後どのようにこの教訓を活かすのかが課題である。

2013年で沖縄高専は10年目を迎える。本校に勤務する教員は様々なバックグラウンドを持った人たちが集まっている。学生主事を担当して感じたことは、不遜な発言かもしれないが、高専教員の職務の主は学生の教育にあり、このことを理解していただきたいと思ったことがいくつかあったことである。ここ数年で変化してきた部分もあるが、学校全体として、学生の教育が主であるとの考えを教職員全体の共通認識として作っていくことが今後重要ではないかと思っている。

## 教務主事の4年間を振り返って

企業の研究所で31年間勤めた後、2004年から1期生とともに沖縄高専にお世話になりました。望月謙二教務主事のもとで教務主事補を2年間務めた後、2006年より教務主事を4年間拝命しました。その間、教務委員会委員長（2006～2009年）、入試委員会委員長（2006年、2007年）、広報委員会専門部会長委員長（2006年、2007年）、授業評価および教育方法の改善に関する検討部会長（2007年～2009年）、インターンシップ準備部会長（2006年、2007年）をつとめました。また進路委員会にも教務主事として参加しました（2008年、2009年）。その期間にたずさわった主な項目について述べます。

- ①教育規則の大枠は決まっていますが、実施細部が未検討の項目（転学科、留学生受け入れ、他高専からの転校、編入学、再入学等）については現在のように整備しました。また、沖縄高専に入学したけれども、諸般の事情により、進路変更をせざるを得なかった学生を救済するために中途退学者の修了認定制度を導入しました。残念ながら定期試験で不正行為が発生したため厳しく対処し、再発防止につとめました。
- ②入学生確保が重要な課題でしたので、オープンキャンパスに加えてサマースクールの開催や県内中学への学校訪問を提案・実施しました。
- ③高度な技術教育を保つためには、教員の活発な研究活動が重要です。このため、国際会議発表支援制度と沖縄高専教育・研究情報交流会の設立を提案しました。
- ④教育改善も重要な項目でしたので、沖縄高専教育改善のための討論会、授業改善アンケート、授業実施報告書制度を導入しました。
- ⑤4年次にインターンシップ（3単位）を必修科目に設定しています。しかし、卒業生がいない、企業との結びつきがない、県内の企業数も少ない、という状況がありました。そこで、1期生が3年生になった年に、松栄地域連携室長や専門学科と協力してインターンシップ準備部会を立ち上げ、実施要領の作成、インターンシップ先の開拓を行い、全員がインターンシップに行ける体制を確立しました。企業からは5段階の4.26という高評価を得て、1期生の就職率100%につなげることができました。



情報通信システム工学科  
高木 茂



情報通信システム工学科  
比嘉勝也

## JABEE 受審の後で見えてきたもの

沖縄高専は、平成23年にJABEEを受審し無事JABEE認定を受けることが出来ました。開学から将来、JABEE受審を意識して準備が始まり、教職員の協力によるJABEE受審用各種資料作成および審査員との面談・説明の準備を進めての平成23年の受審となりました。JABEE認定を受けることができたのも教職員および学生諸君の協力無しには成し得なかったと思います。平成23年3月にJABEE修了生となる専攻科の第1期生を輩出し、平成25年度には開学10周年を迎えました。まだ歴史浅い高専ですが、沖縄高専はJABEE認定校として教育目標を実現し、学生が社会に貢献できる技術者となるように教育を今後も実施して行くことになります。

さて、JABEEとはなんでしょう？ JABEEとは日本技術者教育認定機構（Japan Accreditation Board for Engineering）のことで、JABEE機構は技術系分野の学協会と連携し大学・高専の教育内容が社会の要求する知識や能力の水準を満たしているかを審査し、その水準を満たす教育機関に対して技術者教育プログラム認定校として認定を行っています。つまりJABEE認定とは教育の質と量の保証であると言えます。沖縄高専は、4学科と1つの専攻科で構成されており、4分野（機械システム工学、情報通信システム工学、メディア情報工学、生物資源工学）の技術者教育プログラムの策定（教育目標・教育カリキュラム・評価方法・学生の支援など）・実践することで、“沖縄高専の学生が本科5年および専攻科2年間での技術者教育を修得し、実社会に貢献できる知識技量を身につけることができる”高等教育機関であることが平成23年度にJABEEにより認定され、これより沖縄高専での技術者教育の質と量が整っていることを“まずは”社会に対して示したことになります。

しかしJABEEの審査によって改善が指摘された点もいくつかあります。例えば各教員間のコミュニケーション不足、PDCAサイクル（計画・実行・検証・改善）の不備など等々です。指摘された個々の事項も必ずしもクリアが難しいことではないと思っています。しかし、指摘された点よりも沖縄高専の教育の各制度、仕組みが十分機能しまた不足が無いのか？ また実社会が求める技術者像や学生の高専での満足度や知識技術の修得度がどれくらいで、目標をクリアできているか？等々のさまざまなことがあります。これらのことについて実践し検証し改善すべき点を導き出してさらに実践することが、われわれ高専教職員には常に求められていると思います。また学校全体としては、教職員がさまざまな改善すべき点を考えて実践することが行い易い学内の雰囲気づくりの醸成が必要であると考えています。ただし、言うは易し行ふは難しで、これだという唯一の方法があるわけではありません。しかし今後も失敗を恐れず教職員・沖縄高専がこれから大小さまざまな改善の取り組みを行っていくことが必要です。

本科卒業生および専攻科修了生は、技術者として実社会で活躍し始めています。ただ残念なことに、すでに離職した学生がいることも確かです。今後は“技術の教育”のみではなく“学生自らの人生生活についてのキャリア教育”も取組・充実させる必要があります。ここまでやらなければならないのかと思うことがありますが、現在の経済状態では技術だけ修得しても学生は将来を描けない時代なのかもしれません。技術を身に付けるだけの教育から脱却し、“技術者となる意義とプライドを持ち、自らの道を切り開けることの緒”を沖縄高専で身に付けることができることを考えなければなりません。どのような取り組みで実現できるのか皆目見当が付きませんが、学生を信じてとりあえず取り組まねばなりません。この新たな改善すべきことがJABEE受審後にはっきりと見えてきました。



生物資源工学科

池松 真也

教  
職  
員

## 沖縄高専での地域貢献・国際交流創世記の体験

沖縄工業高等専門学校創立10周年、おめでとうございます。

私は、平成18年4月1日に本校に赴任しました。すでに、1期生が3年生になっていた時期です。ここでは、私が関係した高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業と国際交流活動の実践例としてナンヤンポリテクニクスとのバイオテクノロジーキャンプの開催までのいきさつなどについて記載させていただきます。

皆さんご存じのNHK朝の連続テレビ小説「ちゅらさん」で所謂“沖縄ブーム”が起こっていました。その流れの中で健康食品・機能性食品にも沖縄ブームが起きていたのです。しかし、実情は科学的なエビデンスに基づいたというよりは「おじい、おばあ」の言い伝えに基づくものという程度の効用であったように思います。しかし、この業界は沖縄の一つの柱になる重要な産業と考えられます。沖縄総合事務局や沖縄TLOを中心に「沖縄健康ブランド確立を目指した生産・管理技術者育成事業」という課題で県内健康食品産業の人材育成に沖縄高専が取り組んだのです。本校の高度な設備を体験、利用してもらう中で“地域貢献”が“分析委託”、さらには“共同研究”に発展していきました。本事業は国からの評価も高く1年延長して平成21年まで継続されました。この人材育成の授業を通じて県内の多くの技術者の方々と知り合うことができました。3年間の事業の後、自立化までの4年を終え、初代校長の糸村先生から第12回九州工学教育協会賞に応募するようご推挙いただきました。本賞は私が企業出身の教員として尊敬しています真鍋前副校長が受賞されていたもので、とても私ごとときがと思いましたが、多くの方々のご尽力のお陰で、平成22年2月に受賞させていただくことができました。

糸村前校長先生には本校への留学生交流促進センター設置の際にも声をかけていただき、種々の提案をさせていただきました。丁度内閣府主催の「アジア青年の家」事業のお手伝いを致しました経験を活かせるのではないかと思ったからです。シンガポールポリテクニクスで国際工学教育研究集会在開催された折、研究・教育実践例の発表で参加しました。その発表後、ナンヤンポリテクニクスの教員からとてもユニークだと声をかけていただき、是非、生物資源の分野で交流をしましょうと誘われました。このことをすぐに糸村先生に告げると是非やりましょう！バックアップしますよとおっしゃって下さいました。3.11の大震災を乗り越え、平成24年3月、見事に実現することができました。



総務主事

情報通信システム工学科

杉本 和英

## グローバル意識の涵養に向けた取り組み

2009年10月に赴任し、その半年後に国際交流委員長を拝命した。企業在職時に培ってきた国際経験を活かしたグローバル人材の育成を念頭に、学生のみならず教職員の国際意識とコミュニケーションスキルの向上に向けた取り組みに邁進してきた。特に、短期留学・グローバルインターンシップ等の機会創出を念頭に、当初は海外のポリテク・大学等の高等教育機関との連携協定締結に向けた取り組みに注力した。初年度には、台湾の大学との連携協定締結を皮切りに、中国・タイ・シンガポールをはじめ、2012年11月時点で計11校との間で連携協定を締結できたことは、国際交流委員はじめ教職員各位の多大なる御協力の賜物と深くお礼を申し上げたい。特に、具体的な取り組みとして、バイオテクノロジーキャンプをはじめとした、JASSOの支援プログラムへの採択に基いた海外留学生の短期受け入れ、他高専と連携した国際シンポジウムの開催ならびに同会合への本校生の多数派遣の実現に加え、協定校からの視察受け入れと連携プログラムも検討できた。今後も、国際社会で活躍するグローバル人材育成に向け、全校一丸となった取り組みを継続推進したい。





情報通信システム工学科  
知念 幸 勇

## 専攻科創設から現在まで

沖縄高専における専攻科設置の取り組みは平成17年7月の総務委員会内の専攻科設置準備部会で始まった。全て手探りの中で、専攻科理念、専攻科モデル、教育課程表の策定にとりかかり、9月には他高専における機関別認証、JABEE受審、専攻科設置に関連する訪問調査をおこなった。平成18年度からは、専攻科設置検討委員会として活動した。教育課程表については、教員審査における実績との関連づけを調べながら作成するため、約半年ほど費やし、平成18年6月頃に1次案を策定した。平成19年8月には専攻科の設置の趣旨及び沿革等についても議論を始め、教育の目的を「高い専門技術力と実践性・創造性を兼ね備え、豊かな人間性と国際性をもち研究・開発をになう指導的な高度開発型技術者を育成する」とした。平成20年2月、専攻科設置計画1次案を機構本部と文科省高等教育局専門教育課に説明。4専攻、各専攻8人定員とした内容に、専攻科設置の必要性を明確にしないと文科省の承認は得られないと釘をさされた。沖縄高専の本科棟に付属して建てられた専攻科棟の外枠は各専攻定員4名対応であり、8名は不可能で、廊下部分を加えても6名がギリギリであることが分かった。更に、4名を6名に増員するのは前例が無い、進学希望者数や卒業後の進路となる企業側ニーズのデータ数について専攻毎にバラツキがあり、説得力不十分との指摘があった。その後、1専攻4コースの大括りであれば定員24名で文科省、財務省を説得できる可能性があるということになった。それを受け、1専攻4コース案で提案し、平成20年6月、専攻科の名称を創造システム工学専攻とした。平成20年8月、専攻科認定申請書を学位評価授与機構に提出。平成21年2月13日付けで学位評価授与機構から認定専攻科の通知を頂いた。

1期生は平成21年4月の選抜入学試験で27名が応募し全員が合格し、同月入学した。沖縄高専の専攻科は1専攻4コース、定員24名という全国に先駆けた組織で新設された。その後、専攻科学生経費、専攻科学生研究発表支援制度、小論文試験経費支援制度など、他高専にはない学生支援制度を整備した。また、専攻科特別研究論文集の発行、琉大工学部・沖縄高専学生研究発表交流会の実施など活発な研究発表活動を行っている。これまで学位授与申請者は全員合格し学士（工学）を授与されている。沖縄高専専攻科は、今後も、沖縄高専の先鋭として活発な研究・地域貢献活動を推進する組織として発展するものと期待される。



総合科学科  
新川 智 清

## 沖縄高専での9年間を振り返って

高校の教員として27年間勤めた後、2002年に最初の教員として沖縄高専準備室に採用されました。赴任後一年目は琉大に事務室があり、十数名の教職員でその年10月の開学に向けて時には夜遅くまで準備を進めました。ある時、夕方7時から始まるはずの忘年会が、会議が長引いたために結局は10時過ぎから始まったこともありました。採用後に案内された沖縄高専の敷地は、当時松が散見される起伏に富む雑木林であり、現在のようなモダンな建物の集合体ができるとは到底想像できませんでした。採用2年目は、名護市に事務所が移り、開校までの具体的な諸準備が始まりました。文科省へ提出する資料を徹夜で準備して早朝に飛行場に向かい、その日の内にまた職場に戻って来る、あるいは職場に泊まり込みで仕事をする事務方の頑張り、大変さに頭が下がる思いでした。英語教育の中身を決めたのもこの頃です。全国の高専への英語の授業に関するアンケート結果に倣い、本校も他高専と同様に検定教科書を使うことを糸村校長に相談すると「高専は高校ではない。」との一言があり、多読・多聴の導入を決めました。今年の夏に九州地区の8高専から報告された本科5年卒業時のTOEIC平均点は、沖縄高専だけが400点を超えて419点でした。このことから沖縄高専の英語教育の方向性は間違っていないと思われます。

開校後2期4年間学生主事を務めました。部活動及び課外活動、学生会、アルバイト、奨学金、車両通学等とそれに係わる諸規則など学生生活に関する活動の立ち上げとその環境の整備に携わりました。高校での経験が役立つとはいえ、すべてがゼロからの出発でした。その間、辺野古区の区民運動会やハーレー大会に学生と教員が参加したり、体育祭ではテントを借用したり、高専が地域にも歓迎されていることを実感しました。一方、区内での学生の行動について区民から再三電話連絡があり、その対応に追われたこともありました。1期生が3年生で寮を出て近隣のアパートに住むようになり、名護市内も含めて家主にあいさつに回ったこともあります。一日の大半を事務室で過ごすなど、忙しい時もありましたが、何とか主事の職務を遂行できたのは、学生委員会委員と係長を始めとする学生系の絶大な協力があったからにほかありません。ここに記して、感謝申し上げます。



メディア情報工学科

角 田 正 豊

## 第1期生の入試の思い出

私は1期生が入学する1年前の2003年から本校に着任し、学校学科の開校に向けて設置審資料作成、カリキュラム編成、教育研究設備の設計導入、諸規則の制定など様々な仕事に携わりました。多彩で沢山の思い出がありますが、中でも印象が強いのは1期生の推薦入試です。多くの優秀な学生に入学してもらうため、本島だけでなく離島にも出かけて、学校説明会や中学校訪問を行いました。しかし、なにしろ新たに誕生する学校の最初の入試であり、高専という教育機関を知らない中学教諭、保護者も多く、実際どのくらいの学生が入学を希望してくれるか予想が付きませんでした。定員割れになったらと不安を持って本校最初の入試となる推薦入試の願書受付を迎えました。ふたを開けてみると、メディア情報工学科は定員12名に対し60名も受験者がありました。当時学校全体で9名しか教員がいなかったので、数学の知念先生と二人で2日間にわたって60名の面接を行いました。終わった時は座り込むほどぐったりしました。受験生は中学3年間ほぼオール5の成績を持つ優秀な学生ばかりでした。この中から50名近い学生を不合格にしなければならず、判定会議の際は残念と同時に申し訳ない気持ちになりました。不合格になった人も多くが学力選抜で入学してくれました。1期生として彼らと教室で向かい合った時、60名もの面接にも関わらず、面接の際の座っていたそれぞれの椅子、表情や発言などを覚えていたのがとても印象深く忘れられない思い出となりました。



機械システム工学科

武 村 史 朗

## 沖縄初の高専ロボコン地区大会

私が本校に赴任したのは1期生が本科4年のとき、2007年4月でした。本校は1年生入学時から高専ロボコンに参加しており、2006年度に初の全国大会出場をし、2008年の高専ロボコンでは地区大会・全国大会初優勝を遂げました(1期生が5年のとき)。そんな中、全国大会3連続出場、地区大会連覇がかかった2009年の高専ロボコン地区大会が地元名護市で開催されることになりました。学生にとってかなりのプレッシャーです。前年度優勝した先輩のアドバイスを受けながら、ロボットを製作していました。夏休みには学生は学校に寝泊まりしながら、文字通り「ロボコン漬け」の毎日です。ロボコンには各校2チームが参加し、Aチーム、Bチームと呼びます。Aチームの方は比較的、製作・練習は予定通りに進んでいました。懸念されるのはBチーム。なかなか製作が思い通りに行かず、練習もままなりません。また、地区大会前に本校でインフルエンザ流行による1年生学年閉鎖。これにより1年生は会場に入ることができません。Bチームの操縦者は1年生(インフルエンザにもかかった)。急速操縦者が変わります。練習できる時間は少なく、Bチームはマシントラブルが続き、歩行が安定しません。大ピンチです。実は大会当日1時まで作業をしていました(主幹校のみの裏技)。私は学校で監督し、その後帰宅、朝は学生を迎えるための早起きで疲労困憊(笑)。大会では学生の直前までの奮闘の甲斐あってか、Bチームのロボットも無事動き、ベスト4に進出! Aチームは地区大会連覇を成し遂げました! 地元開催プレッシャーに打ち勝った本校の学生を大変誇らしく・頼もしく感じた瞬間です。本校の歴史は続きます。先輩方に続いて学生たちは数々の偉業を成し遂げていくでしょう。私もその一助となるよう、今後も学生たちと歩んでいきたいと思えます。

余談:大会当日は大会後片付けの手伝いもあり、帰宅したのはギリギリまだ日曜……。月曜は通常授業。いま、そんな体力あるかしら。



機械システム工学科

比 嘉 吉 一

## 十周年記念誌に寄せて

## 人生の岐路－「選択」と「偶然」の創造物

本学への着任は、2期生の入学時と同じ2005年4月1日。したがって、この原稿執筆時で7年目を迎える計算となります。思えば、本学への採用も「偶然」の積み重ねでした。遡ること約20年、父親の生まれ故郷であった沖縄への思いから琉球大学に進学し、「まだ就職したくない！」との一身で大学院修士課程を終えます。廻りが就職活動を行う中、やはり、「まだ就職したく」なかった私は、「偶然」修士課程1年のときに夏季集中講義を受講した神戸大学工学部・富田佳宏先生（現・福井工業大学教授）のもとに博士後期課程の進学を行いました。半年遅れの2000年9月の学位授与となったのが幸いしたのか？「偶然」空きポストとなった大阪大学大学院・北川浩先生（現・大阪大学名誉教授）の研究室へ助手（現在の助教）として2000年11月1日付で採用となりました。もちろん、当時より行っている研究分野ならびに力学分野における、両大先生の師弟関係・信頼関係があつての採用だったと、非常に幸運に感じています。ここでの「偶然」は、当時所属の大学院別研究室に、本学開設準備における教育カリキュラム策定に大いに貢献を行った、大中逸雄先生（現・大阪大学名誉教授）が在籍されていたことです。完成年度（1年から5年生までの全ての学生が揃う年度）まで、年次進行での教員採用に際し、担当分野の教員を探していたことを「偶然」聞かされたわけですから。そして、さらなる「偶然」は、大学時代に別研究室ではあるものの、大変お世話になった糸村昌祐先生が本学初代校長として在籍されていたことです。糸村先生、大中先生は私の採用面接での面接員でしたから、全く緊張なしで臨んだ採用面接であつたと、未だに強い記憶として残っています。これらの「偶然」が生み出した本学採用によって、幾多の学生諸君および父母の方々、教職員の面々と「偶然」に同じ時間を共有できたこと、今後も続く「偶然」の出会いに感謝をしながら、筆を置きます。



機械システム工学科

下 嶋 賢

## 担任としてのキャリア教育と出前授業を通じた地域貢献

沖縄高専に着任してから4年が経ちました。着任早々から、これまで経験のない担任の業務に携わりました。沖縄高専機械システム工学科は、ものづくり技術者を育成する教育機関であります。そこで、県内企業を授業の一環として見学することを始めました。2011年度は3年生を対象に、拓南グループ、JTA、中城金型企業を回りました。今後とも、可能な限り実際のものづくり現場の見学を行い、学生の就職への意識の向上に少しでも貢献できれば幸いです。

一方、2年生対象のロボット製作の授業に携わっております。これまで、ロボット製作の後、最終試験としてロボットコンテストを学内で行ってまいりました。畳1枚程度のフィールドでアイテムを運ぶコンテストとなっております。2011年度、初の試みとして、伊豆味小・中学校にて、本コンテストを行いました。小・中学生は、これまで見たことのないロボットが動く様子を感じられ、学校の先生ならびに生徒さんに大変好評を得ました。この試みを続け、沖縄県のものづくり教育に対し、貢献できればと考えております。



情報通信システム工学科  
山田 親 稔

## 情報通信システム工学科の取組み (LSI デザインコンテストの参加について)

情報通信システム工学科では、学外で開催される種々のコンテストに学生が積極的に参加しています。ここでは、2008年から出場している「LSIデザインコンテスト」への参加に至った経緯と、これまでの成績について報告します。LSIデザインコンテストは、当初、琉球大学工学部の授業の一環として実施していましたが、2003年から広く公開し、国内の大学・高専からの参加が大幅に増えただけでなく、アジアを中心に韓国、インドネシア、ベトナムなどの海外の大学からの参加も順調に増え、現在は100件以上の応募がある大規模な設計コンテストと成長しているコンテストです。

2007年8月頃、当時、4年の学生3名（1期生の塩崎祐介君、伊波慧君、崎原孫周君）が私の研究室を訪れ、「先生、LSIデザインコンテストに出場したいので、どのようなことをするのか教えてください」と言ってきました。私は思わず彼らの勢いに押されて「よし！頑張ろう」と応えてしまいました。今思うと、私は2007年4月に沖縄高専に赴任したばかりで、あまり学生と交流していなかった時期でもあり、学生と何かに取り組んでみたいという気持ちがあったため、そのような返事をしたのだと思います。しかしながら、設計ソフトウェアの知識も十分ではなく、さらに、その年の課題が「RSA暗号の暗号化器と復号器の設計」という4年生ではハードルの高い課題であったため、すぐに作業に取り掛かることはできませんでした。そのような状況の中、日々、難しい課題に取り組んでいる姿に私も何かサポートできることはないか考え、LSIデザインコンテストの主催者でもある琉球大学工学部の和田和久教授と吉田たけお助教に協力を仰ぎ、土曜日であるにもかかわらず2日間に渡り半日の設計ソフトウェアの講習を実施してもらいました。その講習を受講した彼らは、目からうろこがおちたようで、疑問に思っていた部分を解決でき、大変感激していた様子を今でも覚えています。

和田教授と吉田助教の支援のおかげで、課題内容の設計を行い、課題レポートをコンテスト事務局に提出することができました。その提出した課題が予選を通過し、最終発表を行うことが確定しました。私も彼らと共に大変喜びましたが、再びここで問題が発生しました。最終発表の期日は、3月14日で学生寮が閉寮している時期であるため、学内での作業が厳しい状況になりました。このような機会を逃してしまうのは非常に残念であると考え、学科の先生方に協力を仰ぎ、ボランティアで宿直してもらうことになりました。彼ら3名の寝る場所は、格技場を利用することとし、当時の糸村校長に許可を得ることができました。

このように多くの方々に支えられたおかげで、最終発表会において、伊波君、崎原君、塩崎君の3名は、大学院生、学部4年生が多く発表する中で、全く見劣りせず、堂々と発表することができました。その結果、本校のチームは参加33チーム（海外9チームを含む）の中で準優勝（ルネサステクノロジ賞、大学3年生以下で最高順位）を果たしました。

彼らは課題に取り組んでいる際に、なかなか良い結果が出ないことがあっても決してあきらめずに続けることによって、最終的には課題を完成させることができたことは非常に良い経験になったことだと思います。現在、彼らは全員大学院に進学しており、今後も益々活躍することが期待されます。彼らが開いた道のおかげで、その年以降、毎年、出場しており好成績をおさめています。現在では、3年生のコンピュータアーキテクチャ、4年生の情報通信総合演習の課題として取り入れています。

今後も情報通信システム工学科では、LSIデザインコンテストのみならず、学生が主体的に取り組んでいくようなコンテストに積極的にチャレンジしていき、実践的な技術者の育成に力を注いでいく予定です。



準優勝の受賞の挨拶（左から伊波慧君、塩崎祐介君、崎原孫周君）



メディア情報工学科

太田 佐栄子

## 九州沖縄高専体育大会（テニス競技）

～熊本で過ごす4日間～

九州沖縄高専体育大会のテニス競技は毎年7月に熊本県パークドームで開催されます。ここでは本校硬式テニス部の熊本での思い出を書きたいと思います。

熊本空港に降り立ったときから部員たちは「水と緑と火の国」を実感させられます。「どの蛇口から出る水も冷たいよ」と言う部員の驚いた表情が忘れられません。定宿としている「つる乃湯」では天然温泉の大浴場があり、部員は連戦の疲れを檜風呂・洞窟風呂などの湯船に浸かって癒しています。また、宿の方は現地での心強いサポーターです。熊本空港への送迎、試合用の氷の準備、帰沖前のショッピングまで面倒をみてくださいます。試合スケジュールが過密なうえに勝ち進むことが多いので観光する時間はありませんが、熊本城や阿蘇山に連れて行ったら部員はどのような感想を持つのかな、と大会会場で呑気なことを考えていました。



メディア情報工学科

鈴木 大作

## 研修旅行の思い出

本校では、全学科3学年を対象に毎年研修旅行が実施されます。旅行先は主に東京や大阪などを中心に3泊4日程度です。研修旅行では、各専門学科に関連する企業視察や観光を行ったり、学生自らが企業訪問や美術館などの施設見学などを企画・立案してグループ単位で行動する自主研修などを行います。2009年春に本校に着任した私は、2010年度に3学年の担任を任せ、東京を中心とした研修旅行の引率を行いました。また、当時3学年全体の学年主任も任されており、研修旅行全体の企画・調整などの準備も行うなど、着任後経験の浅い私にとっては分からないことばかりで手さぐりでの仕事となりました。そんな私にとって最も印象が強いのは、卒業生を交えたホテルでの夕食会でした。初めての試みとして、東京やその近郊で生活するメディア情報工学科の卒業生との懇談会を企画しました。ホテルでの夕食の場に、就職した社会人と進学した学生を計5名招き、1テーブルあたり12名の学生に対し1～2名の割合で、できるだけ堅苦しくならないよう自由に質疑応答や意見交換を行っていただきました。学生からは、実際に社会に出た先輩から職場の雰囲気や仕事の様子などを具体的に聞くことができた、自分の将来像や今後の進路について考える良いきっかけになった、などの意見が寄せられ、卒業生からは、学生のためになるのであればこれからも是非協力したい、などの意見が寄せられました。短い時間ではありましたが、学生たちにとって少しでも就職や進学に対する意識の涵養が図れ、また卒業生にとっても母校のために自らの経験を活かし貢献する喜びを味わう機会となった事と思います。創立10周年という節目を迎え、まだまだ卒業生の数は少ないですが、こうした卒業生との交流の大切さを感じた出来事となりました。



生物資源工学科

三枝 隆裕

## バイオテクノロジーの再燃

生物資源工学科は、バイオテクノロジーを主体とする点で全国の高専でも珍しい学科である。亜熱帯性のユニークな生物資源を生かした勉強や研究が展開されている。教員も、生物化学工学系、環境・微生物学系、食品化学工学系と得意の分野を持つ13名の教員を擁している。講義と並行して多くの実験を行い、試薬や実験器具を用いた学生のバイオテクノロジーの技術習得に努めている。教員サイドの実験の構成も10周年を迎える現在では、かなり進んだ物になってきている。

iPS細胞を始めとしてバイオテクノロジーに関する興味も高まり、オープンキャンパス、サマースクール、出前授業での小中学生への理科教育にも力を入れている。

また、生物資源工学科の特徴としては、女子学生が半数を占める年度がほとんどで、世の常で男性陣が押され気味であるが、ここぞの時は頑張ってくれている。これからの時代は、男女共同参画が進むこともあり、当学科での経験を生かし新しい社会を切り拓いて欲しいと望んでいる。



生物資源工学科

玉城 康 智

## 私が体験した沖縄高専の歩み

沖縄高専開校10周年、私自身も沖縄高専に採用されて9年目を迎えました。私が採用された当初、学生は1期生と2期生のみで、今とは異なり創造実践棟の下の階はひと気がなく静かだったと記憶しています。それが現在では創造実践棟のみならず、校内の至る所で学生たちが賑やかに活動し様々な分野で活躍を続けています。卒業研究や特別研究、高専大会の各種競技、ロボコン、プロコン等々。この10年は、先輩たちが自由な雰囲気の中で試行錯誤を繰り返しながら伝統を築いてきたものだ実感しています。そして後輩たちは今後10年、20年と先輩たちの築いた伝統を受け継ぎながら、新たなチャレンジを続けていくことなのでしょう。私は、沖縄高専が成熟していく過程に関わることができたことを幸運に感じ、これからの学生たちの活躍の手助けとなることにやりがいを感じています。今後とも、沖縄高専は県内のみならず全国に学生を送り出していきます。社会における学生たちの活躍が、私の教育・研究活動の源です。



生物資源工学科

磯村 尚 子

## いそ研の卒研

早いもので沖縄高専に着任して5年目になり、今の5年生で「いそ研」(学生はこう呼んでいる)卒研生は4代目になった。学生たちによると「いそ研は厳しい」らしいが、それは私が卒業研究に力を入れているからだと思う。小さいながらも研究室を構えた以上、研究費を獲得して業績を挙げるためには、卒業研究の結果が重要になるからだ。

しかし、最初は空回りばかり。「やるって言ったらやるんだよ！」と怒りまくっていた(今もか?)。そんなある日、学生に「先生みたいにはできないんです」と言われて、はっとした。学生には学生のやる気や思いがあり、それは私と違うのだ、という至極当たり前のことに気づいた瞬間だった。それからは、少しずつではあるが学生に合った対応をするようになった(と思う)し、何よりも学生と一緒に研究を楽しめるようになったと思う。

とは言うものの、研究の喜びや楽しみを共有するには厳しさも必要。なので、これからも「いそ研は厳しい」と言われながらやっていこうと思っている。



総合科学科

小池 寿 俊

## 総合科学科の10年を振り返って

「辛い人生」、この口癖を知る人も少なくなった。私の身分証明書には所属が「総合科学系」と記されている。現在は総合科学科と呼ばれている我々の組織の名称は、1期生を迎える直前まで総合科学系であった。この身分証明証をもつ教員も少なくなった。

冒頭の言葉は国語の望月先生の口癖であった。意味とは裏腹に、なぜか明るく聞こえるこの言葉は1~3期生には懐かしく思い出されるであろう。他にも創立10周年を迎える前に総合科学科を去られた先生方は少なくない。数学の知念先生は「鬼の知念」として学生に恐れられ(?)愛された。永澤先生は唯一の健康科学教員としてご苦労いただいた。その後を引き継いだ飯田先生は課外活動の指導にも尽力された。宇部高専からの人事交流で来られた数学の三浦先生には、本校しか知らない我々に様々なことを教えていただいた。物理の宮城先生には、人事交流中の森田先生の代わりを務めていただいた。国語の滝先生は誠実な人柄で学生の信頼も篤かった。最後に、この記念誌ができあがる頃には退職されている英語の新川先生。創設準備室時代から大変なご苦労をなさり、1期生受入後は学生主事等さまざまな要職も務められた。

創立10周年は教職員の歴史でもある。10周年を迎えるにあたり、上で触れた先生方、非常勤講師の先生方、本校に係わったすべての方々に感謝の意を表したい。



総合科学科

青木久美

## 第1回高専祭の思い出

平成16年3月末に大阪から沖縄に移住。4月から、新しく開校した沖縄高専に就任した。私は学生主事補兼1年3組の担任となったが、わからないことばかりだった。しかも、たいていの場合、その答えはどこにもなかった。答えは、他の教員や学生たちと一緒に、一から創っていかなければならなかった。

私の不安が学生たちにも伝わっていたのか、それとも、学生たちの気質なのか、1年3組は大人しく、まとまりのないクラスだった。指導力がありそうな学生はいても、誰もそれを発揮しようとはしない。そんな中で、はじめての高専祭とはじめての体育祭を続けて行うことになった。学生も教員も手探り状態で、クラスの出し物を決めるのも一苦労だった。一体、何をやればいいのか、どこまでやれるのか、誰にもわからなかった。ようやく、1年3組は舞台劇を行うということで意見がまとまり、私も役割を演ずることになった。

その後、高専祭の準備と体育祭の練習に明け暮れる日々が続いた。しかし舞台劇のほうは一向に完成しそうになかった。学生たちは疲れ、苛ついていた。私も体調を崩した。散々な結果が予想された。だが、そんなある日、高専祭を目前にして、学生から、寮の学習時間帯に視聴覚ホールで練習をしたいとの申し出があった。時間になって視聴覚ホールに行くと、ほぼ全員が集まっていた。この頃から、切羽詰まった学生たちは、自分たちで何とかしなければならないと、ようやくやる気を出したようだった。バラバラだったクラスがひとつの目標に向かって協力し合い、リーダーシップを発揮する学生も現れた。

高専祭と体育祭は、期待以上に盛り上がり、1年3組の舞台劇も何とか成功した。イベントの後、まとまりかけたクラスは再びバラバラになったが、彼らのなかでは着実に何かが変わっていた。教員への依存体質を脱して、主体的に何かをなしていこうという気運が伺われた。1年3組だけではない。この二つのイベントを通じて、学生たちが、高専の学生としての自覚と、1期生としての自信と誇りを持つようになったのを感じた。

今でも高専祭のたびに、このはじめての高専祭を思い出し、1期生が築いた礎の大きさを思う。そして、開校の年からこの沖縄高専に関わることができてよかったと、教員としての自分の幸運を実感する。



総合科学科

山本寛

## 10年間を振り返って

私は2004年度、1期生の入学と同時に本校に赴任しました。本校に赴任するまでは、6年間、他高専で非常勤講師をしていました。

私は赴任してまず、本校の充実した設備に驚きました。本校は、全ての講義室にプロジェクタが設置され、最新のCALL教室（コンピュータを活用した外国語教育システム）、計500台余りの教育用PCが設置された演習室、巨額を投じて購入した英語教育関連の書籍が並ぶ図書館を備えています。また、保護者の方には学生一人一人にノートPCを持たせて頂いており、学生全員がノートPCを持っていることを前提に授業を行うことができます。

本校の特徴はその充実した設備だけではありません。保護者の方や中学校の先生方がまじめで素直な学生を本校に預けて下さったお陰で、教員から見て、授業や学級運営がとてもやり易くなっていると感じます。このことは、設備以上に素晴らしい本校の特徴だと思います。本校の教員は、他高専ではありえない程贅沢な、やり易い環境で教育活動をさせて頂いていると思います。

本校ではこの10年の間に学校での出来事としては最悪の悲しい出来事がありました。本校の10年を振り返るとき、この最悪で重大な出来事を思い起こさずにはいられません。今後このような事が決して起こらない学校にしなければなりません。



技術支援室 技術長  
屋 良 朝 康

## 10年を振り返って

沖縄工業高等専門学校へは、平成16年4月に着任いたしました。当時は、東側校舎、男子学生寮（Ⅱ期）が工事中で、これで授業・寮生活が始まるのかと思ったのが率直な感想でした。夢工場に導入された設備は最新のもので、これらの機械・機器を使う期待と同時に不安を覚えたのも事実です。教育研究、ロボコン、出前授業などの学内・学外の業務、また、平成18年には技術職員の組織化がなされ技術長を拝命し、組織運営業務など、私にとってはすべてが初めての取り組みでその対応に苦心しましたが、教職員はじめ関係者の皆様に支えられながらやってこれました。

これまで私が沖縄高専で経験し学んだことを活かして、今後の教育研究や地域へ貢献できるように取り組んでいく所存です。



技術支援室 副技術長・  
技術専門員  
藏 屋 英 介

## 地域貢献活動を振り返って

沖縄高専における地域貢献活動、特に小中学生を対象とした科学教室や出前授業は、開校間もない平成18年度より実施して参りました。当時は、沖縄高専自体の認知度も低く、受講者を集めるために名護市内の全小中学校にチラシを配りにまわったものです。はじめた当初は、鋳型を使ったアクセサリーの製作や、アロマキャンドルをつくるなど簡単な工作ものが中心でしたが、年を追うごとにエネルギーや液体窒素、植物の色素を題材にした科学教室や本格的な電子工作教室を行うまでになって参りました。また、平成22年度には、社会人向けのワンチップマイコン研修や、市町村の教育委員会と連携してIT基礎講座を実施するなど、対象も小中学生から社会人にまでその幅が広がっております。

節目となる今こそこれまでの活動を振り返り、今後の10年に向けて一層地域の方々に喜んでいただけるような活動を目指して取り組んでいきたいと思っております。



技術支援室 技術主査  
宮 藤 義 孝

## 赴任から今までを振り返って

平成11年3月に本土の高専に採用され、沖縄工業高等専門学校には平成18年4月に赴任いたしました。幸いにも校舎の整備がほぼ完了し、機械設備が導入された後での赴任でしたので、機械設置等に関しては先に赴任してこられた方々の努力もあり、それほど大変ではありませんでした。ただ、当時の最新の工作機械をどう運用・オペレーションするかでマニュアルとにらめっこの日々続き、苦勞いたしました。今から考えると、7年間の前高専での経験がなければ到底乗り越えることができなかったように感じられます。私が沖縄高専に赴任して2年間ほどは「高専」という教育システムを沖縄県内の私の知人等に理解していただくことに最も力をいれました。なぜなら、当時は県内多方面の方々から「高専って大学や工業高校と違うの?」と言われることが多かったからです。本土の高専はほとんどが今年、創立50周年を迎えて人々にほぼ浸透している中、永く沖縄には「高専」という言葉すら存在しなかった訳ですから無理ありません。しかし、今現在では「沖縄高専に勤めております。」という「沖縄高専生って就職と進学すごいね。」と言われるほどにまでなりました。これも学生・保護者や教職員および産業界と一緒に築きあげてきた賜だと思っております。これからさらに、教育研究ならびに地域へ貢献できるように取り組み、地域に愛される学校になるよう努力していく所存です。10周年、おめでとうございます。





## 採用よりこれまでの沖縄高専での仕事を振り返って



技術支援室

比 嘉 修

私は平成18年に3期生の入学と一緒に沖縄高専の技術職員として配属されました。教育機関で働くのは初めてで、初めころは戸惑いながら学生実験や情報処理センター業務をこなしたのを覚えています。当時の学生はまだ中学校を卒業したばかりの年代で1人1台のコンピュータを持つのは珍しく、不慣れな様子でコンピュータを操作していたように思います。しかし、最近はコンピュータの価格も下がり入学時でマニアックに使いこなす学生も多くみられるようになってきました。それと同時に扱いも雑になっているように感じます。コンピュータは非常に繊細な精密機器です。丁寧な取り扱いを心がけてください。



学生相談室長

メディア情報工学科

西 村 篤

## 学生相談室について

学生相談室は、校内相談支援機関として、平成16年4月の第1期生受入当初から設置され、学生からの相談および学生に関する教職員・保護者からの相談に応じてきました。相談を通じて個々の学生の悩みや困難に寄り添いつつ、学生が自分の決定によって問題を解決できるよう、学内外の連携の促進を含め必要な支援をすることが、相談室の仕事です。学生は、社会連帯の中で自分の能力を最大限に活かして問題にアプローチすることによって、一人の人間として、また社会の一員として、大きく成長していきます。また、ケースに関わった教職員が、奮闘する学生達から学び、変わっていく現場にも立ち会いながら、個々の学生を学校教育の中心に位置づける視点と取り組みの大切さを実感してきました。今後ますます社会は変わっていきますが、その中で、学生相談室は、様々な変化を受容しつつ、保護者を含む地域社会と手を携えながら、すべての学生が学校生活の中で自己肯定感を育める場となるよう学校を改善する視点を持続する必要があります。

表1：沖縄工業高等専門学校学生相談室の記録（平成16～25年度）

年 度	室 長	カウンセラー	保健室担当	相談室運営委員（室長除く）	■社会の動き □高専・本校の動き
H16 2004	眞喜志 隆	島袋 有子	高江洲文枝	松田 昇一・野崎 真也・伊波 靖・平山 けい・永澤 健・古賀 義伸	■障害者基本法改正 □第1回全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究集会
H17 2005	眞喜志 隆	後藤 健治 島袋 有子	高江洲文枝	比嘉 吉一・野口健太郎・奥田 篤士・三枝 隆裕・澤井万七美・古賀 義伸	■発達障害者支援法施行
H18 2006	小池 寿俊	新垣 愛 石島 桂 与那嶺 司	藤田 優子	高嶺 司・眞喜志 治・神里志穂子・奥田 篤士・田邊 俊朗・藤田 優子・古賀義伸	■障害者自立支援法施行 ■教育基本法・学校教育法改正 ■自殺対策基本法施行
H19 2007	小池 寿俊	宮城 桂 与那嶺 司	大嶺千代美 島袋 美華	三浦 敬・眞喜志 治・兼城 千波・奥田 篤士・工藤 雄博・大嶺千代美・南部 元義	■特別支援教育元年 ■JASSO「大学における学生相談体制の充実方策について」報告書発表
H20 2008	小池 寿俊	宮城 桂 与那嶺 司	大嶺千代美 小林 藤子	山本 寛・中本正一朗・神里志穂子・太田佐栄子・工藤 雄博・大嶺千代美・南部 元義	■日本の自殺者11年連続3万人超 ■国連障害者権利条約発効
H21 2009	小池 寿俊	國井 昭男 宮城 桂	武村クニ子 吉浜真由美	澤井万七美・比嘉 吉一・石田 修己・西村 篤・磯村 尚子・武村クニ子・南部 元義	■JASSO「教職員のための障害学生修学支援ガイド」発行 ■内閣府障がい者制度改革推進本部設置
H22 2010	西村 篤	國井 昭男 宮城 桂	武村クニ子 岸本 尚子	澤井万七美・比嘉 吉一・石田 修己・タンスリヤボン・磯村 尚子・小池 寿俊・武村クニ子・南部 元義	■東日本大震災（H23.3.11） □本校で学生支援制度スタート
H23 2011	西村 篤	國井 昭男 宮城 桂	武村クニ子 岸本 尚子	武田ひとみ・中本正一朗・石田 修己・佐藤 尚・磯村 尚子・小池 寿俊・武村クニ子・藤元 高德	■障害者基本法改正 ■日本の自殺者14年連続3万人超 □F Mシステム導入
H24 2012	西村 篤	國井 昭男 宮城 桂	武村クニ子 岸本 尚子	和多野 大・中本正一朗・松林 勝志・タンスリヤボン・三宮 一幸・小池 寿俊・武村クニ子・藤元 高德	■文科省子ども安全対策支援室設置 □学生支援のしおり発行開始 □九州沖縄地区高専学生相談室長連絡協議会発足
H25 2013	西村 篤	國井 昭男 宮城 桂	高江洲文枝 岸本 尚子	中本正一朗・比嘉 勝也・鈴木 大作・三宮 一幸・青木 久美・小池 寿俊・高江洲文枝・藤元 高德	■障害者総合支援法施行



看護師

武村 クニ子

## 保健室での4年間を振り返る

本校の保健室は常勤・非常勤看護師の二人体制で850余名の学生の健康管理に携わっております。保健室業務の一大イベントは新学期初日から始まる健康診断です。全学年を3日間、昨年からは2日間と短期日程での実施は、教職員の協力体制はもとより沖縄高専の学生の規律の良さが評価できます。日々の健康管理においては集団感染に危機感があります。赴任した平成21年は新型インフルエンザが世界的に流行し社会問題となりました。その年は高専のバスケット全国大会とロボコン九州地区大会が沖縄で開催され、緊張の中、感染対策の強化に取り組んだことが印象に残ります。平成22年は沖縄インターハイ“美ら島総体”の成功に向け麻疹対策、平成23年は高専九州地区野球大会とイベントが続きいずれも事なきを得て安堵でした。保健室は今日まで、琉球大学附属病院から人事交流で看護師が入替わってきました。教職員や関係者の方々からご指導頂きつつ引き継ぎ10年を迎えます。喜ばしいことに平成25年度より人事交流は廃止され看護師が高専専任となります。ここに初代からの看護師を紹介し保健室からの挨拶とさせていただきます。今後も心身両面からのサポートを心がけていきます。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

- ◇H16、17年度 高江洲文枝
- ◇H18年度 藤田 優子
- ◇H19年度 大嶺千代美・島袋 美華
- ◇H20年度 大嶺千代美・小林 藤子
- ◇H21年度 武村クニ子・吉浜真由美
- ◇H22年度 武村クニ子・岸本 尚子
- ◇H23～24年度 武村クニ子・岸本 尚子
- ◇H25年度 高江洲文枝・岸本 尚子



武村クニ子・岸本尚子



総務課

野原 茂

## 創立10周年に寄せて

平成17、18年度及び平成23年、24年度にかけて沖縄高専にお世話になりました。

平成17年度の事務及び技術職員の体制は、庶務課（庶務係・人事係）会計課（総務係・経理係・用度係・施設係）学生課（教務係・学生係・図書係・技術専門職員及び技術職員）の体制でしたが、平成24年度は、総務課（研究連携推進室・総務係・人事係・図書情報係・財務係・契約管理係・施設係）学生課（教務係・学生係・寮務係）技術支援室と大きく変わりました。

本科（機会システム工学科・情報通信システム工学科・メディア情報工学科・生物資源工学科・総合科学科）専攻科（創造システム工学専攻）と設置され、教育研究体制や学内運営の充実が図られました。

最初の赴任時は、2期生が入学した時で学生も、教職員も完全ではなく、校内や学生寮も広々と感じましたが、2回目の赴任時は、教職員もそろい、また、専攻科生も在籍し、活気ある校内や学生寮と変化しており、とまどう日々でした。

私事ですが、これまで、大学や青少年教育施設の事務は経験していましたが、そもそも沖縄県に高専がなかったため、高専の制度がよくわからなく、これまで経験のない職務に携わりました。見る物、聞く物すべて初めてのことであり、一つの業務をこなすのに、前例がなく、時間がかかったのを思い出します。

また、県内の中学校の教育関係者、保護者及び企業も一般の専門学校と勘違いされ、電話や事務室に尋ねられて、高専制度を説明するのに四苦八苦したことを今でも覚えています。

最後になりますが、沖縄高専が、今後、ますます、発展し、地域産業開拓、又それを担う人事育成の拠点として、産業界の進行と発展に貢献できることを心から祈念するものであります。

## 沖縄高専の理想と現実



学生課

城間 弘 充

創設準備室時代、上司から、「沖縄県民の沖縄県民による沖縄県民のための高専」が「沖縄高専創設のコンセプト」だと聞かされました。その上司が沖縄を離れる際、「創設時に掲げた理想をいかに実現するかが君たちの仕事だ!」と言い残し、去って行きました。

私たちはその理想を実現できたのでしょうか?それはおいといて(おくのか!?)。

平成14年3月内示後、創設準備室の知花さんが来て「パソコンを選んでください。」好きなパソコンを用意しますとのこと。4月に私は教務係長として創設準備室に異動し、係員として知花さんが配属されました。机の上には選んだのとは違うパソコンが…

当時は係の垣根なく、全員で業務をこなしていました。平成14年10月創設記念祝賀会を琉球大学大学会館で行い、新川教授の骨折りで世界選手権に出場する選手を招待し、空手の型の演舞を行っていただきました。演舞の迫力に創設記念祝賀会ということをおぼえている方もいるようでした。

本校学則の附則には「管理運営に関する学則を廃止する」条文があります。学生受入れ(平成16年4月)までは学科や学生関連のことを記載できません。そこで、学校の管理運営のみを規定する「管理運営に関する学則」を制定しました。条文の疑問点を一つ一つ照会するなど、それ以外にも様々なことを他の高専にお願いしました。沖縄高専の設置には全高専の協力があつたのです。

最初の入試は、校舎もなく教員も揃っていない状態で受験者数も分からず手探りで、試験会場は、琉球大学、県立高校を借用、監督・採点者も琉球大学の教員にお願いしました。募集要項のマスコミへの発表、合格発表、入学説明会も名護市民会館でした。

さて、小ネタはこれぐらいにして、現在(私にとって2度目)の沖縄高専はどうでしょう。多読・多聴、PBLの導入、インターンシップの必修化、教育寮としての学生寮、1年生へパソコンを持たせる等、あの時「できるのだろうか。」と思っていたことが「実現している。」と感じました。高専制度創設50年となり、沖縄高専10年目にして、既に変革の時を迎えています。創ったばかりなのにもう変えなければなりません。

今後の10年、これからの50年に沖縄高専が地域・社会から求められることに対応し、さらに発展していくことを願ってやみません。

糸村前校長、伊東校長を始め教職員、関係機関、産業界及び地域の皆様、そして沖縄高専の伝統を作ってきた学生、その保護者の皆様、皆様方に深く感謝を申し上げます。

## そうだ、高専へ行こう!

沖縄高専を初めて訪れたのは、平成17年7月に採用面接試験に臨んだ時でした。普段、北部へは西海岸沿いか高速道路を通るため、いつのまにこんな立派な学校が辺野古地区に出来たのかと驚き、平成18年4月の赴任前日に家族で沖縄高専の校門前で記念撮影したのを今でも憶えています。

現在、私は事務部の総務課総務係で係員をしており、学内での会議調整や渉外事務に追われる毎日で、学生の皆さんと直接関わることはほとんどありません。にも関わらず、渉外事務の一つである学外者の校内見学の際には専ら学生の自慢話ばかりです。10周年を目前にしても、沖縄高専の施設見学希望者は多く、幼稚園生から老人会まで幅広い年齢層の団体客が訪れ、北部観光の目玉となっているようです。その際には私も同行しガイド役として高専制度の説明や学生のクラブ活動での活躍、就職先、進学先の説明を行うのですが、特に学生からの挨拶が多いことに見学者は感心して帰られます。

この10周年を機に、今後10年、20年と沖縄高専採用の職員として、事務部から沖縄高専の学生のために何ができるかを考えながら、日々の業務に邁進して行きたいと思います。



総務係

平 良 直 人



学生係

城間 義尚

## 沖縄高専での5年を振り返って

私が沖縄工業高等専門学校に採用されて、ちょうど5年となります。私が本校の採用試験を受験したきっかけは、人事係担当者から「沖縄工業高等専門学校の採用面接を受けませんか？」と電話を受けたことでした。私は勘違いして県立高校の「沖縄工業高等学校」からの電話だと思ったため、高校には採用試験願書を提出していないのにどうして電話がかかってきたのだろうと、不思議に感じたことを覚えています。現在は学生課職員として、中学生向けパンフレットの作成や、就職先の開拓のため企業の方への学校紹介等の業務に携わっています。採用される前までは沖縄高専についてほとんど知識がなかった私が学校の広報活動を行っているのは、こうして振り返ってみると不思議な感じがします。

採用されてからは、高等専門学校という学校の仕組みを十分に理解していなかったため、「高校生なのにどうして…」と「大学生なら…」と悩みながら毎日の業務を行っていました。3年目くらいになってようやく、高等専門学校の仕組みや高専の学生がどういうものなのかわかってきた気がします。きっと、学生の皆さんも私と同じように、入学してしばらくの間は高校生と大学生の間で揺れてきたのではないのでしょうか。

私は採用されてから5年間学生課職員として勤務しています。学生課は、中学生への広報活動から入学試験、奨学金や授業料免除、出席・成績の管理、課外活動のサポート、そして進級・卒業と学生生活のあらゆることを業務として行っています。ですので、私は業務を通して学生が入学式からインターンシップや就職活動、卒業研究等を行いながら卒業するまでの過程を間近で見ることができました。私は背が低いので、入学したての学生とだいたい同じ目線なのですが、5年生の学生には見上げながらの学生指導になります。日常業務で学生に接する中で、ついこの間まで中学生だった少年が大人へと成長していくことを実感するとともに彼らに頼もしさを感じます。

学生の皆さんは5年間の学校生活を経て、就職・進学し、社会人として新しい技術によって世界の発展に貢献していくでしょう。卒業生が沖縄高専出身であることを誇れるような学校であるために、我々沖縄高専の職員は学生の皆さんに負けたくないがんばっていきたくと思います。

今回は10周年記念ということで、私を含め卒業生の皆さんもまだまだ下積みの時期だと思いますが、20周年、30周年記念の際には出世して偉くなった皆さんと再会できることを期待しています。

教職員



本校校歌作曲者  
音楽講師

上江洲 安彦

## 校歌作曲の思い

作るのであれば応援歌調ではなく、高専に似合う、誇り高く旺盛な気品あふれる流調なメロディーを作ろうと考えました。開校当初から音楽の授業を受け持っていたので、高専の空気は概ね理解出来ていました。当時の校長糸村昌祐先生に私の考える校歌で良ければ作らせて頂きます、と了解を得て作業を開始しました。校長先生は歌詞を2作学校側で選定します。その中から曲作りに適した物を私が選んで構わないとおっしゃって下さいました。応援歌調はダメと決めていたので、すぐ決まりました。今の校歌です。歌詞は、自然に恵まれた辺野古の高台の校舎に、夢と希望をもった学生が教師と共同して、身に付けた技術力で旺盛な開拓精神を発揮し、沖縄・日本をいや世界に力強く羽ばたいて行く様を感じました。私はその通りにメロディーを付けて行きました。

まず、高台は沖縄高専の象徴的な場所だと思いました。メロディーも低い音域から次第に高い音域へと流調な流れにしました。夢と希望を持った学生たちの思いは編曲の段階で、夢を（夢を）・求めて（求めて）・友と（友と）の様に山彦のような追っかけのメロディーにして、連帯感や友情そして教師との結びつきを強調しました。

次に、身に付けた技術力での旺盛な開拓精神は（これは高専の存在感を高める重要な要素だと感じました。）メロディーに躍動感を持たせ、徐々に緊張感を高め、世界へ羽ばたいて行く様をクライマックス「ああ沖縄高専光り輝け」につなげ、音楽としての最大な盛り上がりを図りました。（沖縄高専の部分は沖縄音階を使いました。）

作曲から編曲まで1カ月程度掛かりましたが、とても良い曲に仕上がったと自負しています。沖縄高専の校歌作りに携わった事は、私にとって誇りでありとても嬉しく思います。



Message from Students

# 卒業生 在校生 より

1▶▶▶10期生





## 沖縄高専の学生・ 卒業生について



from  
メディア情報工学科  
1期生  
真境名 佑 介

皆様こんにちは。メディア情報工学科卒、1期生の真境名佑介です。沖縄高専を卒業後沖縄県内の企業に入社し、現在はIT関連の仕事に携わっています。

私は沖縄高専への入学当初、新しい環境で過ごしていけるか、友人はできるか不安と緊張で一杯だったのを覚えています。しかし、寮生活で常に行動を共にすることで、信頼できる友人がすぐにできました。現在でもそのような友人と交流を続けており、再会した際に仕事や学会等で卒業生が活躍していることを耳にします。これは、沖縄高専でレベルの高い授業を受け、充実した設備の中で、信頼できる友人と切磋琢磨してきたこともあってだと思います。このような環境で成長してきた学生・卒業生であれば、沖縄だけでなく日本や世界で活躍できる力を持っていると思います。創立10周年というまだ歴史の浅い学校ですが、活躍する人が今後増え、世間を騒がせるニュースで「沖縄高専出身」という言葉が聞こえてくることを期待し、私自身も活躍できるように尽力していきたいと思っています。

## 沖縄高専での7年間



from  
機械システム工学科  
1期生  
饒平名 知 真  
(日本精工株式会社)

開校10周年おめでとうございます。私は専攻科を卒業したため、15歳から22歳までの7年間という長い期間、沖縄高専にお世話になりました。そのため、この記念誌の原稿を依頼されたことを光栄に思います。

私の高専生活の一番の思い出は、ロボコンです。私が入学したときは、校舎さえ未完成の状態でしたが、開校1年目からロボコンに出場することができました。当時は知識や技術がほとんどなく、メンバーと喧嘩をすることもありましたが、自分たちで作ったロボットがただ動くというだけで感動さえ覚えました。そして、まさか5年目で全国優勝を経験できるとは想像もしていませんでした。

今は、沖縄から離れた群馬という場所で生活しておりますが、沖縄高専の卒業生とお酒を飲むことがあります。在学中には面識のなかった後輩とも仲良くなり、群馬での生活も楽しく感じています。こういう機会を作っていただき、沖縄高専には感謝しています。

## 翔べ！沖縄高専



from  
情報通信システム工学科  
2期生  
澤 岷 健 太  
(出光興産 (株)  
千葉製油所電気計装課)

沖縄高専10周年おめでとうございます！  
情報通信システム工学科2期生の澤岷健太と申します。

私の学生時代を振り返ってみると、最初は1つ上の先輩しかおらず何をやるにも前例のない中で様々な事で四苦八苦したのを覚えています。辺野古の海では米軍さんとハーリー対決をしたり、レポートの山、テスト科目の多さに驚愕しながらもギリギリまで友達と寮でふざけあったりと辛くも充実した学生生活だったなと感じています。第4回目の高専祭では当時の学生会長から実行委員長を頼まれ、右も左も分からない中で実行委員の皆さんと先生達を巻き込み毎日20時過ぎまで運営に苦しみながらなんとか実行にたどり着けたのはとても印象深い思い出です。現在、私は出光興産(株)千葉製油所で学生時代の様々な経験を糧に充実した毎日を送っております。在校生の皆様には全国各地、様々な分野で活躍する卒業生を思い浮かべながら「今を一生懸命に」頑張っただけだと思えます。

これまでの10年を支えて下さった先生方、保護者の皆様、そして地域の皆様方本当にありがとうございました。私の誇る沖縄高専が次の10年で更に飛躍していくことを期待しております。記念すべき十周年誌にこのような機会を与えて下さりありがとうございました。

水平線まで見えた  
学舎で

from  
機械システム工学科  
3期生  
石 橋 祐 紀

沖縄高専で過ごした5年間は、様々な刺激に溢れていました。機械科ならではの実習や創造研究でのカート、他にも高専祭への取組みやPC甲子園への出場等、思い出深いことは数えきれません。思い出深い定期試験の数も数えきれません。大変お世話になりました。

こういった活動を通して、友人や教職員の皆様と様々な話ができたことが私にとって大変貴重な経験でした。個性的な人が多い我が母校です。物事に対する考え方、価値観、実体験に基づくアドバイス等も十人十色で、毎日の会話に飽きることはありませんでした。

また、3年生から辺野古のアパートで寮外生としての生活となり、同様に辺野古区内のアパートで生活を始めた友人らとよく遊ぶようになりました。よく「星空見に行こうぜ!」と言って深夜から車を走らせたものです。当時の愛車は今でも現役で、当時の思い出が染み込んだステアリングを握って、新たな社会人としての日々を駆け抜けております。

私が沖縄高専に入学した理由の「自動車関係の仕事がしたい」という希望は、富士重工業への就職という形で実現しました。これからは沖縄高専の卒業生として、そして、一人の技術者として胸を張って誇れる躍進を見せていきたいと思っておりますので、どうぞご期待下さい。



## 03 孤独じゃないグルメ



from  
創造システム工学専攻  
電子通信システム工学  
コース  
情報通信システム工学科  
3期生

松原 瞭

寮での生活は大変思い出深く、寮生活を通じてたくさんの大切な仲間ができました。

本校の学生になって2年目のある冬の日、進級も近く私自身も3年生からは辺野古にあるアパートに一人暮らしをすることが決まっており、最後に何かしたいなあと思っているときでした。友人の誰かが「コンビニのおでん買い占めておでんパーティーをしよう!」と提案してきたのです。そうと決まれば実行に移すのは早く、辺野古で唯一のコンビニに行きおでんを買い占めて、学習時間帯の終了と同時におでんパーティーをしました。補食室の鍋でおでんを温めて、わざわざ寒い中ベランダで食べるおでんは格別の味だったことを今でも覚えています。もちろんおでんの具が半端な量ではないので鍋の中身が無くなる度にピクピクしながら補食室に行き、温めて部屋に戻るという作業を繰り返しました。

その時、おでんの鍋を囲んだ友人たちは今でも仲が良く就職や進学で県外に行ってしまった友人とも交流があります。高専で出来た友情は一生ものだろうなあと思稿を書きながらぼんやりと考えております。

## 04 高専で得たもの



from  
メディア情報工学科  
4期生

清末 尊

高専では実に様々なものを得ることができた。一つは専門の幅広い素養である。正直なところ4年次までは専門の内容を幅広く学んでいる割に理解できているように思えなかったのだが、5年次になり卒業研究を進めたり、講義を受けたりしているうちに今まで学んできた専門の素養が活かされる機会が出てきたことで、少しずつではあるが高専で学んできた内容が身につけているのだな、というのを感じた。そして大学に進学した今、高専で学んだことを活かす機会は決して少なくない。

二つ目はかけがえのない人間関係である。それは同学年の友人、先輩方、先生方、事務職員と多岐にわたる。友人との関係でギクシャクすることも何度かあったが、ここで培った人間関係が私自身の成長に大きく貢献している。卒業後もやり取りする機会があり、改めて培った人間関係のありがたみを感じる今日この頃である。

そして最後になったが、私と関わりがあった友人、先輩方、先生方、そして事務職員全員に深甚な万謝をささげる次第である。



## 365 × 5 の日々



from  
生物資源工学科  
4期生  
大瀨 清香

この度は御校創立10周年にあたり心よりお祝い申し上げます。私は平成23年卒業4期生物資源工学科の大瀨清香です。

私は離島出身で高専入学と共に親元を離れるということもあり、初めは新しい環境でやっていけるのか大変不安でした。そんな私に寮では指導寮生の先輩方が優しく声をかけてくださり、また2人部屋ということもありすぐに友人を作ることができ、親元を離れた寂しさを感じない楽しい日々でした。寮は1年生から5年生までと一緒に生活するので部活をしていなかった私でも先輩、後輩問わず多くの人と出会うことができました。厳しい寮則の下での生活はたまに息苦しく感じることもありましたが、貴重な友との出会いや5年間の充実した日々を与えてくださった高専に感謝しています。

結びに当たり御校の益々のご発展と校長先生をはじめ教職員の皆様方のご健康を心よりお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

Passing point  
～高専生活の歩み～

from  
機械システム工学科  
5期生  
山内 寿朗

私が沖縄高専に入学して5年目になりましたが、非常に充実し成長した5年間でした。入学当初は、中学校の頃より勉強することが多かったことや慣れない土地での寮生活が嫌で毎週のように実家に帰省していましたが、段々と勉強の要領も分かり、友達も増え部活にも参加し楽しいことが増え、知らず知らず楽しい学校生活を送っていました。

私が入学前に考えていた高専のイメージは、個性的な学生や先生が多いと思っていたのですが、体育会系の人や気軽に話せる人も多いので、非常に良い環境だと感じています。思っていたより行事も多く、その中でも高専祭は普通の高校では味わえないような経験ができます。高専祭では習ってきたことを活かすことのできる場であり、先輩達の技術も見ることができるからです。

高専は、編入もしやすく就職に関しても求人数が多いという利点があり、先生は企業出身の方が多いので進路相談に関しても非常に良い環境だと感じます。

最後に5年間沖縄高専で学んだ経験を通して私が後輩に対しアドバイスするとすれば、勉強も大事ですが、進学するにも就職するにもコミュニケーション能力が非常に重要だと感じます。授業で行われるPBLやディスカッションにはしっかりと取り組み、コミュニケーション能力を養った方が良いと思います。

また、高専で共に学んだ友達との繋がりも高専で得られる財産の一つです。なぜなら、5年間という期間で固い絆を築いた大切な存在であるということだけでなく、様々な企業に就職していくので、社会人になってもこの繋がりは大きな意味を持つていくからです。

## 高専生活の思い出、 変化する沖縄高専



from  
生物資源工学科  
5期生  
吉田若菜

私たちの5期生が入学した年は、沖縄高専に初めて1年生から5年生までの全学年が揃った年です。入学当初は沖縄高専の沖縄県内での認知度は低く、学外で所属を尋ねられたときに「沖縄高専に通っています」と答えると、よく「沖縄高専ってどこにあるの?」「4年制?」「専門学校?」「大学とはどう違うの?」などと聞かれたことを覚えています。

新しい学校ということで、この5年の間に、100分から90分への授業時間の変更や寮の休日日課の廃止、専攻科棟の建設、温室横の芝生の生えた場所が学生駐車場になるなど様々な変化を見てきました。施設や規則以外にも、毎年違う高専祭や体育祭、寮祭、クラスマッチなどのイベントの様子や、毎年カラーの違う入学生の様子も見てきました。また、低学年の頃は1期生、2期生の先輩方も在学中だったので、学校ができたばかりの時期のエピソードも多く聞きながら学校生活を送って来ました。

私は本科卒業後、沖縄高専の専攻科へ進学します。これからあと2年、また卒業してからも、更なる変化を続けていこう。沖縄高専の、学生・卒業生として社会の発展に寄与できる人材となれるよう、人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者を目指して行きたいと思います。



## 私の高専生活



from  
メディア情報工学科  
6期生  
久貝杏里

沖縄高専は、未だに足を踏み込んだことのない施設やカラフルなパイプ、何百台もあるPC、夢の詰まっている工場、実験室など他の高専と比べても自慢できるものばかりです。しかし、辺野古という周りにはコンビニしかない環境ですがその中でも私たちは楽しみを見出して生活しています。

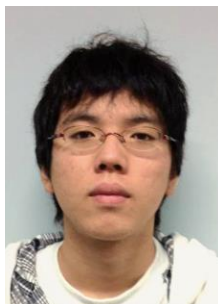
寮生活では、ご飯もお風呂も掃除も友達と一緒に過ごしましたが飽きることはありませんでした。声を殺し見たホラーDVD、ベランダで相部屋と語り合い風邪をひいたり、急な腹痛で夜、病院に運ばれた時も友達が助けてくれなければ冷たい床で朝まで悶え続けていたことでしょう。1か月に1・2回しか帰らない私に帰寮する際、母が寂しそうに「次はいつ帰るの?何が食べたい?忘れ物はないか?」など心配そうに見送ってくれました。少し寂しさが残りながらも寮に到着すると、友と休日なにをしていたのか?という話題に花が咲き時間を忘れるくらい笑いました。

“ ¥ ; & | ” この記号がキーボードのどこにあるかわかりますか?1年生の私は1つもわかりませんでした。こんな私ですが、苦しいテスト、課題、PBLでは、先生や友達が見捨てずに教えてくれ、エナジードリンクを片手に深夜まで奮闘し、乗り切ることができました。

もう少しで4年生が終わります。1年、1年を精一杯楽しんだ私にはここではお話できないほどの思い出があります。



## 学生生活の思い出



from  
情報通信システム工学科  
6期生  
松田 祥揮

私が沖縄高専へ入学して早4年、今思い返すととても長くても短い4年間でした。入学当初はそれまでの環境との違いに四苦八苦したのですが、それも今となっては懐かしい思い出です。

さて、私の学生生活での一番の思い出といえば、やはり学生会活動が挙げられるでしょう。1年次の頃より学生会執行部に参加し、仲間とともに様々な行事の企画・運営を行ってきました。その際に学生主事の眞喜志先生から頂いた「学生主導でこれほどの行事ができるとは素晴らしい」というお言葉が今でも深く印象に残っており、私自身もこれまでの4年間で行ってきた体育祭や高専祭等の行事はすべて成功に終わったことを誇りに思っています。これはひとえに全学生の協力の賜物であり、沖縄高専の魅力だと感じています。

平成25年で本校は開校10周年を迎えます。まだまだ歴史は浅いこの学校ですが、これからも沖縄高専の学生の一員としての責任を持ち、開拓精神あふれる学生としていられるよう一日一日を過ごしていきたいと思っています。

## 経験と挑戦



from  
メディア情報工学科  
7期生  
照屋 大地

沖縄高専へ入学してから今まで、様々な経験をする事ができました。好きなことから触れたこともなかったものまで様々な分野に触れ、自分の興味が大きく広がるきっかけとなりました。なかでも、入学するきっかけとなったプログラミングについては多くの経験を得ることができ、高専ロボコン、高専プロコン、パソコン甲子園、情報オリンピックなど数々の大会へ参加しました。

1年生のプログラミングを始めたばかりの頃は何を作ればいいのか、何が作れるのかもわからず過ごしていました。しかし今では、大会に参加する中で自分の得意分野を発見し、組み込みエンジニアになるという目標を見つけそれに向かってプログラミングを学べるようになってきました。パソコン甲子園では、1年生の頃には夢にも思っていなかった日本一の賞を受けることもできました。

こうした経験ができ、高専に入学して本当によかったと思います。これからは世界を目指して、これから卒業するまでの間もさらに挑戦を続けていこうと思います！

## 自転車活動を通して



from  
機械システム工学科  
7期生  
宮城 祥

10周年おめでとうございます。僕は、自転車部部長の宮城祥です。自転車部は、僕が1年生の時に設立しました。1年生の時のインターハイ予選では、練習不足と北中城高校といったライバル校との実力の差を思い知らされました。この結果を生かして、練習量を上げました。新人大会では、夏休みの成果が出てロードレースでは、7位になることができました。ここで、自分は九州大会出場を目標とし次のインターハイ予選まで練習しました。その結果九州大会まで出場することができましたが、九州のレベルは高く歯が立ちませんでした。この結果から、次はインターハイに出場すると決め練習しました。夏休みは、家から北中城高校まで練習しに行き春休みもハードな練習をしました。そのおかげで、3年生の最後で全国大会まで出場することができました。また、国体にも参加できとても良い経験ができました。僕はこの自転車競技を通して、コツコツ努力すること粘り強く頑張るという2つを得ることができました。この2つを勉強や将来就職に生かしたいです。4年生からは大きな大会がなくなるので、これからは、この経験を活かして後輩を育成していきたいです。

## 入学してからの2年間



from  
情報通信システム工学科  
8期生  
原田 拓真

僕がこの沖縄高専に入学してから早2年となり、時間の速さに驚かされます。入学当初、初めての寮生活や長い講義時間に戸惑っていたことが最近のように感じられます。しかし、この2年間は決して内容の薄いものではありませんでした。

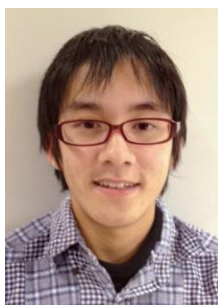
入学して早々に体育祭が開催され、お互い出会ってまだ日の浅かった友人との交友を深めることができました。学習の面では、興味のある専門的な講義を早い段階で受けることができ、とても身が入りました。また、僕の所属しているロボット製作委員会では、講義では学ぶことのできない技術を身に付け、多くの経験を積んでいる最中です。後期になり、沖縄高専の一大イベントである高専祭の準備に追われ、多忙な日々が続きましたが無事成し遂げることができました。2年生になると、学校生活にはほとんど慣れることができましたが、1年生の頃とは比べものにならない程のレポートに追われることになり、グループによる大きな課題もありました。このように普段の講義に、学校行事などのイベントや定期試験などが重なると、投げ出したくなるほど大変なこともあります。その都度、友人たちと助け合いながら、いろんなことを積み重ねて、乗り越えてきました。

もうすぐ沖縄高専本科の折り返し地点に差し掛かります。今後とも気合を入れて、勉学に励みたいと思います。



## ファイト！

08



from  
生物資源工学科  
8期生  
渡 邊 雄 介

「ファイトー！」僕はこの言葉が大好きです。

月曜日と木曜日の放課後、そして週末はいつもバドミントン部の「ファイトー！」が体育館中に響き渡っています。

私がこの部活をやり始めてもうすぐ2年が経とうとしています。僕は、強くなることを目標にして日々の練習に挑んできました。毎日が充実していると感じます。

しかし、入部したての頃はよく心が折れていました。高専に入学して「バドミントンってカッコイイ！」と軽い気持ちで入部した私ですが、日々の練習は思っていたより厳しく、到底中学からやっているみんなにはついて行くことができませんでした。始めのうちは入部したことを後悔したこともありましたが、みんなからの熱い応援が私を退部から留ませたのでした。足が絡まりそうになりながら不格好にノックを受けているとき、みんなの「ファイトー！がんばれ！ナイスショット！」というこの言葉たちがいつも私を励ましてくれました。そして、みんながいたからやる気が奮い起こされ、これまで頑張ることができたのです。最近初めて公式戦で一勝することができたのもみんなのおかげです。

これからの部活動生活でも、みんなの「ファイト！」に助けられ続けると思います。

そして、その「ファイト！」に応えるために頑張っていきます。

## 沖縄高専に入学して

09



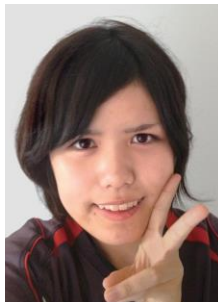
from  
機械システム工学科  
9期生  
幸 地 吾 大

私が沖縄高専に入学して半年が経ちました。最初はこれからの事について心配事が少なくありませんでした。学習面においてはちゃんと単位が取れるかとか留年はしないだろうかととても不安でした。

また学生寮での生活はちゃんと送れるかとか不安だったけれど先輩方に寮での過ごし方をご指導してもらい、寮生活もすぐ楽しくなりました。学校の講義も90分と長めですが先生達が楽しい講義をしてくれるためとても時間が流れるのが早く感じます。相変わらず勉強が苦手な私は頭の良い先輩や仲の良い友達に数学を教えてもらいテスト前に頑張り、そのおかげかテストの点数も思っていたより取れ、今年は留年の心配は無さそうです。前期は級長も務め、体育祭ではクラスの中心となって障害物リレーや、騎馬戦、5色綱引き、とても盛り上げることができました。5学年まである学校の体育祭だけあって盛り上がりが他の学校にはないまた違った盛り上がりだと思いました。先日行われた高専祭では屋台でフレンチトーストの販売を行い、とても大好評だったことにとっても嬉しく思いました。これから5年間色々な壁が立ちちはだかると思いますが諦めず自分と戦いながら頑張っていきたいと思います。



## 09 沖縄高専を選択して



from  
情報通信システム工学科  
9期生  
武田都子

私は将来、高専で培った知恵と知識で人助けをしたいと思い、沖縄高専の情報通信システム工学科を選びました。最初は高専という学校の仕組みが分からなかったのですが、『未来への道は自分で切り開く!』と言うことが、先輩たちの背中を見て伝わってきました。

地元が島外にある私は、高専に入学する前に不安に押しつぶされそうでした。仲の良い友達と離れ離れになる、そして辛い時や嬉しい時、いつも側で励ましてくれた家族とも離れ離れになる。入寮して何度もくじけそうになりました。しかし、自分自身で自立という道を選んだからには、立派な大人になろうという気持ちもありました。何ヶ月も友達と寝食を共にし、辛いテストや楽しい行事も友達とならなんでも楽しみにかわりました。大変な勉強も、焦らずに自分自身のペースでやっています。そして、自然豊かな環境の中、部活動にも励むことができています。

現段階で私はまだ技術者として未熟だと思います。しかし、卒業する頃には、今の先輩を越せるような立派な人間、そして技術者になりたいと思います。

## 10 頑張る高専生活



from  
メディア情報工学科  
10期生  
知念響紀

2013年4月3日、私は晴れて沖縄高専の第10期生になりました。私は、難しさに定評のある学力試験ではなく、専門実習という少しユニークな方法で高専に合格したため、学力試験を突破してきた人々とは、学力において少し不利な状況にあります。そのため高専では人一倍勉強を頑張り、定期試験では、親に見せても大丈夫な順位に入れるようにしたいです。

また、勉強以外にも様々なことを頑張りたいと思っており、特に私が興味を持っているものはパソコン甲子園というコンクールです。賞金の30万円も魅力的ですが、プログラミングの腕を全国の高等学校と競い合うという内容にとっても興味があり、参加したいと思っています。

沖縄高専は他校よりも歴史が少し浅い学校ですが、勉強のことでもそれ以外でも、可能なことは他校よりもはるかに多いと思います。様々なことに挑戦しながら充実した学校生活を送り、これからの沖縄高専の歴史を作っていきたいです。

## 早くから工学を志して

10



from

生物資源工学科

10期生

八幡 雅樹

こんにちは。生物資源工学科1年の八幡雅樹です。

去る4月3日、平成25年度入学式が行われ私たち10期生が沖縄高専の門をたたきました。工学を極め技術者として社会に貢献するために、沖縄高専の学生として日々の生活を友と共に切磋琢磨していきたいです。

成功させるものは早くから取り組む。これは何にでも通用する言葉だと思います。皆さんもご存じのメジャーリーグで大記録を打ち立てたイチロー選手。彼は3歳の頃からバットを持ち始め、寝るときでも離さないほどの野球好きだったそうです。

私たち高専生は同じ年代の高校生よりも早くから工学を志し学びます。そしてイチロー選手が早くからバットを握ったように、私たちはピッペットや高度な精密機器を扱います。

あのイチロー選手のように努力すればきっと将来は技術者、あるいは研究者として成功するはず。しかし、本当に成功させるには人一倍の努力をしなければなりません。

これから5年間「学生としての本分」を忘れずしっかりと勉学に励んでいきたいです。





Message from  
Staff of student dormitory

# 学生寮創設 から現在に 至るまで

2003 ▶▶▶ 2013







元寮務主事

(平成16年4月～  
平成22年3月)

生物資源工学科

濱田 泰 輔

## 学生寮での生活の始まり

平成16年4月から平成22年3月まで寮務主事を拝命いたしました。その期間の中では、やはり、1期生の受入れ時のことが最も記憶に残っています。平成16年4月10日入学式、入寮式により新入生として寮生を受け入れました。校舎も学生寮も未完成であり、工事と並行しての寮生活が始まりました。女子寮は完成していましたが、男子寮は完成していた3分の1のみの使用に限られ、洗濯室、補食室などが不十分で、さらに、建設工事も行われている中での寮生活が数か月続いたのを鮮明に記憶しています。本当に大変なスタートでした。しかし、実際に生活が始まると、多くの寮生は寮生活の中で友人と共同生活をしていくことの大変さ、有意義さなど身につけながら実に立派に成長していってくれました。

また、寮生の皆さんは、寮生会を組織し、自ら規則を制定して実際に寮運営に頑張ってくれました。今では無くてはならない組織として有効に機能していると思います。寮生会と並んで指導寮生会の皆さんの働きも大きいと思います。それらの会の役員の皆さんのみならず、寮生一人一人の寮での毎日の規則正しい生活が新たなルールとなって素晴らしい沖縄高専の学生寮として現在に至っているものと思います。

多くのイベントも行いました。記憶をたどると、やはり楽しかったイベントがまず思い出されます。クリスマス会や、七夕祭りなどもみんなで開催して楽しんでいました。懐かしく思い出される卒業生の皆さんも多いのではないのでしょうか。学生寮での共同生活ではつらいこと、納得できないこと、我慢しなければならなかったことなどたくさんあったとは思いますが、それらの事も人生の糧として欲しいと願っています。

最後に、現在のような学生寮が創りあげられたのは、寮生の皆さんの日頃の努力はもちろんですが、学生寮にかかわられた多くの皆様のご尽力に依るところも大きかったことも忘れてはならないと思います。



元寮務係長

(平成19年4月～  
平成21年3月)

田中 隆 治

## 学生寮に想う

沖縄工業高等専門学校創設10周年おめでとうございます。

私は平成19年4月から平成21年3月まで初代寮務係長として勤めさせていただきました。赴任するまでに全国の色々な学生寮を見てはおりましたが、沖縄工業高等専門学校のように立派で設備の整った学生寮は初めてでした。その巨大な施設に約560名もの寮生諸君が生活しているということで、当時は随分と緊張した事を覚えています。

また赴任する直近まで学生寮の業務を少々は経験しておりましたが、大所帯の事ですので、次から次へと様々なハプニングが起こり、その都度対応等に追われた事を今でも懐かしく思い出します。

そんな混沌とした状況の中、平成21年3月に記念すべき沖縄工業高等専門学校の寮生第1期生を送り出すことができたことは、私にとって何事にも代えがたい喜びとなりました。

在職期間僅か2年という非常に短い期間ではありましたが、濱田寮務主事を始め素晴らしい学生寮運営スタッフの皆様のお力添えにより一丸となって学生寮運営に取り組めた事を己の一生の宝と胸に刻み、今日も高等専門学校にて業務に励んでおります。

最後になりますが、沖縄工業高等専門学校の益々の御発展をお祈り申し上げます。



寮務係指導員

宮城安暉

## 沖縄高専に勤務して

私が、国立沖縄高専に勤務するようになったのは、平成19年4月からである。月日の経つのは早いもので、6年目を迎える。学生寮に来てびっくりしたのは、すばらしい施設であることだ。私も高校3年間、寮生活をした経験があることから、私が青春時代を過ごした寮の設備とは、雲泥の差があつた。個室でプライバシーは守られ、勉強机やベッド、クローゼット、収納庫おまけにクーラー付きと来ている。このような環境のもとで、勉強できる学生がうらやましかった。その次にびっくりしたのは住んでいる学生の礼儀正しい言葉づかいや態度である。これまで小・中・高とPTA活動をしてきた私は、校外指導部に籍をおき多くの学生と関わってきたことや、特に市内の高校生とは長いこと接していた関係で、その学生達と高専の学生と比べると全く異質なものに感じられた。これまで関わってきた学生は、茶髪はもちろんピアス等は普通であった。高専ではそれが全く見られなかったことである。それが最近では高専でも茶髪やピアスが目立つようになった。その風潮が高専にも押し寄せてきたかと、少し寂しさを感じる。

6年間勤務している間には、いろいろな出来事があった。人生楽あれば苦あり、喜びあれば悲しみありと言うが、うれしい出来事もたくさんあった。その中で印象に残っているのは、1期生のロボットコンテスト全国大会優勝である。それは私が採用された年の、全国大会だったと記憶している。その他にもプログラミングやパソコン甲子園等で優秀な成績を納め新聞に報道されたことは、まだ記憶に新しい。

その反面悲しい出来事もあった。高専の学生が犠牲になった、交通死亡事故があった。事故現場が、通勤途中の道路であることから通行するたびに、寮内でいつも声かけしていた学生であっただけに、思い出されて悲しくなる。今後、そのような悲しい出来事が無いことを祈るばかりである。その他に、やむを得ない家庭の事情で、寮を去っていく学生、途中で進路変更する学生を何名か見てきた。それらの学生の後ろ姿は何となく寂しさを感じられ、その学生の今後の奮起を期待し、豊かな人生を歩むことを願わずにはいられない。

500名余の、異年齢の学生が集い、寝食を共にする学生寮。寮生活を通じ多くのことを学んでほしい、生涯友と呼べる仲間を得てほしいと願っている。これからも学生達が、安全で安心して快適な寮生活ができるよう、指導員として支援していきたいと考えている。沖縄高専の益々のご発展を祈念申し上げ終筆とする。





学生課寮務係長

(平成13年10月～  
平成17年3月、  
平成23年7月～)

知花 恭史

## 開学当時を振り返って

私は、平成13年10月に琉球大学に採用されると同時に、沖縄高専の創設準備室に配属されました。それから平成17年3月まで、沖縄高専の創設に関わった3年半の経験は、私の事務職員としての、また社会人としての原点であり、大きな財産でもあります。

しかし今、開学当時のことを聞かれても、なぜか忘れてしまっています。私は平成23年7月に再び沖縄高専に異動してきて、他の職員から時々「開学当初は〇〇ってどうしてた?」などと聞かれることがあります。背景や経緯をほとんど覚えていないのです。私の原点であり、大きな財産なのに…。

当時も主に学生寮を担当していましたが、初代寮務主事となる濱田教授を中心に、寮生活の基本となる寮日課（門限、点呼、清掃、学習時間など）、個室か相部屋か、帰省等の事務手続き方法、さらに宿日直の体制まで、寮生の安全を最優先に考えながら、とにかく学生寮に関するすべてを決めていく必要がありました。

規則や日課などのソフト面と同時進行で、施設・設備等のハード面も決めていくわけですが、これがまた膨大でした。居室の数、洗濯機の数、トイレの数、シャワーの数、部屋の配置・間取り、必要な家具の種類・大きさ・材質…。その上、解決すべき問題も山積していて、しかし平成16年4月学生受入というタイムリミットが迫っている中で、原案を作っては議論を重ね、一つ一つクリアしていく作業を繰り返し、振り返りもせず、ただ前に進まなければならない状況でした。

当時のことを忘れていた“言い訳”が長くなりましたが、学生が入学してからも、いろいろな問題がありました。

500名以上の寮生がいる現在から考えれば、「何であんなことが問題に?」と思うようなことも多々ありましたが、その1つが入浴時間の問題でした。

当時も寮日課に定められた入浴時間は17:00～20:30だったと思いますが、たった170名の寮生が、その3時間半の入浴時間では混雑して入浴できないという不思議な事態になっていました。答えは簡単、部活動を終えた寮生が入浴時間終了間際に集中することが原因でした。

それではいくら広い浴室があったとしても混雑するのは当たり前ですが、手探り状態の1期生たちは、全寮生が気持ちよく入浴するためにはどうすべきか、真剣に議論を重ね、自分たちでルール作りをしていきました。同じく手探り状態だった私も、「数年後に寮生が500名以上になったときに、一体いくつ浴室が必要になるのだろう」と、これまた真剣に心配したものでした。

平成23年度に寮務係長として戻ってきた際には、男女各棟ともシャワー室も増設され、時間帯によっては混雑している（時間を守らない者もまだいるが…）ものの、問題はほぼ解決されていたので、その後の寮関係教職員と学生たちの努力で解決したのだろうと安心しました。

開学前には、多くの高専から協力を得ながら寮運営について検討を重ね、周到に準備をしてきたつもりでしたが、ソフト面でもハード面でも、学生が生活してみても初めて分かる問題がたくさん出てきました。

私は平成17年度に琉球大学へ異動してしまいましたが、その後の数年間は寮生と教職員が一緒になって、頭を突き合わせながら、学生寮の運営について考えてきたのでしょう。そのご苦労は大変なものだっただろうと想像できます。

私の場合、そんな苦労は忘れて、ついでに忘れてはいけない背景や経緯まで一緒に忘れてしまっているわけですが、寮生の皆さんには、先輩たちがどのように沖縄高専の学生寮を築き上げてきたのか、忘れずに語り継いでいって欲しいと思います。



財務係  
元寮務係  
(平成19年4月～  
平成21年6月)  
**佐加伊 裕也**

## 学生寮で勤務して

私が寮務係に配属された頃、学年進行とともに増加した寮生数は、学生寮のほぼ満員の540余名にまで達した。これだけの大人数の寮生活を成り立たせることができたのは、その陰に寮生会役員の学生達の懸命な働きがあったからだと思う。

寮長、副寮長は役員達をまとめ上げ、寮生会組織の基礎を築いてくれた。指導寮生は、共同生活に慣れない下級生の面倒をはじめ、全寮生の生活を幅広くサポートしてくれた。環境美化委員（現整美委員）は毎日の清掃指導や、新たに導入された名護市の細かいゴミ分別の指導に奮闘してくれた。この場では語り尽くせないほど、彼らの日頃の働きにはいつも感心させられていた。今でも、寮生会役員達が自身の大切な時間を削り、全寮生のより良い生活のため、夜遅くまで議論していた姿が目に見え、私も僅かながら彼らを助力する機会に恵まれ、大変貴重な経験を積むことができた。余談だが、先日学生寮での宿直業務の際、現寮生会役員が事務室前で一生懸命学生寮の運営について議論する場を見かけ、「寮生活を良くしたい」という思いが今の学生達に受け継がれていることを実感できた。



総合科学科  
元寮務主事  
(平成22年4月～  
平成24年3月)  
**網谷 厚子**

## 2代目寮務主事として

全国の高専でも3番目に大きな高専寮である。日々新たなドラマが繰り広げられる。指導寮生・整美委員等、委員たちもキビキビと動き、寮生会は活発に自分たちの仕事をこなす。他高専寮を見学した寮長・副寮長たちは、自分たちの寮がどれだけきれいか、再認識する。他高専からの見学も相次ぎ、沖縄では簡単にできない、貴重な交流ができた。

私が寮務主事をして2年間、全居室を個室にし、転落防止柵を設置するなどした。大きな台風がいくつも襲来し、何時間も停電したり、非常食料を何回も食べたりした。寮生の安全をいかに確保するか、どうしたら楽しい寮にできるのか、社会規範をどのように身につけさせるか。試行錯誤の日々であった。一番多い学生で、人生の4分の1以上もの時間を過ごす場所である。人生の中で、かけがえのない思い出の場所であって欲しい。



生物資源工学科  
元寮務主事  
(平成24年4月～  
平成25年3月)  
**山城 秀之**

## 3代目寮務主事として

宜野座村に居住しているため最初は務まるか不安があったが、思いの外順調である。寮生会役員や指導寮生他多くの委員の協力に負うところが大きい。550名余の寮生は実に多様でモグラたたきに辟易することもあるが、話してみると意外に素直で拍子抜けすることも多い。

一方、新しさを売りにしてきた寮もさすがにほころびが出始めたこの頃である。今夏、懸案だった洗濯機・乾燥機を新品に総入れ替えしてほっとしていたところ、漏水により女子寮のエレベーターが故障し長期に渡って女子寮生や宿日直にあたられた教職員に多大な不便をかけることになった。加えてブリッジの雨漏り、不便ながら幻想的な照明も思い出となれば喜。なお、数年後のエアコンの更新を想定して準備に入っています（受益者負担となります）。ハード面ソフト面どちらにせよ、2年間あるいはそれ以上の寮生活は今後の糧となります、きっと。



契約管理係

元寮務係

(平成21年4月～  
平成24年3月)

比嘉道也

## 成長を支え、支えられた3年間

平成21年4月、高専に採用されてまだ8ヶ月しか経たない自分が、寮務係に配置換えとなった。学生寮勤務初日、厳しいと噂されていた主事に「ご栄転ですね。」と励まして頂いたのがとても懐かしく思えます。それから3年間、台風で停電になり1階～9階まで何回も走り回ったこと、寮生と一緒に大掃除したこと等、寮生560名の相手は毎日色んなドラマがありました。

寮生は“味”のある人物が多いため560名の指導は、上司や同僚に相談して協力を仰いだり、自分の指導方法への自問自答を繰り返しながらの日々。時には、寮生から教えてもらい目から鱗が落ちることもしばしば。

集団だと手のかかる寮生だが、一人一人と話をすると、皆よく笑い、規則の多い寮生活を「もっと楽しく!」「もっと充実させよう!」と頑張っている事に気づき、その笑顔を見ると仕事のモチベーションが自然と上がっていきました。

自分が寮で過ごした3年間で、寮生に対しどれだけ正しいサポートが出来ていたかわかりません。だが、学生は自分が夢中になれることを学ぶために沖縄高専に入学しており、その努力を深めていく姿を間近で感じる事が出来る寮での仕事に携われたことを、すごく誇りに思います。今後、どんな人材がここから育っていくのか、とても楽しみです。沖縄高専10周年、本当におめでとうございます!

### 学生寮指導員

男子寮担当		
高良 誠		H16.4～H17.3
祖慶 剛児		H17.4～H17.8
高江洲 匡孝		H17.9～H19.3
宮城 安暉		H19.4～

宿直指導員		
上原 清		H25.2～
當山 弘		H25.4～
知念 隆		H25.4～

女子寮担当		
島袋 みつか		H16.4～H18.3
金城 和美		H18.4～H19.3
高良 飛鳥		H19.4～H19.5
宮城 愛梨里		H19.6～H20.3
大塚 真紀子		H20.4～H20.6
田港 こず江		H20.7～H20.7
島袋 雅美		H20.9～H22.3
安里 美波		H22.4～H25.3
田港 千亜紀		H25.4～



元寮長  
生物資源工学科1期生  
宮城央子

## 学生寮での思い出

創立10周年、誠におめでとうございます。卒業生のひとりとして心よりお祝い申し上げます。1期生が入学して早10年が経つのだと思うと、非常に感慨深いものがあります。

私は高専在学中の5年間を学生寮で過ごしました。その間、指導寮生や寮長などを務めさせていただきました。学生と教職員との間に挟まれ大変だったこともありました。今となってはそれら全て含めて良い思い出となっています。

私たち1期生の入学当時、学生寮には午後9時から11時までの学習時間以外、決まりといえるものはほとんど何もありませんでした。決まりがないということは、やらなくてもいいということではなく、全て自分たちで考えてやらなければなりません。そのことに気づいたのは、入学して何週間目かに出た、女子寮4階からの「4階の掃除の負担が大きい」との意見がきっかけでした。当時の掃除は、各フロアに住んでいるメンバーがそのフロアを担当するとしか決まっていなかったため、大浴場がある4階はフロア掃除だけでなく大浴場も毎日掃除しなくてはいけません。また、それに付随して各フロアでの掃除方法に違いがありすぎるとの意見も出ました。そこで、大浴場・補食室・洗濯室等の共通ブースの掃除の当番制と、掃除方法を定めることになりましたが、どこからどう掃除するのか、時間内に終わるのか、各フロアへの伝達方法など、本当に一から決めなければならず、この時に初めて“決める”ということの意味と大変さを知りました。この掃除当番を皮切りに、指導寮生の制度、寮生会則と、皆で意見を出し合い協力し合いながら一つ一つ作り上げていきましたが、学生だけではどうしようもないことも多く、寮務主事の濱田先生をはじめとする先生方、寮母の島袋みつかさん、事務の方々には本当にお世話になりました。私が寮長になったのは、後輩も入学し、掃除方法なども定着してきた4年生の頃で、着任後の主な仕事は、前々から意見があがっていた寮生会則の作成でした。原案を書き、寮の定例会で委員長たちと話し合っ、時間をかけて何回も書き直しをしました。また、他高専の学生寮へ実際におじゃまして、寮生会則のことについてお話を聴き、その寮の寮長・副寮長の方々と寮生活の問題点等について話し合ったこともありました。寮生会則の作成だけでなく、寮生会の運営や定例会での話し合いがうまくいかずに諦めなくなったことも、自分の不甲斐なさに少し泣きたくなったこともありました。しかし、それらがうまくいった時や完成したときには、大きな達成感と次も頑張ろうと思える気持ちを得ることができました。それらの気持ちは、卒業後も私の原動力となっています。

沖縄高専で過ごした5年間という貴重な時間は、今の私にとってかけがえのないものであり、大きな財産です。本当にありがとうございました。



# 学生生活・部活動

第 3 章

**10th**  
**Anniversary**

---

Okinawa National College of Technology

# 学生たちの活動記録

## 学生表彰台帳 優秀賞

番号	年度	学科	学年	氏名	表彰期日・場所	交付年月日
第1号	20	機械システム工学科	5	真謝 仁志	卒業式・式典会場	平成21年3月21日
第2号	20	情報通信システム工学科	5	うちま 友貴	卒業式・式典会場	平成21年3月21日
第3号	20	メディア情報工学科	5	すずき 裕太	卒業式・式典会場	平成21年3月21日
第4号	20	生物資源工学科	5	みやぎ 未央	卒業式・式典会場	平成21年3月21日
第5号	21	機械システム工学科	5	いとかげ 建太	卒業式・式典会場	平成22年3月20日
第6号	21	情報通信システム工学科	5	真嘉比 愛	卒業式・式典会場	平成22年3月20日
第7号	21	メディア情報工学科	5	くりあき 太一	卒業式・式典会場	平成22年3月20日
第8号	21	生物資源工学科	5	あずま 佳孝	卒業式・式典会場	平成22年3月20日
第9号	22	機械システム工学科	5	いしがき 純一	卒業式・式典会場	平成23年3月19日
第10号	22	情報通信システム工学科	5	ふじた 悦誌	卒業式・式典会場	平成23年3月19日
第11号	22	メディア情報工学科	5	かとう 愛実	卒業式・式典会場	平成23年3月19日
第12号	22	生物資源工学科	5	まなもと りえ	卒業式・式典会場	平成23年3月19日
第13号	22	機械システム工学コース	専攻科2	ひが 真理	卒業式・式典会場	平成23年3月19日
第14号	22	電子通信システム工学コース	専攻科2	いば 慧	卒業式・式典会場	平成23年3月19日
第15号	22	情報工学コース	専攻科2	えいもん 恒希	卒業式・式典会場	平成23年3月19日
第16号	22	生物資源工学コース	専攻科2	おおみね 和可奈	卒業式・式典会場	平成23年3月19日
第17号	23	機械システム工学科	5	なかむら 亮太	卒業式・式典会場	平成24年3月17日
第18号	23	情報通信システム工学科	5	なかもと 祥子	卒業式・式典会場	平成24年3月17日
第19号	23	メディア情報工学科	5	きよすえ 尊	卒業式・式典会場	平成24年3月17日
第20号	23	生物資源工学科	5	うえはら 正嗣	卒業式・式典会場	平成24年3月17日
第21号	23	機械システム工学コース	専攻科2	しろく レイエス 樹	卒業式・式典会場	平成24年3月17日
第22号	23	電子通信システム工学コース	専攻科2	みかもり 晴香	卒業式・式典会場	平成24年3月17日
第23号	23	生物資源工学コース	専攻科2	やましろ 知佳	卒業式・式典会場	平成24年3月17日
第24号	24	機械システム工学科	5	へんざん 勝弘	卒業式・式典会場	平成25年3月16日
第25号	24	情報通信システム工学科	5	みやこ 周平	卒業式・式典会場	平成25年3月16日
第26号	24	メディア情報工学科	5	ヘンドラ グントウル	卒業式・式典会場	平成25年3月16日
第27号	24	生物資源工学科	5	ずげらん 安里	卒業式・式典会場	平成25年3月16日
第28号	24	機械システム工学コース	専攻科2	やましろ 研二	卒業式・式典会場	平成25年3月16日
第29号	24	電子通信システム工学コース	専攻科2	なかお 一也	卒業式・式典会場	平成25年3月16日
第30号	24	情報工学コース	専攻科2	かねしろ 駿一郎	卒業式・式典会場	平成25年3月16日
第31号	24	生物資源工学コース	専攻科2	ぐしげん ちか 央	卒業式・式典会場	平成25年3月16日



学生表彰台帳 沖縄高専・学術賞

番号	年度	学科	学年	氏名	理由	表彰期日・場所	交付年月日
第1号	21	メディア情報工学科 機械システム工学科	4 3	島袋 誠也 比嘉 恵介 大城 優 備後 博生	MDD ロボコン奨励賞受賞	2月19日・ 終業式	平成22年2月19日
第2号	21	生物資源工学科	5	喜喜場 千尋	第11回理工学系学生科学技術論文コンクールにおいて「特別賞」受賞/全国から417編応募	3月20日・ 学科別懇談会	平成22年3月20日
第3号	21	生物資源工学科	5	安佐伊 美夏	第11回理工学系学生科学技術論文コンクールにおいて「入賞」	3月20日・ 学科別懇談会	平成22年3月20日
第4号	22	メディア情報工学科	5	比嘉 恵介	平成22年電気学会産業応用部門「優秀論文発表賞」受賞	終業式・ 式典会場	平成23年2月25日
第5号	22	情報工学コース	専攻科2	榮門 恒希	平成21年電気学会産業応用部門「優秀論文発表賞」受賞 平成23年5月に電気学会論文誌に掲載予定	終業式・ 式典会場	平成23年2月25日
第6号	22	電子通信システム工学コース	専攻科1	みかもり はるか 三ヶ森 晴香	平成21年度電子情報通信学会九州支部「沖縄学術講演奨励賞」受賞	終業式・ 式典会場	平成23年2月25日
第7号	22	生物資源工学科	5	具志堅 央	第12回理工学系学生科学技術論文コンクール「特別賞」受賞	卒業式・ 学科別懇談会	平成23年3月19日
第8号	23	機械システム工学コース	専攻科2	たいら たかゆき 平良 駿幸	Fifth Yellow Sea Rim Workshopにおいて「Young Scientist Award」受賞	終業式・ 式典会場	平成24年2月17日
第9号	23	電子通信システム工学コース	専攻科2	いれい しゅうへい 伊禮 秀平	平成23年度電子情報通信学会九州支部「沖縄学術講演奨励賞」受賞	終業式・ 式典会場	平成24年3月17日
第10号	23	機械システム工学コース	専攻科2	たましろ こうき 玉城 光貴	溶接学会全国講演大会での研究発表が高く評価され、「溶接学会奨励賞」受賞	卒業式 リハーサル日・ 校長室	平成24年3月16日
第11号	24	電子通信システム工学コース	専攻科2	きしちと きょうた 岸本 亨太	平成24年度電気学会九州支部沖縄支所講演会において「沖縄学術講演奨励賞」受賞	終業式・ 式典会場	平成25年2月21日
第12号	24	電子通信システム工学コース	専攻科1	なかもと しょうこ 仲本 祥子	高周波トランジスタ回路設計に関する研究において、3件の国際会議で筆頭著者及びオーラルプレゼンテーションとして採択	終業式・ 式典会場	平成25年2月21日
第13号	24	メディア情報工学科	5	しろま えいいち 城間 栄一	簡易ロボット言語を用いた自律移動システムの開発に関する研究において、電気学会から「産業応用部門優秀論文発表賞」受賞	終業式・ 式典会場	平成25年2月21日
第14号	24	情報通信システム工学科	4	てるや みく 照屋 未来	2012 Japan-Taiwan Symposium on iG0 Technologyにおいて、「Best Presentation Award」受賞	卒業式 リハーサル日・ 校長室	平成25年3月15日
第15号	24	電子通信システム工学コース	専攻科2	たから しゅうへい 高良 修平	ライフサポート学会において、「バリアフリーシステム開発財団奨励賞 Finalist」受賞	卒業式 リハーサル日・ 校長室	平成25年3月15日
第16号	24	電子通信システム工学コース	専攻科2	まつばら りょう 松原 瞭	アメリカ機械工学会での国際学会において筆頭著者及び口頭発表として採択	卒業式 リハーサル日・ 校長室	平成25年3月15日

## 学生表彰台帳 高専機構・表彰

年度	学科	学年	氏名	理由
18	情報通信システム工学科	3	うちま 友貴 くしけん 夏海 具志堅	(独) 科学技術振興機構、読売新聞社他主催、「第50回日本学生科学賞・ソリューション部門」入選1等に選ばれた。「無線とインターネットを使った高精細映像通信！」
19	メディア情報工学科 情報通信システム工学科	2	とかしき たくま あさと こうすけ 安里 高祐 渡嘉敷	「パソコン甲子園2007」(第5回全国高等学校パソコンコンクール)のデジタルコンテンツ部門本選でOSOの作品「コロタのゆめさがし」が最高賞のグランプリを受賞
20	生物資源工学科	5	みやぎ ひさこ 宮城 央子	「第10回理工系学生科学技術論文コンクール」で「優秀賞」を受賞
	機械システム工学科	3	いしばし ゆうき 石橋 祐紀	「パソコン甲子園2008」のデジタルコンテンツ部門で、グランプリを受賞
	メディア情報工学科	3	とかしき たくま 渡嘉敷 拓馬	
24	メディア情報工学科	2	にしほら きさき 西原 希咲	「パソコン甲子園2012」モバイル部門でグランプリ受賞
	メディア情報工学科	3	てるや だいち 照屋 大地	
	メディア情報工学科	3	こや ともひろ 呉屋 寛裕	
	メディア情報工学科	3	ひきまつ こうへい 久松 航平	「パソコン甲子園2012」デジタルコンテンツ部門でグランプリ受賞
	メディア情報工学科	3	まさき さやか 正木 彩花	

## 学生表彰台帳 皆勤賞

番号	年度	学科	学年	氏名	表彰期日・場所	交付年月日
第1号	20	メディア情報工学科	5	すずき ゆうた 鈴木 裕太	卒業式終了後・学科懇談会	平成21年3月21日
第2号	20	生物資源工学科	5	ねのみ ばづき 根路銘 葉月	卒業式終了後・学科懇談会	平成21年3月21日
第3号	21	メディア情報工学科	5	しもじ 寿弥 下地 寿弥	卒業式・式典会場	平成22年3月20日
第4号	21	生物資源工学科	5	わくがわ もりひろ 湧川 盛洋	卒業式・式典会場	平成22年3月20日
第5号	21	情報通信システム工学科	5	みかもり ほるか 三ヶ森 晴香	終業式・校長室	平成22年3月20日
第6号	22	機械システム工学科	5	しみず せいぎ 清水 正義	卒業式・式典会場	平成23年3月19日
第7号	22	生物資源工学科	5	くしけん ちか 具志堅 央	卒業式・式典会場	平成23年3月19日
第8号	22	機械システム工学コース	専攻科2	ひが しんり 比嘉 真理	卒業式・式典会場	平成23年3月19日
第9号	23	機械システム工学科	5	うえはら 徹 上原 徹	卒業式・式典会場	平成24年3月17日
第10号	23	生物資源工学科	5	おおほま きよか 大濱 清香	卒業式・式典会場	平成24年3月17日
第11号	23	生物資源工学科	5	とうま ひろ貴 当真 弘貴	卒業式・式典会場	平成24年3月17日
第12号	24	情報通信システム工学科	5	なかそね こういち 仲宗根 浩一	卒業式・式典会場	平成25年3月16日
第13号	24	メディア情報工学科	5	まえつ 勇輔 前津 勇輔	卒業式・式典会場	平成25年3月16日
第14号	24	生物資源工学コース	専攻科2	くしけん ちか 具志堅 央	卒業式・式典会場	平成25年3月16日
第15号	24	生物資源工学コース	専攻科2	そなもと りえ 祖納元 りえ	卒業式・式典会場	平成25年3月16日
第16号	24	生物資源工学コース	専攻科2	とうやま あきこ 當山 瑛子	卒業式・式典会場	平成25年3月16日
第17号	24	生物資源工学科	5	しまぶくろ うい 島袋 羽衣	卒業式・式典会場	平成25年3月16日

学生表彰台帳 **特別賞**

番号	年度	団体名	学科	学年	氏名	理由	表彰期日・場所	交付年月日
第1号	21	デジタルアート部・Unlimited / アンリミテッド	メディア情報工学科	3	宮城 将 末次 みなみ おおしろ 大城 よしほ	パソコン甲子園準グランプリ受賞	2月19日・終業式	平成22年2月19日
第2号	21	ロボット製作委員会・全国高専ロボコン2008全国大会出場Aチーム	機械システム工学科 情報通信システム工学科 専攻科	5 専攻科1	白久 レイエス 樹 申之蘭 祐也 比嘉 翔弥 阿嘉 倫大 照屋 唯久 登 玉城 光輝 饒平名 知真 外間 大地	2008年度全国高専ロボコン全国大会優勝	3月20日・代表者 / 白久レイエスは卒業式典会場で、残りの5年生は学科別懇談会で、専攻科生及び卒業生は後日顧問から。	平成22年3月20日
第3号	21		情報通信システム工学科	5	くぼた ひろゆき 久保田 浩幸	平成19・20年度学生会長	3月20日・学科別懇談会	平成22年3月20日
第4号	21		情報通信システム工学科	5	わた なな 和田 菜々	平成21年度九州沖縄地区高専体育大会卓球競技・女子シングルス準優勝	3月20日・学科別懇談会	平成22年3月20日
第5号	21		生物資源工学科	5	しげ マリ子 重 マリ子	平成21年度九州沖縄地区高専体育大会テニス競技ダブルス準優勝・団体戦準優勝、平成20年度九州沖縄地区高専体育大会テニス競技シングルス優勝・ダブルス優勝、平成20年度全国高専体育大会テニス競技シングルス第3位入賞・ダブルス第3位入賞、平成19年度九州沖縄地区高専体育大会テニス競技シングルス優勝・ダブルス優勝・団体戦優勝	3月20日・学科別懇談会	平成22年3月20日
第6号	21	男子バスケットボール部	情報通信システム工学科 機械システム工学科 メディア情報工学科 生物資源工学科	5 4 3 2	やましろう しょうご 山城 昌吾 うらさき たかゆき 浦崎 貴之 こばしかわ りょうさく 小橋川 優策 とうめい としき 當銘 俊貴 ちねん りゅうた 知念 祐太 にしかわ ようへい 西川 洋平 たから ちひろ 高良 知広 とうま りょう 當間 棕 はまもと えいと 濱元 栄人 うえはら まさつぐ 上原 正嗣 たかみや ひろき 高宮城 大樹 よしもと たいし 吉本 太志	平成21年度九州沖縄地区高専体育大会バスケットボール競技第3位入賞	5年生は3月20日に学科別懇談会、5年生以外は後日顧問から	平成22年3月20日

番号	年度	団体名	学 科	学 年	氏 名	理 由	表彰期日・場所	交付年月日
第7号	21	女子 バスケットボール部	生物資源工学科 専攻科 情報通信システム 工学科 メディア情報 工学科 機械システム 工学科	5 4 3 2	神谷 志織 安間 智美 内間 友貴 廣野 奈津子 大嶺 和可奈 森元 深雪 奥間 可子 グエン ハン 知念 美怜 宮澤 舞 上地 夏月	平成21年度九州沖縄 地区高専体育大会 バスケットボール競技 準優勝、平成18～20 年度九州沖縄地区高 専体育大会バスケット ボール競技優勝	5年生は3月 20日に学科別 懇談会、5年生 以外は後日顧問 から	平成22年 3月20日
第8号	21	I C T委員会	メディア情報 工学科	5 4 3	金城 尚志 山本 宗章 知念 佑奈 清末 尊	第18回(平成19年度) 全国高等専門学校 プログラミングコン テスト競技部門「特別 賞」受賞	5年生は3月 20日に学科別 懇談会、5年生 以外は後日顧問 から	平成22年 3月20日
第9号	21	I C T委員会	情報通信システム 工学科 メディア情報 工学科	5	宮里 洸司 久保田 浩幸 西江 涼 八幡 美希	第17回(平成18年度) 全国高等専門学校 プログラミングコン テスト課題部門「審査 員賞」受賞	3月20日・ 学科別懇談会	平成22年 3月20日
第10号	22		メディア情報 工学科	5	大城 だい	第11回(平成19年度) やんばる圏高校生英語 スピーチコンテスト 「銀賞」受賞 第12回(平成20年度) やんばる圏高校生英語 スピーチコンテスト 「銀賞」受賞 第43回(平成22年度) 九州沖縄地区国立高 等専門学校英語弁論 大会スピーチの部 「優勝」	終業式・ 式典会場	平成23年 2月25日
第11号	22		生物資源工学科	5	喜屋武 竜一	ロボコン活動で活躍 (ロボコン2007九州沖縄 地区大会「準優勝」、全 国大会「特別賞」受賞 ロボコン2008九州沖縄 地区大会「特別賞」 受賞 ロボコン2009九州沖縄 地区大会「優勝」、全 国大会「特別賞」受賞) バイオインフォマ ティクス技術者試験 合格	終業式・ 式典会場	平成23年 2月25日
第12号	22		情報通信システム 工学科	1	仲地 彩未	第47回(平成22年度) 九州沖縄地区高専体 育大会テニス競技シ ングルス「準優勝」	終業式・ 式典会場	平成23年 2月25日
第13号	22	The Goships (ザ・ゴシップス)	メディア情報 工学科 機械システム 工学科	5 4	島袋 誠也 比嘉 恵介 津波古 渉太 備後 博生	MDD ロボットチャレンジ 2010 飛行競技「優秀賞」 受賞、相撲競技「準優 勝」	終業式・ 式典会場	平成23年 2月25日

番号	年度	団体名	学科	学年	氏名	理由	表彰期日・場所	交付年月日
第14号	22	男子 バスケットボール部	機械システム 工学科 情報通信システム 工学科 メディア情報 工学科 生物資源工学科	5 4 3 2 1	小橋川 優策 浦崎 貫之 島袋 竜 知念 祐太 當銘 俊貴 西川 洋平 高良 知広 當間 椋 吉本 太志 伊礼 吉充 伊良部 寛規 饒辺 大稀	第47回(平成22年度) 九州沖縄地区高専体育 大会バスケットボール 競技(男子)「3位」	終業式・ 式典会場	平成23年 2月25日
第15号	22	女子 バスケットボール部	機械システム 工学科 情報通信システム 工学科 メディア情報 工学科 生物資源工学科	5 4 3 2 1	奥間 可子 森元 深雪 知念 美怜 宮澤 舞 八木澤 莉子 平良 美奈子 宮城 李夢 仲宗根 梨奈 松田 芽	第47回(平成22年度) 九州沖縄地区高専体育 大会バスケットボール 競技(女子)「準優勝」	終業式・ 式典会場	平成23年 2月25日
第16号	22	硬式テニス部	機械システム 工学科 情報通信システム 工学科 メディア情報 工学科 生物資源工学科	5 4 3 2 1	金城 佑介 名幸 寿 與那覇 茜 仲村 翼 糸数 大己 前歳 貫行 宮城 萌 知花 久樹 比屋根 良悟 金城 翔太 玉城 由璃子 松井 くるみ 仲地 彩未	第47回(平成22年度) 九州沖縄地区高専体育 大会テニス競技: 女子団体戦「優勝」 …與那覇茜・宮城萌・ 玉城由璃子・松井くるみ・ 仲地彩未 男子団体戦「準優勝」 …金城佑介・名幸寿・ 仲村翼・糸数大己・ 前歳貫幸・知花久樹・ 比屋根良悟・金城翔太 男子ダブルス「3位」 …金城佑介・名幸寿・ 女子ダブルス「3位」 …與那覇茜・宮城萌	終業式・ 式典会場	平成23年 2月25日
第17号	22	女子 バドミントン部	メディア情報 工学科 生物資源 工学科	5 3 2	大濱 菜津子 瑞慶覧 安里 久貝 杏里 當山 礼那	第47回(平成22年度) 九州沖縄地区高専体育 大会バドミントン競技: 女子団体戦「3位」 …大濱菜津子・ 瑞慶覧安里・久貝杏里・ 當山礼那 女子ダブルス「3位」… 瑞慶覧安里・久貝杏里	終業式・ 式典会場	平成23年 2月25日
第18号	23		生物資源 工学科	4	島袋 羽衣	第33回(平成23年度) 開催全国高等専門学校 通信弓道大会・女子 個人戦において 「準優勝」	終業式・ 式典会場	平成24年 2月17日
第19号	23		メディア情報 工学科	3	長嶺 将哉	平成23年度沖縄県 高等学校総合体育大会 弓道競技において 「個人男子・第3位」	終業式・ 式典会場	平成24年 2月17日

番号	年度	団体名	学科	学年	氏名	理由	表彰期日・場所	交付年月日
第20号	23		生物資源工学 コース	専攻科2	たかやす 翔平 高安 翔平	「女子中高生理系選択 支援事業」、「ALLやん ばる科学と教育のま ちづくり」、及び「離 島への出前授業」で 本科3年生から4年 間TAとして、授業の 合間、土・日、長期 休暇を利用したイベ ント全てに参加し、科 学の面白さ、大切さ を子ども達に伝えた	終業式・ 式典会場	平成24年 2月17日
第21号	23	弓道部女子	生物資源工学科	4 3	しまぶくろ 羽衣 島袋 羽衣 みやま 空 宮嶋 空 やまざと 美希 山里 美希	第33回(平成23年度) 開催全国高等専門学校 通信弓道大会・女子団 体戦において「優勝」	終業式・ 式典会場	平成24年 2月17日
第22号	23		機械システム 工学科 メディア情報 工学科 生物資源工学科	5 4 3 2 1	ちねん 美怜 知念 美怜 みやざわ 舞 宮澤 舞 やまぎわ 莉子 八木澤 莉子 みやま 李夢 宮城 李夢 たいら 美奈子 平良 美奈子 まつだ 芽 松田 芽 なかの 梨奈 仲宗根 梨奈 よしけん 悠理 具志堅 悠理 あだち 詩緒香 足立 詩緒香 もり 歩木 森 歩木	第48回(平成23年度) 九州沖縄地区国立高等 専門学校体育大会 バスケットボール競技 (女子)において「優勝」 第46回(平成23年度) 全国高等専門学校体育 大会バスケットボール 競技(女子)において 「準優勝」	終業式・ 式典会場	平成24年 2月17日
第23号	23	男子 バスケットボール部	機械システム 工学科 情報通信システム 工学科 メディア情報 工学科 生物資源工学科	5 4 3	とうま 棕 當間 棕 とうめ 俊貴 當銘 俊貴 ちねん 祐太 知念 祐太 なから 知広 高良 知広 にしかわ 洋平 西川 洋平 はまもと 栄人 瀧元 栄人 ながしま 一帆 永嶋 一帆 たかみや 大樹 高宮城 大樹 よしもと 大志 吉本 大志 へんざん かつひろ 平安山 かつひろ おおしろ 慎一郎 大城 慎一郎 いれい 吉充 伊禮 吉充	第48回(平成23年度) 九州沖縄地区国立高等 専門学校体育大会 バスケットボール競技 (男子)において 「第3位」	終業式・ 式典会場	平成24年 2月17日
第24号	24		機械システム 工学科	3	みやま 祥 宮城 祥	平成24年度沖縄県高等 学校総合体育大会自転 車競技・個人スクラッ チにおいて「第2位」	終業式・ 式典会場	平成25年 2月21日
第25号	24		生物資源工学科	5	しまぶくろ 羽衣 島袋 羽衣	第42回(平成24年度) 西日本地区高等専門学 校弓道大会・女子個人 戦において「第3位」	終業式・ 式典会場	平成25年 2月21日

番号	年度	団体名	学科	学年	氏名	理由	表彰期日・場所	交付年月日
第26号	24		情報通信システム 工学科	2	金城 優生	第49回(平成24年度) 九州沖縄地区国立高等 専門学校体育大会水泳 競技・女子100m平泳 ぎにおいて 「第2位」	終業式・ 式典会場	平成25年 2月21日
第27号	24		メディア情報 工学科	1	濱元 幸	第49回(平成24年度) 九州沖縄地区国立高等 専門学校体育大会水泳 競技・女子100m自由形 及び50mバタフライ において 「第1位」	終業式・ 式典会場	平成25年 2月21日
第28号	24	卓球部	機械システム 工学科 メディア情報 工学科 生物資源工学科	3 2	町田 智代 渡保 あやめ 山城 圭 小野 恵実里 前里 理世	平成24年度沖縄県高等 学校総合体育大会卓球 競技・女子学校対抗に おいて「第3位」	終業式・ 式典会場	平成25年 2月21日
第29号	24	卓球部	メディア情報 工学科 生物資源工学科	3 2	渡保 あやめ 前里 理世	第49回(平成24年度) 九州沖縄地区国立高等 専門学校体育大会卓 球競技・女子ダブルス において「第3位」	終業式・ 式典会場	平成25年 2月21日
第30号	24	女子 バスケットボール部	情報通信システム 工学科 メディア情報 工学科 生物資源工学科	5 4 3 2 1	八木澤 莉子 平良 美奈子 宮城 李夢 仲宗根 梨奈 松田 芽 足立 詩緒香 森 歩未 川満 涼夏 喜納 星 古波津 千百合	第49回(平成24年度) 九州沖縄地区国立高等 専門学校体育大会 バスケットボール競技 (女子)において 「優勝」 第47回(平成24年度) 全国高等専門学校 体育大会バスケット ボール競技(女子) において「第3位」	終業式・ 式典会場	平成25年 2月21日
第31号	24	男子 バスケットボール部	機械システム 工学科 情報通信システム 工学科 メディア情報 工学科 生物資源工学科	5 4 3 2	平安山 勝弘 吉本 太志 伊禮 吉充 大城 裕哉 谷戸 大悟 青山 千博 伊良部 寛規 座喜味 聖斗 安間 大雅 上間 南海斗 岸本 忠也 新城 貴大 饒辺 大稀 服部 暉 玉那覇 大也	第49回(平成24年度) 九州沖縄地区国立高等 専門学校体育大会 バスケットボール競技 (男子)において 「第3位」	終業式・ 式典会場	平成25年 2月21日

## 学生表彰台帳 善行賞

番号	年度	学科	学年	氏名	理由	表彰期日・場所	交付年月日
第1号	20	メディア情報 工学科	5	こばしかわ うらら 小橋川 麗	高専祭でのけが人(児童) 対応及び事故の二次発生 防止	卒業式終了後・学科懇談会	平成21年3月21日
第2号	20	メディア情報 工学科	4	さくがわ ひとみ 佐久川 仁美	同上	4月以降・校長室	平成21年3月21日
第3号	20	生物資源 工学科	4	もりた このみ 森田 この美	同上	4月以降・校長室	平成21年3月21日
第4号	22	メディア情報 工学科	5	おおわん ちひろ 大湾 ちひろ	平成22年3月に交通事故 (ひき逃げ事件)を目撃 後日、警察署へ数回出向 き、目撃情報の提供を行 い捜査に協力	終業式・式典会場	平成23年2月25日



九州沖縄地区高専ロボットコンテスト  
全国大会出場 A チーム



全国高等専門学校プログラミングコンテスト 審査員特別賞  
絵本の自動作成システム「P～ベタ～」

平成18年度  
2006



九州沖縄地区高専大会  
バスケットボール女子 優勝



九州沖縄地区高専大会  
女子テニス個人優勝 (重マリ子)

平成19年度  
2007





全国高等専門学校プログラミングコンテスト 特別賞



九州沖縄地区高専ロボットコンテスト  
準優勝 沖縄高専 A チーム

平成19年度

2007



九州沖縄地区高専大会 バスケットボール女子 優勝



全国高専大会 テニス女子  
シングルス3位 (重マリ子) ダブルス3位 (重マリ子・宮城萌)

平成20年度

2008



理工系学生科学技術論文コンクール 優秀賞  
(宮城央子)



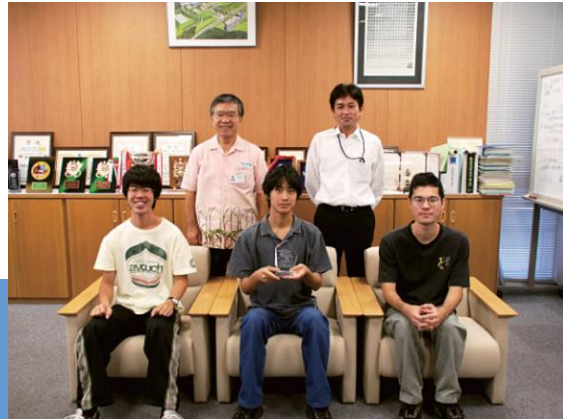
全国高等専門学校ロボットコンテスト 優勝  
沖縄高専 A チーム

平成20年度

2008



全国高等学校パソコン甲子園 グランプリ  
(石橋祐紀・渡嘉敷拓馬)



LSI デザインコンテスト 準優勝  
(塩崎祐介・崎原孫周・伊波慧)

平成20年度  
2008



九州沖縄地区高専大会 バスケットボール女子  
準優勝



全国高専専門学校ロボットコンテスト 優勝  
沖縄高専 A チーム

平成21年度  
2009



全国高等学校パソコン甲子園 準グランプリ  
(宮城将・大城よしほ・末次みなみ)



ESS/MDD ロボットチャレンジ 飛行技術奨励賞  
(大城優・比嘉恵介・島袋誠也・備後博生)

平成21年度  
2009



平成22年度  
2010

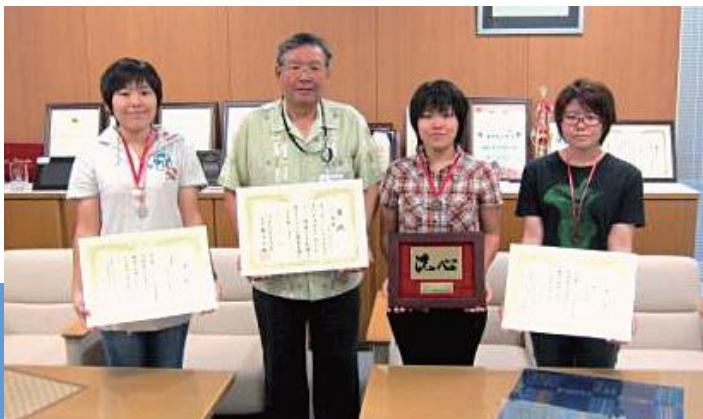
九州沖縄地区高専大会 バスケットボール女子 準優勝

九州沖縄地区高専大会 テニス男子団体 準優勝



平成22年度  
2010

九州沖縄地区高専大会 テニス女子 シングルス 準優勝  
(仲地彩未)



全国高専通信弓道大会 女子団体優勝 女子個人準優勝  
(島袋羽衣)



平成23年度  
2011

沖縄地区高校総体 自転車 個人ロードレース 4位  
(宮城祥) 九州大会出場



九州沖縄地区高専大会 バasketボール女子 優勝  
全国大会準優勝



全国高等学校パソコン甲子園 準グランプリ  
(新垣憂奈・當間早智衣)

平成23年度  
2011



沖縄地区高校総体 自転車スクラッチ2位  
(宮城祥) 九州大会・全国大会出場



高専大会 全国大会出場 水泳女子  
(濱元幸・金城優生)

平成24年度  
2012



全国高等学校パソコン甲子園 グランプリ2部門 (正木彩花・久松航平/照屋大地・呉屋寛裕・西原希咲)



平成24年度  
2012



西日本地区高等専門学校弓道大会 女子個人3位  
(鳥袋羽衣)



伊藤園お〜いお茶新俳句大賞 2年連続「優秀学校賞」  
(第22回7名入賞・第23回11名入賞)

平成24年度  
2012

# Campus Life

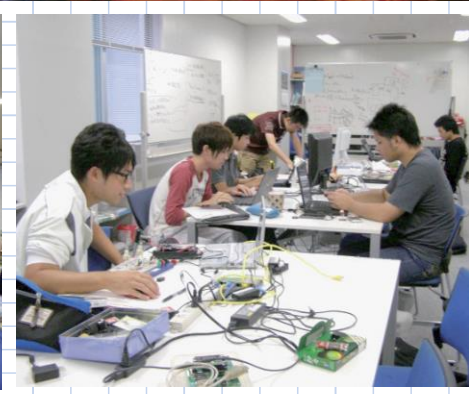
たくさんの出会いや経験に恵まれて  
笑顔で綴るキャンパスライフ





Okinawa National College of Technology Precious Memories











# 研修旅行



1 期生	実施期間		場 所
機械システム工学科	3泊4日	H 20.3.3 ~ 3.6	東京
情報通信システム工学科	//	//	//
メディア情報工学科	//	//	//
生物資源工学科	//	//	//
2 期生	実施期間		場 所
機械システム工学科	3泊4日	H 21.3.2 ~ 3.5	東京
情報通信システム工学科	//	//	//
メディア情報工学科	//	//	//
生物資源工学科	//	//	//
3 期生	実施期間		場 所
機械システム工学科	3泊4日	H 21.3.1 ~ 3.4	東京
情報通信システム工学科	//	//	//
メディア情報工学科	//	//	//
生物資源工学科	//	//	//
4 期生	実施期間		場 所
機械システム工学科	3泊4日	H 21.9.23 ~ 9.26	東京
情報通信システム工学科	//	//	//
メディア情報工学科	//	//	//
生物資源工学科	//	//	//
5 期生	実施期間		場 所
機械システム工学科	3泊4日	H 22.12.4 ~ 12.7	東京
情報通信システム工学科	//	//	//
メディア情報工学科	//	//	//
生物資源工学科	//	//	//
6 期生	実施期間		場 所
機械システム工学科	3泊4日	H 23.11.30 ~ 12.3	神戸
情報通信システム工学科	4泊5日	H 23.11.30 ~ 12.4	香港
メディア情報工学科	3泊4日	H 23.11.30 ~ 12.3	大阪
生物資源工学科	3泊4日	H 23.11.30 ~ 12.3	大阪
7 期生	実施期間		場 所
機械システム工学科	3泊4日	H 24.11.28 ~ 12.1	東京
情報通信システム工学科	//	//	東京
メディア情報工学科	//	//	大阪
生物資源工学科	//	//	東京

# 地域連携・地域貢献

第4章

**10th**  
**Anniversary**

---

Okinawa National College of Technology

# 出前授業

年度	回	事業名	日程	実施校等	参加人数	参加学年等	担当	
18	1	辺野古周辺の生き物たち	2/20	名護市立 久辺中学校	80名	中学 1・2年生	生物（山城・田邊） 技術支援室（宮藤・佐竹・平良・釣・ 比嘉修・比嘉信）	
		お湯で溶けるアクセサリー作り	2/22					
	2	エネルギーの仕組みについて	2/23	名護市立 瀬喜田小学校		全学年	機械（松栄） 技術支援室（具志・藏屋・屋良・ 比嘉修・釣・平良）	
19	1	紙飛行機を製作し滞空時間を競ってみよう	6/27 6/28	宜野座村立 漢那小学校	65名	小学 3～6年生	技術支援室（中尾、具志、畑添）	
	2	ソーラーカーってどんなの？ 一光エネルギーについて調べよう	7/3 7/4	金武町立 嘉芸小学校	66名	小学 3・4年生	技術支援室 （屋良、具志、釣、宮藤）	
		レモンと炭でびっくり電池						
		ホタルの発光実験						
			酸とアルカリの不思議			30名	小学6年生	技術支援室 （屋良、具志、釣、宮藤）
	3	おもしろ環境実験	7/5	名護市立 天仁屋小学校	6名	全学年	技術支援室（平良、藏屋）	
	4	親子でオリジナル アロマキャンドルをつくろう	8/13	那覇市 大嶺自治会	40名	小中学生	技術支援室 （具志、藏屋、比嘉修、平良、宮藤）	
5	酸とアルカリの不思議	10/30 11/1	名護市立 屋部小学校		小学6年生	技術支援室 （屋良、藏屋、平良、釣、佐竹、比嘉修）		
6	エネルギーを体験しよう	11/27 11/28	宜野座村立 漢那小学校	68名	小学 3～6年生	機械（松栄） 技術支援室（屋良・釣・藏屋・中尾・ 比嘉信、修・平良）		
7	酸とアルカリの不思議	12/4 12/7	名護市立 名護中学校		中学1年生	技術支援室 （屋良・中尾・具志・比嘉信・藏屋）		
20	1	「離島の小中学生を対象とした 科学教室ツアー 2008」 ・アロマキャンドルを作ろう ・体験！酸とアルカリの不思議 ・君もエネルギー博士 ・体験！極低温の世界	8/7 8/8	八重山地区 小中学生	181名		技術支援室 （屋良、藏屋、具志、佐竹、比嘉修、 宮藤）	
	2	酸とアルカリの不思議	12/1	名護市立 名護小学校	115名	小学6年生	技術支援室	
	3	酸とアルカリの不思議	12/2	那覇市立 仲井真小学校	121名	小学6年生	技術支援室	
	4	親子でオリジナルアロマキャンドル とランプシェードをつくろう！を つくろう	8/23	那覇市立 大嶺自治会 子供会・婦人会	17名 （保護者 33名）		技術支援室	
	5	親子でオリジナルアロマキャンドル とランプシェードをつくろう！を つくろう	8/24	那覇市県営 古波蔵子供会	40名 （保護者 40名）		技術支援室	

年度	回	事業名	日程	実施校等	参加人数	参加学年等	担当
21	1	エネルギーについて考えよう	6/8	石垣市立 伊原間中学校	40名	全校生徒	情報(野口・山田)、 総合(飯田)、 技術支援室(佐竹)
		少しでも速く、少しでも遠くへ (50M走、立ち幅跳び)	6/9				
	2	生き物はかせになろう	6/30	中城村立 津覇小学校	約100名	小学3年生	生物(池松・玉城)、学生2名
	3	液体窒素の世界	7/27	西原町立 西原東中学校	70名	中学3年生	生物(平山)
	4	アロマキャンドルを作ろう	8/11	東江学童	40名	小学生35名、 幼稚園生5名	技術支援室
	5	「小中学生を対象とした 科学教室 2009」 ・アロマキャンドルをつくろう ・君もエネルギー博士! ・体験! 極低温の世界 ・体験! 酸とアルカリの不思議	8/22 8/23	県立宮古 少年自然の家	79名		技術支援室(佐竹・蔵屋・比嘉・渡邊)
	6	1と0のコンピュータの世界	10/6	読谷村立 古堅中学校	20名	中学3年生	情報(野口・山田)
	7	エネルギーについて	10/7	宜野座村立 漢那小学校	79名	小学3・4年生 (41名)、 小学5・6年生 (38名)	機械(松栄) 技術支援室(蔵屋・佐竹・屋良)
	8	エネルギーのはなし ～位置エネルギーの利用～	10/26	うるま市立 宮城中学校	17名	小学5・6年生 (4名)、 中学生 (13名)	機械(松栄・眞喜志治)
	9	体験! 極低温の世界 (液体窒素を使った実験)	11/30	西原町立 西原東小学校	73名	小学5年生	技術支援室、研究員(中程)
10	液体窒素の世界 不思議な微生物の話	12/10	糸満市立 米須小学校	100名	小学 3～6年生	生物(平山・三枝)	
22	1	コンピュータの世界(0と1)	6/7	石垣市立 名蔵中学校	23名	全校生徒	情報(野口・山田)
	2	コンピュータの世界(0と1)	6/7	石垣市立 伊原間中学校	38名	全校生徒	情報(杉本・野口・山田) 総合(飯田) 技術支援室(佐竹)
		もっと素早く! もっと俊敏に!	6/8				
	3	コンピュータの世界(0と1)	6/18	石垣市立 大浜中学校	148名	中学3年生 全クラス	情報(野口・山田)
	4	ジャイロの話 (なぜ自転車はたおれないか?) 金属の話(金属のミクロ観察)	6/25	名護市立 大北小学校	51名	科学クラブ の児童	機械(松栄・比嘉・下嶋・眞喜志隆・ 武村・学生4名)
センサの不思議 音が伝わるしくみ		情報 (神里・学生2名)					
小さな生き物を覗いてみよう (顕微鏡による観察) 本当の光の姿を見よう(プリズム) マイナス200℃の世界		生物 (平山・学生2名)					
5	アロマキャンドルとランプシェ ードをつくろう!	7/24	県営古波蔵 第三市街地 住宅自治会	約70名	地域の方々	技術支援室 (具志・宮藤・大嶺・釣・比嘉)	

年度	回	事業名	日程	実施校等	参加人数	参加学年等	担当
22	6	液体窒素の世界	7/26	本部町立 水納小中学校	5名	8名 (教職員) 約10名 (地域)	生物(平山・学生2名)
		熱気球を飛ばそう					
		顕微鏡での生物の観察					
		弾まないボールの不思議					
		光の屈折					
	7	名護の身近な自然を探検しよう! 砂浜・海草藻場探検編	8/12	大浦湾	20名	地域の方々	技術支援室(渡邊・屋良・藏屋・宮藤)
	8	名護の身近な自然を探検しよう! 干潟探検編	9/23	大浦川河口干潟	22名	地域の方々	技術支援室(渡邊・屋良・藏屋・比嘉)
	9	液体窒素の世界	9/28	宜野座村立 松田小学校	17名	小学6年生 全員	生物(山城・学生2名)
	10	なんでも凍る不思議な液体 (液体窒素)	9/28	座間味村立 慶留間小中学校	15名	約10名 (教職員)	生物(平山・学生2名)
		光の色を見てみよう					
		小さな世界をのぞいてみよう エネルギーを吸収するボールの 不思議					
	11	※ No.10 と同テーマ	9/29	座間味村立 阿嘉小中学校	24名	約10名 (教職員)	生物(平山・学生2名)
	12	名護の身近な自然を探検しよう! 名護岳編	10/23	名護岳	16名	地域の方々	技術支援室(渡邊・屋良・藏屋・佐竹)
	13	ホタルの発光実験	10/26	名護市立 羽地小学校	54名	小学4年生 全員	生物(池松・山城・学生2名)
	14	名護の身近な自然を探検しよう! 海中探検編	10/31 ~11/7	大浦湾	838名	地域の方々	技術支援室(渡邊・屋良・藏屋)
	15	かんたん紙工作(わらびんちゃ あ遊愛フェスティバル内)	11/6	豊見城市立 中央公民館	約180名	児童、園児、 保護者	技術支援室(比嘉)
	16	楽しく理科を学ぼう (微生物の世界)	11/17	名護市立 瀬喜田小学校	20名	小学 5・6年生	生物(玉城・学生1名)
	17	「小中学生を対象とした電子工 作教室ツアー 2010in 粟国島」 ・レトロテレビゲームをつくろう	11/23	粟国村離島総合 振興センター	24名	小学3年~ 中学生	機械(下嶋) 技術支援室(屋良・藏屋・佐竹)
	18	体験! 極低温の世界	11/24	粟国村立 粟国小中学校	49名	全学年対象	機械(下嶋) 技術支援室(屋良・藏屋・佐竹)
	19	名護の身近な自然を探検しよう! 嘉津宇岳編	11/27	嘉津宇岳	21名	地域の方々	技術支援室(渡邊・屋良・藏屋・佐竹)
	20	「小中学生を対象とした電子工 作教室ツアー 2010in 多良間」 ・クリスマスイルミネーションを つくろう ・レトロテレビゲームをつくろう	12/4	多良間村 中央公民館	76名	レトロ (小学3年 ~中学生) クリスマス (小学6年 ~中学生)	技術支援室 (藏屋・屋良・佐竹・渡邊)
	21	「小中学生を対象とした電子工 作教室ツアー 2010in 宮古島」 ・クリスマスイルミネーションを つくろう ・レトロテレビゲームをつくろう	12/5	沖縄県立 宮古青少年の家	23名	レトロ (小学3年 ~中学生) クリスマス (小学5年 ~中学生)	
22	太陽エネルギーとスターリング エンジンの話	12/9	宜野座村立 漢那小学校	43名	小学 5・6年生	機械(松栄) 技術支援室(屋良・藏屋・佐竹)	

年度	回	事業名	日程	実施校等	参加人数	参加学年等	担当
22	23	「小中学生を対象とした電子工作教室ツアー 2010in 名護」 ・クリスマスイルミネーションをつくる ・レトロテレビゲームをつくる	12/19	道の駅 許田 道路情報 ターミナル	41名	レトロ (小学3年 ~中学生) クリスマス (小学6年 ~中学生)	技術支援室 (屋良・藏屋・佐竹・新田) 学生数名
	24	体験！極低温の世界	2/16	学校法人 カトリック学園 海星小学校	39名	4年生11名 (極低温の 世界)	情報(高木) 技術支援室(藏屋・佐竹・渡邊)
		月でボールを投げたらどうなる？ 植物の色素で酸とアルカリを調べよう！				小学 5・6年生 28名 (上記以外 のテーマ)	
23	1	「爆破レンジ」 ー機械システム工学科ー	6/24	名護市立 大北小学校	47名	科学クラブ の児童 (4~6年生)	機械(下嶋・学生数名)
		「おもちゃを自分の命令で動かそう！ ~Legoを使った制御とエネルギー ー伝達実験！~」 ー情報通信システム工学科ー					情報(山田・(神里) 学生2名)
		「見えないもの・超冷たいもの の世界」放射線・顕微鏡観察・ 液体窒素実験 ー生物資源工学科ー					生物(山城・田中・磯村)
		「おもちゃを自分の命令で動かそう！ ~Legoを使った制御とエネルギー ー伝達実験！~」 ー情報通信システム工学科ー					情報(兼城・(神里) 学生2名)
		「タマネギからDNAを取ろう」 ー生物資源工学科ー					生物(池松・山城・学生数名)
		「爆破レンジ」 ー機械システム工学科ー					機械(下嶋・学生数名)
	2	「花から実へ」 「エネルギー(熱と力) ~スターリングエンジン」	7/6	名護市立 久辺小学校	26名 36名	小学5年生 小学6年生	生物(平山) 機械(松栄)
3	「コンピュータの世界(0と1)」	11/21	宮古島市 立狩俣中学校	12名	中学1年生	情報(山田)	
	「ジャイロの話 (なぜ自転車はたおれないか?)」			11名	中学2年生	機械(比嘉)	
	「体験！酸とアルカリの不思議」			13名	中学3年生	技術支援室(新田・藏屋)	
4	「小中学生を対象とした科学教室 in 西表」 ・酸とアルカリの世界を体験しよう ・極低温の世界を体験しよう	11/26 11/27	中野わいわい ホール 竹富町立交 流センター	11名	小学4年生 以上及び 中学生	技術支援室 (渡邊・藏屋・新田)	
5	「小中学生を対象とした科学教室 in 与那国」 ・酸とアルカリの世界を体験しよう ・極低温の世界を体験しよう	12/4	与那国町立 中央公民館	17名	小学4年生 以上及び 中学生	技術支援室 (渡邊・屋良・藏屋・新田)	
6	「スターリングエンジン」	1/25	名護市立 久辺小学校	26名	小学4年生	機械(松栄)	
7	「コンデンサーについて」	1/26	名護市立 久辺小学校	36名	小学6年生	情報(神里)	

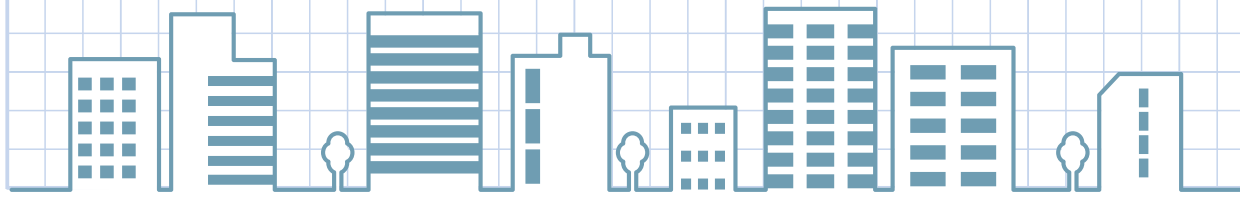
# 地域貢献

Regional contribution

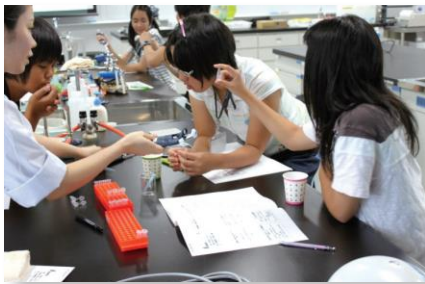




出前授業等



## 2009JST 女子中高生支援事業



## ALL やんばる科学と教育のまちづくり



# 資料編

第 5 章

**10th**  
**Anniversary**

---

Okinawa National College of Technology

# 沖縄工業高等専門学校中期目標

## (前文)

高等専門学校の目的は、独立行政法人国立高等専門学校機構法（以下「高専機構法」という）に「職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成するとともに、我が国の高等教育の水準の向上と均衡ある発展を図ることを目的とする」と定められている。これにより高等専門学校では、より高度な創造的専門技術者の育成とともに、研究活動や地域との連携も求められるようになった。

平成 21 年 3 月に最初の卒業生を送り出し、同年 4 月に専攻科が設置された沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、上述の高専機構法に即した高等専門学校として、独立行政法人国立高等専門学校機構の中期目標を踏まえ、平成 21 年度以降 5 年間の中期目標をここに明らかにし、その実現に努力する。

## ○教育理念

人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与する。

## ○目的

豊かな人間性及び確固たる基礎能力と専門技術を身につけ、経済産業界の要請に的確に対応しつつ、国際的にも活躍できる創造的実践技術者を育成する。

## I 中期目標期間

中期目標期間は、平成 21 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日の 5 年間とする。

## II 業務の質の向上に関する目標

### 1 教育に関する目標

実験・実習・実技を通して早くから技術に触れさせ、技術に興味・関心を高めた学生に科学的知識を教え、さらに高い技術を理解させるという特色ある教育課程を通し、高度なグローバル化・IT 化に対応できる実践的な技術者、豊かな人間性と創造性にあふれた実践的な技術者として将来活躍するための基礎となる知識と技術、さらには生涯にわたって学ぶ力を確実に身に付けさせることができるように、以下の観点に基づき本校の教育実施体制を整備する。

#### (1) 入学者の確保

中学生や中学校教員だけでなく広く社会に対して本校の認知度を高めるために多様な広報活動を組織的に展開する。また、本科・専攻科を含め入試方法の見直しを行ない、十分な資質を持った入学者を確保する。そのほか、高専生に対して本校専攻科に関する広報活動を実施する。

#### (2) 教育課程の編成等

産業構造の変化や技術の高度化などの時代の進展に即応した対応が求められる中、本校の地域性や特色、立地条件等に応じ、個性ある多様な発展を目指し、本科・専攻科を含め自主的・自立的な改革を進める。また、高等教育機関としての専門教育の充実や技術者として必要とされる英語力を伸長させることはもとより、高等学校段階における教育改革の動向も踏まえた「確かな学力」の向上を図るべく、教育課程の改善を推進する。このほか、全国的な競技会への参加を通して課外活動の振興を図るとともに、ボランティア活動など社会奉仕体験活動を始め、「豊かな人間性」涵養を図るべく様々な体験活動の機会の充実に努める。

#### (3) 優れた教員の確保

公募制などにより博士の学位を有する者や民間で実績をあげたものなど優れた教育力を有する人材を教員として採用する。また、FD などの研修の組織的な実施や教員の研修会への参加を推奨する。そのほか、国際学会に参加する機会を設けるなど、教員の教育力の継続的な向上に努める。

#### (4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム

教育研究の経験や能力を活用して国立高等専門学校の特性を踏まえた教育方法や教材などの開発を進める。

また、「日本技術者教育認定機構（JABEE）」によるプログラム認定によって教育水準を保証するとともに、自己点検・評価や認証評価などを通じて教育の質を保証する。

#### (5) 学生支援・生活支援等

中学校卒業直後の学生を受け入れ、かつ、相当数の学生が学生寮での生活を送っている特性を踏まえ、修学上の支援に加え進路選択や心身の健康等の生活上の支援を充実させる。

また、各種奨学金制度など学生支援に係る情報の提供を充実させる。さらに、学生の就職活動を支援する体制を充実する。

#### (6) 教育環境の整備・活用

産業構造の変化や技術の進歩に対応した教育を行うため安全で快適な教育環境の整備を計画的に進める。

また、教職員・学生の健康・安全を確保するために実験・実習・実技にあたっての安全管理体制の整備を図っていくとともに、技術者倫理教育の一環として、社会の安全に責任を持つ技術者としての意識を高める教育の在り方について検討する。

### 2 研究に関する目標

教育内容を技術の進歩に即応させるとともに教員自らの創造性を高めるため、研究活動を活性化させる方策を講じる。

また、先端の科学技術を積極的に研究し、成果を教育や産業界に還元するとともに、地域の産業振興・新産業の創出等を積極的に支援し、地域を中心とする産業界や地方公共団体との共同研究・受託研究への積極的な取り組みを促進する。

### 3 社会との連携や国際交流に関する目標

学内外において施設・人材資源を有効に活用するために、学内の体制を強化するとともに、地域貢献を推進するため出前授業・公開講座、サマースクールや学校開放事業等を実施し、実験や物づくりの体験授業を充実させる。安全面に十分な配慮をしつつ、教員や学生の国際交流への積極的な取り組みを推進する。

### 4 管理運営に関する目標

校長を中心として、効率的・機動的な運営体制を構築する。

事務職員や技術職員の資質向上のため、国立大学法人などとの人事交流を行うとともに必要な方策を計画的に実施する。

また、事務組織を適宜見直すとともに、事務の電子化、アウトソーシング等により事務の合理化を推進し、事務の効率化を図る。

安全管理に関連する法令を遵守するとともに、教職員や学生に対する啓発活動を行い、安全管理の徹底を図る。

## Ⅲ 財務内容の改善に関する目標

### 1 自己収入の増加に関する目標

外部資金の獲得に積極的に取り組み自己収入の増加を図る。

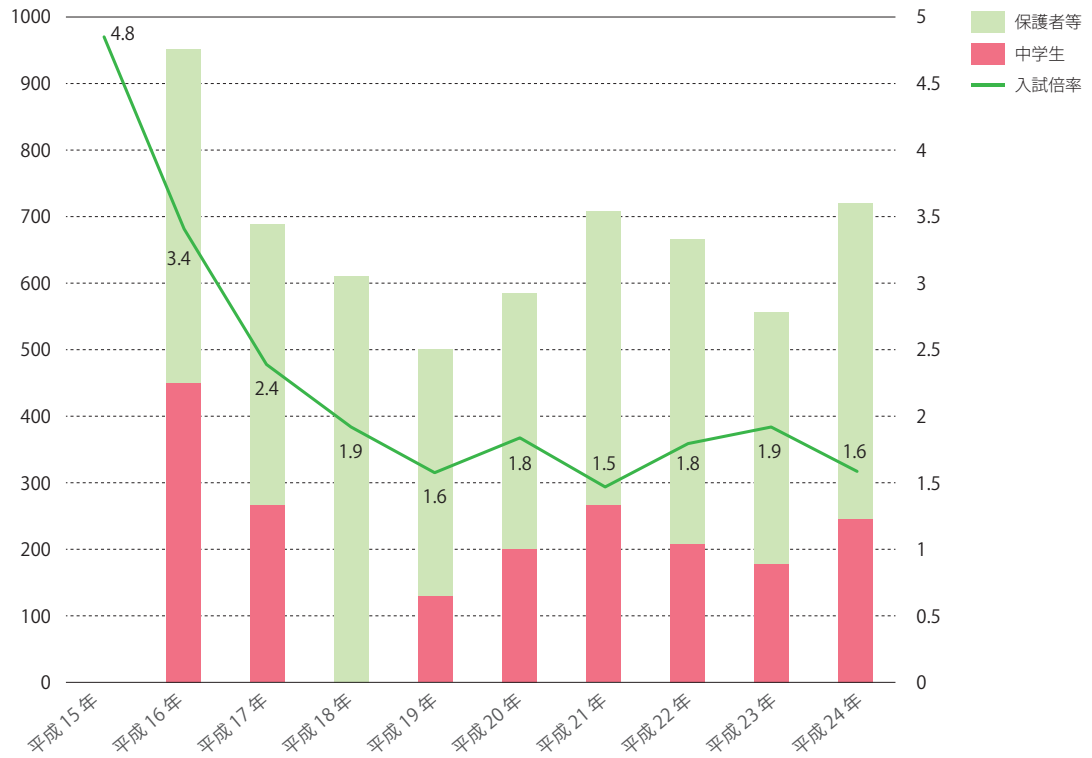
### 2 固定的経費の節減に関する目標

管理業務の合理化に努めるとともに、教職員及び学生の意識改革を図って、固定的経費の節減を図る。

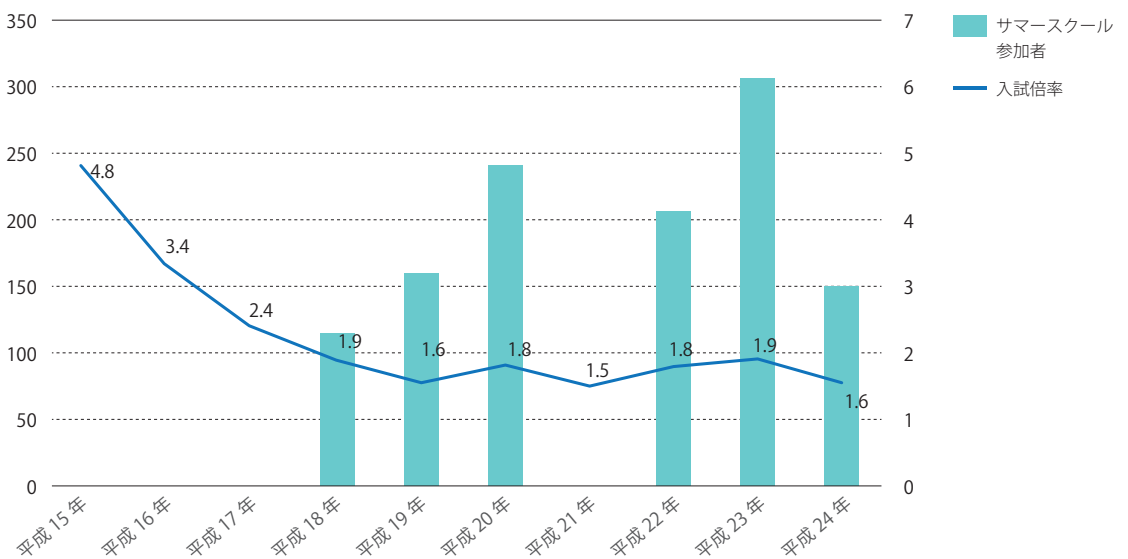
# 教職員役員表

	平成 11 年	平成 12 年	平成 13 年	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
校長				糸村 昌祐 (H14.10.1~)	糸村 昌祐	糸村 昌祐	糸村 昌祐	糸村 昌祐	糸村 昌祐	糸村 昌祐	糸村 昌祐	伊東 繁	伊東 繁	伊東 繁	伊東 繁
総務主事						真鍋 幸男	真鍋 幸男	真鍋 幸男	真鍋 幸男	真鍋 / 水野	松栄 準治	松栄 準治	松栄 準治	松栄 準治	杉本 英和
教務主事						望月 謙二	望月 謙二	高木 茂	高木 茂	高木 茂	高木 茂	平山 けい	平山 けい	平山 けい	平山 けい
学生主事						新川 智清	新川 智清	新川 智清	新川 智清	眞喜志 隆	眞喜志 隆	眞喜志 隆	眞喜志 隆	眞喜志 隆	伊波 靖
寮務主事						濱田 泰輔	濱田 泰輔	濱田 泰輔	濱田 泰輔	濱田 泰輔	濱田 泰輔	網谷 厚子	網谷 厚子	山城 秀之	玉城 龍洋
機械システム工学科長						真鍋 幸男	眞喜志 隆	松栄 準治	宮田 恵守	山城 光	中本正一朗	宮田 恵守	宮田 恵守	宮田 恵守	眞喜志 隆
情報通信システム工学科長						鈴木 龍司	高木 茂	知念 幸勇	石田 修己	石田 修己	石田 修己	高木 茂	高木 茂	比嘉 勝也	眞喜志 隆
メディア情報工学科長						角田 正豊	正木 忠勝	角田 正豊	水野 正志	姉崎 隆	正木 忠勝	角田 正豊	角田 正豊	正木 忠勝	角田 正豊
生物資源工学科長						高野 良	平山 けい	三枝 隆裕	山城 秀之	池松 真也	池松 真也	三枝 隆裕	三枝 隆裕	濱田 泰輔	平良 淳誠
総合科学科長						新川 智清	小池 寿俊	望月 謙二	望月 / 小池	小池 寿俊	成田 誠	小池 寿俊	小池 寿俊	網谷 厚子	成田 誠
専攻科長												知念 幸勇	知念 幸勇	三枝 隆裕	三枝 隆裕
図書館長						角田 正豊	角田 正豊	高野 良	山城 光	山城 光	山城 光	山城 光	新川 智清	新川 智清	網谷 厚子
情報処理センター長						鈴木 龍司	鈴木 龍司	鈴木 龍司	鈴木 龍司	水野 正志	伊波 靖	伊波 靖	伊波 靖	伊波 靖	正木 忠勝
地域共同テクノセンター長									松栄 準治	松栄 準治	松栄 準治	池松 真也	池松 真也	池松 真也	伊東 昌章
学生相談室長						眞喜志 隆	眞喜志 隆	小池 寿俊	小池 寿俊	小池 寿俊	小池 寿俊	西村 篤	西村 篤	西村 篤	西村 篤
キャリア支援室長													伊東 昌章	伊東 昌章	濱田 泰輔
技術支援室長 (センター長)							眞喜志 隆	眞喜志 隆	松栄 準治	松栄 準治	松栄 準治	松栄 準治	松栄 準治	松栄 準治	杉本 英和
地域連携(推進)室長							高野 良	松栄 準治							
国立高等専門学校(沖繩) 創設準備調査室長	糸村 昌祐 (H12.31~3.31)														
国立高等専門学校(沖繩) 創設準備室長		糸村 昌祐	糸村 昌祐	糸村 昌祐 (~9.30)											
事務部長						河西 愛次	河西 / 内山	内山 亮	与那覇明弘	与那覇明弘	与那覇明弘	川満 信男	川満 信男	川満 信男	仲地 善則
創設準備調査室主幹 →事務長	早坂 勇二 (H12.3.17~)	早坂 勇二	早坂 勇二	早坂 勇二	室溪 浩										
庶務課長						室溪 浩	渡邊 一成	渡邊 一成							
総務課長									渡邊 一成	真志喜得栄	真志喜得栄	真志喜得栄	南部 元義	金城 邦光	金城 邦光
会計課長						金谷 辰昭	金谷 辰昭	金谷 辰昭							
学生課長						古賀 義伸	古賀 義伸	古賀 義伸	南部 元義	南部 元義	南部 元義	南部 元義	藤元 高徳	藤元 高徳	藤元 高徳

## オープンキャンパス来場者数



## サマースクール参加者数



# 交流協定状況

## 国 外

2006年8月3日	シンガポール Republic Polytechnic (リパブリック高等専門学校) シンガポール Singapore Polytechnic (シンガポール高等専門学校) シンガポール Temasek Polytechnic (テマセク高等専門学校) 以上3校は、九州沖縄地区高専と共同で国際交流協定を締結
2008年10月1日	台湾 中州技術学院→2011年8月中州科技大學へ改名 (2011年12月12日に協定期限切れにより再協定)
2010年12月6日	台湾 国立高雄第一技科大学
2011年2月14日	ノルウェー Narvik University College (ナルヴィク大学)
2011年6月11日	中国 大連東軟情報学院
2012年1月28日	タイ Rajamangala University of Technology Thanyaburi (ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校 (RMUTT))
2012年7月13日	スロベニア Faculty of Mechanical Engineering, University of Maribor (マリボー大学)

## 国 内

2008年5月19日	名護市
2009年10月1日	浦添市
2010年11月12日	北陸先端科学技術大学院大学 (推薦入学協定)
2010年12月16日	琉球大学工学部
2011年1月31日	琉球大学農学部
2011年2月16日	桜野特別支援学校
2011年10月6日	うるま市
2012年5月22日	沖縄科学技術大学院大学 (OIST)

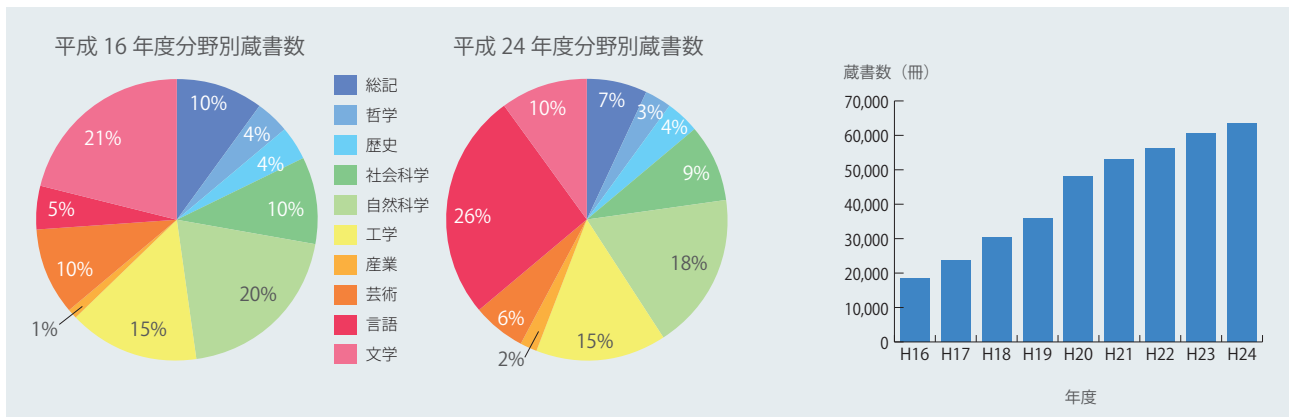




## 図書蔵書数推移（分野別）

年 度	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	言語	文学	計
平成 16 年度	1,827	665	811	1,854	3,721	2,780	185	1,787	821	3,849	18,300
平成 17 年度	2,182	1,086	1,282	2,474	4,844	3,875	358	2,071	1,054	4,472	23,698
平成 18 年度	2,616	1,272	1,640	3,125	6,453	5,697	680	2,332	1,463	5,109	30,387
平成 19 年度	2,984	1,414	1,910	3,716	7,695	6,694	790	2,918	2,921	4,767	35,809
平成 20 年度	3,343	1,541	2,060	4,213	8,468	7,353	860	3,250	11,876	5,238	48,202
平成 21 年度	3,573	1,644	2,177	4,683	9,178	7,875	935	3,489	13,861	5,608	53,023
平成 22 年度	3,779	1,734	2,307	5,345	9,911	8,462	1,060	3,730	14,178	5,815	56,321
平成 23 年度	4,073	1,816	2,407	5,722	10,936	9,099	1,149	3,962	15,385	5,990	60,539
平成 24 年度	4,236	1,912	2,489	5,929	11,437	9,460	1,213	4,160	16,439	6,163	63,438

※視聴覚資料および製本雑誌を含む  
※言語分野には、英語多読図書（約 15,000 冊）を含む



## 学生会長・寮長

年 度	学生会・会長	寮生会・寮長
平成 16 年度		
平成 17 年度	平 良 祐 太	宮 城 基
平成 18 年度	鈴 木 裕 太	鈴 木 裕 太
平成 19 年度	久保田 浩 幸	宮 城 央 子
平成 20 年度	久保田 浩 幸	長 田 旭 史 安佐伊 美 夏
平成 21 年度	安 里 哲	長 田 旭 史 城 間 ひかる
平成 22 年度	上 原 大 輝	座喜味 悠 介 伊 波 香 純
平成 23 年度	金 城 匡	玉 城 祐 貴 比 嘉 一 葉
平成 24 年度	平 良 美奈子	新 川 翔 也 稲 福 也 美
平成 25 年度	吉 田 睦	俵 拓 朗 島 袋 友 美

# 市町村別入学者数

地区	出身市町村	平成16	平成17	平成18	平成19	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	計 Total	地区計
北部地区	国頭村	1	1	1	1		1		1	1	0	7	244
	大宜味村	3		2	1	1						7	
	東村	1	1			2	1	2				7	
	今帰仁村	5		3	1				2	1	1	13	
	本部町	3	4	3	2	2	1	2	2	4	2	25	
	名護市	14	10	11	15	10	10	13	15	17	14	129	
	宜野座村	3			4			1	1	1	1	11	
	金武町	1	1	3	3	1		3		1		13	
	伊江村	1		1		1	2		1	1		7	
	恩納村	3	2			4	3	2	4	1		19	
伊平屋村			2	1						1	4	680	
伊是名村				1	1					1	2		
中部地区	石川市	8	20	18	16	19	17	18	17	26	15		184
	うるま市	1											
	H17.4.1	1											
	勝連町	1											
	具志川市	8											
	読谷村	7	7	4	7	5	9	6	7	4	3		59
	嘉手納町	6	6	4	4	2	1			3			26
	沖繩市	17	17	23	18	20	30	13	21	18	16		193
	北谷町	3	1	6	6		8	5	8	5	4	46	
	宜野湾市	4	14	8	8	8	7	11	9	5	14	88	
北中城村	1	2	2	2	3	1	1	2	3	1	18		
中城村	2	2		4	2	1	1	2	1	3	18		
西原町	3	8	2	6	4	2	3	5	3	12	48		
那覇・浦添地区	浦添市	10	7	11	8	11	9	7	6	13	12	94	358
	那覇市	27	23	26	19	30	27	32	25	25	30	264	
南部地区	豊見城市	2	3	6		4	11	5	4	9	5	49	253
	糸満市	4	9	5	12	13	11	10	8	8	6	86	
	八重瀬町	1											
	H18.1.1	4		2	2	2	7	1	3	1	5	28	
	東風平町												
	具志頭村												
	南城市	2											
	H18.1.1	1	2	4	1	1	3	4	5	1	3	29	
	玉城村		1										
	知念村												
佐敷町													
大里村													
与那原町	5	2	2	1	2	1	1		1	1	16	47	
南風原町	3	3	3	1	3	2	3	5		6	29		
久米島町		3				2		1	1	1	0		8
南大東村						1		1	1		1		4
座間味村							1	1			2		4
平良市	6												
宮古島市		9	4	6	5	4	4	3	3	1	46		
H17.1.1													
城辺町													
下地町													
上野村													
伊良部町	1											1	
多良間村	1											1	
八重山地区	石垣市	6	4	10	8			4	5	6	4	47	55
	竹富町	1	1			2					1	5	
	与那国町							1		1	1	3	
県内計		170	164	166	158	160	170	156	163	166	164	1,637	
県外	千葉県							1				1	44
	東京都							1	1	1	1	4	
	埼玉県		1			1			1	1		4	
	神奈川県				1							2	
	長野県				1							1	
	愛知県				1			1		1	1	4	
	京都府							1				1	
	大阪府						1					1	
	奈良県											1	
	兵庫県				1	1		1		1		3	
	岡山県			1								1	
	広島県					1						1	
熊本県									1		1		
福岡県	2			1			2				5		
長崎県	1						1				2		
鹿児島県	2	1	1	2	2		1		1	1	11		
県外計		5	2	2	8	3	1	9	4	5	5	44	
外国 (3年次編入)	ベトナム社会主義共和国					1						1	10
	スリランカ民主社会主義共和国					1			1			2	
	バングラデシュ人民共和国						1					1	
	ラオス人民民主共和国						1		1			2	
	ペルー共和国						1					1	
	カメルーン共和国								1			1	
インドネシア共和国										1	2		
国外計		0	0	0	0	2	3	2	2	1	0	10	
合計		175	166	168	166	165	174	167	169	172	169	1,691	1,691

# 卒業生・修了生進路先

## 本科

	大学・企業名	平成21年3月卒					平成22年3月卒					平成23年3月卒					平成24年3月卒					平成25年3月卒					計	
		MS	IC	MI	BR	小計	MS	IC	MI	BR	小計	MS	IC	MI	BR	小計	MS	IC	MI	BR	小計	MS	IC	MI	BR	小計		
進学	国立	沖縄高専専攻科	5	9	5	9	28	12	10	4	11	37	7	7	4	7	25	3	8	1	11	23	8	9	7	10	34	147
進学	国立	帯広畜産大学				0					0			1	1						0						0	1
進学	国立	弘前大学				1	1			0				1	1					0							0	2
進学	国立	茨城大学				0				0				1	1					0							0	1
進学	国立	筑波大学	1			1			1	1				2	2				1	1							0	5
進学	国立	群馬大学	1			1				0				0			1			1							0	2
進学	国立	千葉大学				0				0	1		1	2			1			1							0	3
進学	国立	お茶の水女子大学				0				0	0		1	1						0							0	1
進学	国立	電気通信大学			1	1			1	1			2	1	3								1				1	6
進学	国立	東京工業大学				1	1			0				1	1			1		1	2						0	4
進学	国立	東京農工大学				0				0			1	1						0				1	1		1	2
進学	国立	長岡技術科学大学	1	1	1	3				2	2	2		2	1	5			2	2	4	2		1	1	4	1	18
進学	国立	新潟大学				0				1	1				0						0						0	1
進学	国立	富山大学			1	1				0					0				1	1							0	2
進学	国立	福井大学				0		1		1					0						0						0	1
進学	国立	山梨大学				0							1		1						0						0	1
進学	国立	信州大学				1	1			0					0						0						0	1
進学	国立	岐阜大学				0				3	3								1	1				2	2		6	6
進学	国立	静岡大学		1		1				2	2			2	2						0						0	5
進学	国立	豊橋技術科学大学	1	1		2	5	2		1	8		1	1	2	1	3	1		5	1		1	2		2	19	19
進学	国立	京都工芸繊維大学				0	1			1					0					0							0	1
進学	国立	大阪大学		1		1				0					0					0							0	1
進学	国立	神戸大学				0				0				1	1		1			1							0	2
進学	国立	奈良女子大学				0		1		1					0					0							0	1
進学	国立	和歌山大学			1	1				0					0						0						0	1
進学	国立	鳥根大学生				1	1			0					0					0							0	1
進学	国立	岡山大学				0				0					0				1	1				1	1		1	2
進学	国立	香川大学			2	2				0					0						0						0	2
進学	国立	愛媛大学			1	1				0				1	1					0							0	2
進学	国立	九州工業大学		1	1	2				0	2	2	1		5	3		4		7	1	1		1	3		17	17
進学	国立	九州大学				0				0		1	1	2	1				1								0	3
進学	国立	佐賀大学				4	4			2	2			3	3					0							0	9
進学	国立	熊本大学			1	1				0		1			1					0							0	2
進学	国立	宮崎大学		1		1		2		2					0					0							0	3
進学	国立	鹿児島大学				0				1	1				0					0							0	1
進学	国立	琉球大学	5	1	2	1	9		3	3	6	4	5	3	4	16	3		4		7	1	1	2	2	6	44	44
進学	公立	京都府立大学				0				0					0						0			1	1		1	1
進学	公立	札幌市立大学				0			1	1					0					0							0	1
進学	公立	公立ほこだて未来大学		1						0					0					0							0	1
進学	公立	市立高崎経済大学				1	1			0					0					0							0	1
進学	私立	武蔵野大学				0				1	1				0					0							0	1
進学	私立	武蔵野美術大学				0				0					0		1		1	1			1	1		2	3	3
進学	私立	成安造形大学			1	1				0					0					0							0	1
進学	私立	立命館大学				0				0					0	1			1								0	1
進学	専修	首都医校				0		1		1	2				0					0							0	2
進学	専門	日経ビジネス				0				0					0				1				1	2			2	2
進学	専門	デジタルアーツ東京				0			1	1					0					0							0	1
進学	専修	デジタルハリウッド東京				0			1	1					0					0							0	1
進学	専門	日本デザイナー学院				0				0			1	1						0							0	1
進学	専門	バンダイゲームアカデミー				0				0					0			1		1							0	1
進学	専門	広島コンピュータ専門学校				0				0					0						0			1	1		1	1
進学	その他	University of the People				0				0					0						0			1	1		1	1
進学	その他	ハワイ大学				0				0					0					1	1						0	1
進学	その他	北部看護学校				0				0					0					1	1						0	1
就職	県内	C&C 沖縄				0				0		1		1						0							0	1
就職	県外	CA アドヴァンス				0				0					0					0		1	1				2	2
就職	県内	EM 研究機構				0			1	1					0						0						0	1
就職	県内	EM 研究所				0				0				1	1						0						0	1
就職	県内	GNA			1	1				0					0						0						0	1
就職	県内	JA 沖縄				0				0	1				1					0							0	1
就職	県内	OCC		2		2				0					0						0						0	2
就職	県内	ODN ソリューション				0				0			1	1						0							0	1
就職	県内	OSE				0				0					0			1		1							0	1
就職	県内	アイディーズ			1	1				0					0					0							0	1
就職	県内	アクシオヘリックス				2	2			0					0					0							0	2
就職	県内	インデックス沖縄				0		1		1			1	1						0							0	2
就職	県内	エスアールデザイン				0				0					0						0			1			1	1
就職	県内	オキコ				0				0					0						0			1	1		1	1
就職	県内	オキハム			1	1				0					0						0						0	1
就職	県内	沖縄瓦斯				0				0	1			1							0						0	1
就職	県内	沖縄環境保全研究所				0				0					0					3	3						0	3
就職	県内	沖縄グローバルシステムズ				0			1	1					0						0		1				1	2
就職	県内	沖縄クロスヘッド				0				1	1				0					0							0	1
就職	県内	沖縄県環境科学センター				0				0				1	1						0						0	1
就職	県内	沖縄コカ・コーラボトリング	1			1				1	1				0						0						0	2

就職	県内	大学・企業名	平成 21 年 3 月卒				平成 22 年 3 月卒				平成 23 年 3 月卒				平成 24 年 3 月卒				平成 25 年 3 月卒				計								
			MS	IC	MI	BR	小計	MS	IC	MI	BR	小計	MS	IC	MI	BR	小計	MS	IC	MI	BR	小計		MS	IC	MI	BR	小計			
就職	県内	沖縄製粉								0																1	1				
就職	県内	沖縄テクノス								0		1			1												0	2			
就職	県内	沖縄電気								0					2												0	2			
就職	県内	沖縄電力	2	1	1					4	2				2	1							1	1	1		2	10			
就職	県内	沖縄東芝メディカル								0																0	1	1			
就職	県内	沖縄日立		1						1																	0	1			
就職	県内	沖縄日立ネットワークシステムズ								0		1			1	1								1			1	5			
就職	県内	沖縄富士通システムエンジニアリング								0		1			1												0	2			
就職	県内	沖縄ホーム								0															1	1	1	1			
就職	県内	沖縄菱電ビルシステム		1						1		1															0	2			
就職	県内	沖縄明治乳業								0																1	1	1			
就職	県内	オリオンビール								0													1				0	1			
就職	県内	開邦工業								0	1				1			1									0	4			
就職	県内	クオリサイトテクノロジー								0					1								1				0	2			
就職	県内	サイバーエージェントアドマネジメント								0					1												0	1			
就職	県内	サウスプロダクト								0		1			1												0	1			
就職	県内	サンシャイン								0	1				1												0	1			
就職	県内	シュガートレイン								0		1			1												0	1			
就職	県内	翔南製糖								0														1	1		0	1			
就職	県内	創和ビジネス・マシンズ								0					1									1			0	2			
就職	県内	トーセ沖縄		2	2					4					0												0	4			
就職	県内	日邦メタルテック								0																0	1	1			
就職	県内	ハーベル		1						1		2			2												0	3			
就職	県内	バイオジェット								0														1	1		0	1			
就職	県内	ベアック沖縄								0					2										0	1	1	3			
就職	県内	まつどベーカリー								0					1												0	1			
就職	県内	瑞穂酒造								0					1												0	1			
就職	県内	メディアトランスポート								0																0	1	1			
就職	県内	ユニテック								0					1												0	1			
就職	県内	リウコム		1						1														1			1	3			
就職	県内	琉球ネットワークサービス			1					1					0												0	1			
就職	県内	レキサス								0					1												0	1			
就職	県内	オキコ								0																	0	0			
就職	県外	ANA フライトラインテクノス								0					1												0	2			
就職	県外	CRC システムズ								0					2												0	2			
就職	県外	DIC								0					1											1	1	2			
就職	県外	IHI エアロスペース・エンジニアリング								0	1				1												0	1			
就職	県外	IHI エスキューブ								0					1												0	1			
就職	県外	Jetrun テクノロジ								0					1												0	1			
就職	県外	JR 東海								0					1												0	1			
就職	県外	JR 西日本		1						1																	0	1			
就職	県外	KYB								0					0	1	1										2	2			
就職	県外	M テック		1						1																	0	1			
就職	県外	NOK								0																	0	1			
就職	県外	NTT ネオメイト		1						1					2												0	1	5		
就職	県外	NTT ネオメイト九州								0																	0	2			
就職	県外	NTT ファシリティーズ								0																	0	1			
就職	県外	PAP		1						0																	0	1			
就職	県外	TOTO パスクリエイイト								0																	0	1			
就職	県外	アイエックス・ナレッジ								0					1												0	2	4		
就職	県外	アイシン精機								0	1				1												1	1	3		
就職	県外	アイフォーコム								0					1												0	1	0		
就職	県外	アヴァシス								0														1			0	1	1		
就職	県外	アクセントテクノロジソリューションズ			1					1																	0	1	0		
就職	県外	旭化成								0																	0	1	4		
就職	県外	アプリカ								0																	0	1	1		
就職	県外	アプリックス			1					1																	0	3	0		
就職	県外	安藤証券			2					2					1												0	4	0		
就職	県外	出光興産		1	1					2					1												0	2	9		
就職	県外	出光興産徳山精油所								0																	0	1	0		
就職	県外	伊藤園								0																	0	1	0		
就職	県外	岩谷マテリアル								0	1				1												0	1	0		
就職	県外	ウェブテクノロジー								0														1			0	1	0		
就職	県外	エー・シー・エス								0																	0	1	1		
就職	県外	映像センター								0					1												0	1	0		
就職	県外	エヌアイシー・ソフト								0					1												0	1	0		
就職	県外	大阪ガス			1					1					1	1	2										3	1	7		
就職	県外	花王				1				1					2												1	1	2	7	
就職	県外	関西電力		1						1																	0	2	0		
就職	県外	神崎高級工機製作所								0	1				1												0	1	0		
就職	県外	カンメタエンジニアリング								0	1				1												0	1	3		
就職	県外	京セラ			1					1																	0	2	0		
就職	県外	京セラ川内工場								0					1												0	1	0		
就職	県外	京セラコミュニケーションシステム								0																	0	1	0		
就職	県外	京西テクノス								0																	0	1	2		
就職	県外	協和エクシオ								0																	0	1	1	2	4
就職	県外	神戸テクノス			1					1					1												1	1	0	3	
就職	県外	国立印刷局			1					1					1												1	1	0	3	
就職	県外	コベルコシステム			2					2					1												0	2	0	4	
就職	県外	さくら情報システム			1					1																	0	1	0	1	
就職	県外	サプライ								0																	0	1	0	1	

	大学・企業名	平成21年3月卒					平成22年3月卒					平成23年3月卒					平成24年3月卒					平成25年3月卒					計
		MS	IC	MI	BR	小計	MS	IC	MI	BR	小計	MS	IC	MI	BR	小計	MS	IC	MI	BR	小計	MS	IC	MI	BR	小計	
就職	県外	サムズインターナショナル				0				0				1							1				0	1	
就職	県外	サンテック				0				0									1		1				0	1	
就職	県外	サントリー			1	1	2			0											0				0	2	
就職	県外	サントリー・プロダクツ							1	1				1	1	1				2	3			1	1	6	
就職	県外	三洋化成工業	1			3	4			2	2	1			1				4	4	2			3	5	16	
就職	県外	シー・アール・シー				0				0					0			1		1				0	1		
就職	県外	シーエー・アドバンス				0				0					0					0		1	1		2	2	
就職	県外	シーテック				0				0					0					0			1		1	1	
就職	県外	シーフォービジネスインテグレーション				1	1			0					0						0				0	1	
就職	県外	ジェイエムエンジニアリング				0				0		1			1						0				0	1	
就職	県外	資生堂	1			1				0					0						0				0	1	
就職	県外	ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング				0			1	1					0						0				0	1	
就職	県外	シャープ				0				0					0						0		1		1	1	
就職	県外	新日鉄				0		2		2					0					0					0	2	
就職	県外	新日本製鐵	1	1		2				0	1	1			2					0	1				1	5	
就職	県外	セイコーインスツル				0				0		1			1					0					0	1	
就職	県外	第一三共プロファーマ				0				0			1	1					1	1				1	1	3	
就職	県外	ダイキン工業		1		1				0		2			2		1			1	1	2		2	5	9	
就職	県外	大同薬品工業株式会社				0				0					0					1	1	1	1	3	3	3	
就職	県外	大和製罐				0	1			1					0						0				0	1	
就職	県外	タップ				0		1		1					0						0				0	1	
就職	県外	中央エンジニアリング				0				0					0	1				1	1				1	2	
就職	県外	中部電力	1			1	1	1		2	1				1	1	1			2					0	6	
就職	県外	千代田計装				0		1		1					0						0				0	1	
就職	県外	デージーネット			1	1				0					0						0				0	1	
就職	県外	デジタルデザインサービス				0				0					0						1			1	1		
就職	県外	テラダイ				0				0					0	1				1				0	1		
就職	県外	電業社機械製作所	1			1				0					0						0				0	1	
就職	県外	デンソーテクノ				0		1		1					0						0				0	1	
就職	県外	東海精機	1			1				0					0						0				0	1	
就職	県外	東海鉄工		1	1	2			1	1					0						0				0	3	
就職	県外	東京エレクトロンFE				0				0		1			1						0				0	1	
就職	県外	東京エレクトロンデバイス				1	1			0					0						0				0	1	
就職	県外	東京計装				0				0					0					0	1				1	1	
就職	県外	東京電力	1			1	1			1	1				1						0				0	3	
就職	県外	東芝エレベーター				0				0	1				1						0				0	1	
就職	県外	東芝社会インフラシステム社				0				0					0		1			1		1			1	2	
就職	県外	東洋製罐				0				0					0									1	1	1	
就職	県外	トヨタコミュニケーションシステム			1	1			1	1			1					2		2			2		2	7	
就職	県外	南西糖業				0				0					0		1			1					0	1	
就職	県外	新潟原動機				0				0					0	1				1					0	1	
就職	県外	ニコン				0				0	1				1						0				0	1	
就職	県外	日機装	1			1				0					0						0				0	1	
就職	県外	日陽エンジニアリング				0	1			1					0	1				1					0	2	
就職	県外	ニフティ				0				0					0			1		1			1		1	2	
就職	県外	日本アルゴリズム				0				0					0			1		1					0	1	
就職	県外	日本オーチス・エレベータ				0				0		1			1						0				0	1	
就職	県外	日本空港テクノ				0		1		1					0						0				0	1	
就職	県外	日本特殊研砥				0				0					2	2					0				0	2	
就職	県外	日本乳化剤				0				0					1	1							1	1	2	2	
就職	県外	日本発条				0				0					0	1				1					0	1	
就職	県外	日本モレックス	1			1				0					0						0				0	1	
就職	県外	ネットイットワークス				1	1			0					0						0				0	1	
就職	県外	ハンモック				0			1	1			1		1						0				0	2	
就職	県外	光通信				0				0					0								1		1	1	
就職	県外	ピクシブ				0			1	1					0						0				0	1	
就職	県外	日立INS				0				0					0								1		1	1	
就職	県外	日立SC				0				0					0				1		1				0	1	
就職	県外	日立アドバンスデジタル				0				0			1		1						1				0	2	
就職	県外	日立情報通信エンジニアリング				0				0					0								1		1	1	
就職	県外	ビットサーフ				0				0					0								1		1	1	
就職	県外	富士ゼロックス				0				0					0								1		1	1	
就職	県外	富士重工業				0				0	1				1	1				1					0	2	
就職	県外	不二精油				0				0					1	1									0	1	
就職	県外	富士通				0		1		1		1			1	1			1		1			1	1	4	
就職	県外	富士通アドバンスソリューションズ			1	1			2	2			1		1						0		1		1	5	
就職	県外	富士通関西システムズ				0				0					0		1			1					0	1	
就職	県外	富士通九州システム				0				0					0								1		1	1	
就職	県外	富士通ソリューションズクリティカルシステムズ				0	1			1					0			1		1					0	2	
就職	県外	富士電機				0				0					0		1			1					0	1	
就職	県外	富士電機システムズ	1			1				0	1	1			2						0				0	3	
就職	県外	ブルーオーシャンシステム			1	1				0					0						0				0	1	
就職	県外	ペアック	1			1				0					0						0				0	1	
就職	県外	前田道路				0	1			1					0						0				0	1	
就職	県外	三重金属工業	1			1				0	1				1						0				0	2	
就職	県外	三菱重工神戸造船所				0	1			1	1				1						0				0	2	
就職	県外	三菱重工長崎研究所				0	1			1					0		1			1					0	2	
就職	県外	三菱重工広島研究所				0				0	1				1						0				0	1	
就職	県外	三菱電機システムサービス				0				0			1	1	2						0				0	2	
就職	県外	三菱電機ビルテクノサービス	1			1				0					0						0				0	1	

	大学・企業名	平成21年3月卒					平成22年3月卒					平成23年3月卒					平成24年3月卒					平成25年3月卒					計		
		MS	IC	MI	BR	小計	MS	IC	MI	BR	小計	MS	IC	MI	BR	小計	MS	IC	MI	BR	小計	MS	IC	MI	BR	小計			
就職	県外	ムラテック	1	1						0																0	2		
就職	県外	ムラテック CCS								0	1				1	1					1					1	4		
就職	県外	明治乳業								1					0						0						0	1	
就職	県外	メイテックフィルダース								1					0						0						0	1	
就職	県外	メルコ								0	1				1						0						0	1	
就職	県外	矢崎総業								0					0					1	1	1					1	2	
就職	県外	安川エンジニアリング								0					0						0						0	1	
就職	県外	安川電機	1							1					0						0						0	1	
就職	県外	雪印								0					0						0						0	1	
就職	県外	雪印メグミルク								0					0						1	1				1	2		
就職	県外	ユニアデックス			1					0					0						0						0	1	
就職	県外	リコーテクノシステムズ								0					0					1	1					1	2		
就職	県外	ルクレ								0					0						0					1	1	1	
就職	県外	レベルファイブ								0					0						0						0	1	
就職	県外	ワタミ								0	1				1						0						0	1	
その他	その他				1					0					2						1	2				3		0	6
進学	その他	沖縄高専 (研究生)								0	1				1	2					0	2					2	4	

専攻科

進学	国立	北海道大学大学院													1	1												0	1	
進学	国立	東北大学大学院													0	1												0	1	
進学	国立	電気通信大学大学院													1	1												0	1	
進学	国立	東京工業大学大学院													0	1				1	1							0	2	
進学	国立	東京大学大学院													0	1												0	1	
進学	国立	長岡技術科学大学大学院													0	1												0	1	
進学	国立	新潟大学大学院													1	1												0	1	
進学	国立	北陸先端科技大学院													0	1												0	1	
進学	国立	信州大学大学院													0	1												0	1	
進学	国立	静岡大学大学院													0	1												0	1	
進学	国立	豊橋技術科学大学大学院													0	1	1										1	4		
進学	国立	名古屋大学大学院													1	1												0	1	
進学	国立	京都大学大学院													0						1	1					1	1	2	
進学	国立	大阪大学大学院													0	1						1	1					1	2	
進学	国立	奈良先端科技大学院													0	1	1					2	3			1		1	6	
進学	国立	神戸大学大学院													0							0	1					1	1	
進学	国立	九州大学大学院													0	1	1											0	2	
進学	国立	熊本大学大学院													0	1												0	1	
進学	国立	琉球大学大学院													0	1										1	1	2	3	
進学	国立	茨城大学 (教育学部)													0											1	1	1	1	
進学	公立	首都大学東京大学院													0											1	1	2	2	
進学	その他	東京農工大学 (研究生)													0							1	1					0	1	
就職	県内	EM 研究機構													0							1	1					0	1	
就職	県内	沖縄県農業協同組合 (JAおきなわ)													0												1	1	1	
就職	県内	沖縄県庁													0							1						0	1	
就職	県内	沖縄セルラー電話													0							0				1		1	1	
就職	県内	沖縄テクノス													0											1	1	2	3	
就職	県内	沖縄ハム総合食品													0												1	1	1	
就職	県内	沖縄明治乳業													0							1	1					0	1	
就職	県内	沖縄変電ビルシステム													0							1						0	1	
就職	県内	オリオンビール													0							1	1					0	1	
就職	県内	金秀バイオ													0							1	1					0	1	
就職	県内	クリオサイトテクノロジーズ													0							1						0	1	
就職	県内	沖縄製粉													0							1	1					0	2	
就職	県内	翔南製糖													0							1						0	1	
就職	県内	拓南商事													0							0	1					1	1	
就職	県内	拓南製鐵													0							0	1					1	1	
就職	県内	ベアック沖縄													0	1												0	1	
就職	県外	アイシン精機													0	1	1										0	1	3	
就職	県外	旭化成													0	1										1	1	1	3	
就職	県外	アルウィン													0							1						0	1	
就職	県外	コペルコシステム													0											1		1	1	
就職	県外	サントリー・プロダクツ													0													0	1	
就職	県外	資生堂													0													0	2	
就職	県外	ジェイテック													0							0	1					1	1	
就職	県外	ジーエス・ユアサコーポレーション													0											1		1	1	
就職	県外	大同薬品工業													0												1	1	1	
就職	県外	大和製罐													0	1												0	1	
就職	県外	テクノ・トッパン・フォームズ													0											1		0	1	
就職	県外	テクノス・ジャパン													0											1		0	1	
就職	県外	テーブルマーク													0											0	1	1	1	
就職	県外	東京エレクトロン FE													0	1												0	1	
就職	県外	東京計装													0											1		1	1	
就職	県外	東通企画													0													0	1	
就職	県外	新潟原動機													0	1												0	1	
就職	県外	日陽エンジニアリング													0	1												0	1	
就職	県外	日本精工													0	1												0	1	
就職	県外	富士通													0							1						0	1	
就職	県外	ベアック													0	1												0	1	
就職	県外	三菱電機ビルテクノサービス													0											1		0	1	
就職	県外	リクルート													0												1	1	2	2

# インターンシップ先 平成21年度

インターンシップ受け入れ先	機械	情報	メディア	生物資源	実習場所
AMBIS 株式会社				1	県内
DIC 株式会社				1	県外
exsa 株式会社			1		県内
JFE スチール株式会社 東日本製鉄所		1			県外
NTT コミュニケーション科学基礎研究所		2			県外
大阪ガス株式会社	1	2			県外
沖縄瓦斯株式会社			1		県内
沖縄クロス・ヘッド株式会社			1		県内
沖縄県衛生環境研究所				1	県内
沖縄県工業技術センター	2				県内
沖縄県農業研究センター名護支所				1	県内
沖縄県農業研究センター本所				1	県内
沖縄電力株式会社	1	1	2		県内
沖縄プラント工業株式会社	2				県内
オリオンビール株式会社				3	県内
花王株式会社				2	県外
春日井製菓株式会社				1	県外
株式会社 EM 研究機構				3	県内
株式会社 IHI マリンユナイテッド 横浜工場	1				県外
株式会社 PUREWORKS			1		県外
株式会社 REI			1		県内
株式会社アクロラド		2			県内
株式会社エイティング沖縄		3	1		県内
株式会社オーシーシー		4			県内
株式会社神崎高級工機製作所	1				県外
株式会社久米島の久米仙				1	県内
株式会社資生堂				1	県外
株式会社ツムラ				1	県外
株式会社富士通九州システムズ			2		県外
株式会社リウコム			1		県内
株式会社沖縄タイムス			2		県内
カンメタエンジニアリング株式会社	2				県外
九州大学農学部				2	県外
九州大学理学部				1	県外
キューピー株式会社				3	県外
京都学園大学				1	県外
合資会社奥原硝子製造所	2				県内
国際農林水産業研究センター				1	県内
コベルコシステム株式会社		1			県外
サッポロビール株式会社				1	県外
三洋化成工業株式会社	1			1	県外
塩野義製薬株式会社	1			1	県外
新日本製鐵株式会社	2	1			県外
大和製罐株式会社 九州工場	1	2			県外
東京工業大学				1	県外
東京農業大学				1	県外
東京理科大学				1	県外
東北芸術工科大学				1	県外
独立行政法人海洋研究開発機構 国際海洋環境情報センター	3		1		県内
長岡技術科大学				2	県外

インターンシップ受け入れ先	機械	情報	メディア	生物資源	実習場所
那覇植物防疫事務所				1	県内
新潟原動機株式会社	3				県外
日陽エンジニアリング株式会社	2				県外
日本トランスオーシャン航空株式会社	2				県内
ポラ化成工業株式会社				2	県外
ホールアース自然学校沖縄校		2	1		県内
三菱重工業株式会社 長崎造船所	1				県外
三菱重工業株式会社 広島製作所	1				県外
有限会社ウイングインフィニティシステム			2		県内
リコーテクノシステムズ株式会社		2	1		県内
琉球セメント株式会社	2				県内
琉球大学工学部	3				県内
琉球大学農学部				4	県内
早稲田大学				1	県外
沖縄コンピュータ販売株式会社		1			県内
沖縄テクノス株式会社		1	2		県内
沖縄県庁情報政策課			2		県内
沖縄県立看護大学				1	県内
沖縄通信ネットワーク株式会社		1			県内
沖縄日立ネットワークシステムズ株式会社		1			県内
沖縄明治乳業株式会社		1			県内
株式会社おきなわ浄環技建	1				県内
株式会社オルタスジャパン			1		県外
株式会社佐喜眞義肢	1				県内
株式会社さんばん			4		県外
株式会社ジーエヌエー			3		県内
株式会社シュガートレイン			2		県内
株式会社ティーエスネット			1		県内
株式会社トリーセ沖縄			3	2	県内
株式会社トロピカルテクノセンター				1	県内
株式会社ハーベル		2	3		県内
株式会社レキサス		3	3		県内
株式会社開邦工業		2			県内
株式会社国際システム		2	2		県内
株式会社日本アドバンストシステム			2		県内
京セラ株式会社鹿児島国分工場		2			県外
京西テクノス株式会社		1			県外
三菱電機ビルテクノサービス株式会社		1			県外
拓南製鐵株式会社	2				県内
鶴味醸造株式会社	1				県外
東京エレクトロン FE 株式会社		1			県外
東京エレクトロンデバイス株式会社		1			県外
南西石油株式会社	1				県内
日本認証サービス株式会社				1	県外
富士通株式会社		6			県外
有限会社海生堂	2				県内
	42	49	46	47	
県内企業					52
県外企業					44

# インターンシップ先 平成22年度

インターンシップ受け入れ先	機械	情報	メディア	生物資源	実習場所
株式会社日立アドバンストデジタル		1			県外
独立行政法人海洋研究開発機構 国際海洋環境情報センター	1				県内
AMBIS、バイオ 21 株式会社				1	県内
DIC 株式会社				1	県外
GODAC		1	2		県内
JAXA（宇宙航空研究開発機構）			1		県外
NTT ネオメイト九州支店		3	1		県内
アールシーエス株式会社		3			県内
アイ・テー・シー株式会社			2		県外
アイフォーコム株式会社		1	1		県外
愛媛蚕種株式会社				1	県外
大阪ガス		1			県外
日本トランスオーシャン航空株式会社	1				県外
オーピーバイオ				4	県内
お菓子のポリシェ	1				県内
冬頭建設	1				県外
沖縄県農業研究センター				3	県内
沖縄コカ・コーラボトリング株式会社	2			1	県内
沖縄ソフトウェアセンタ		1			県内
沖縄タイムス			1		県内
沖縄テクノス			1		県内
沖縄電力株式会社		1			県内
沖縄プラント工業株式会社	2				県内
オリオンビール株式会社	2				県内
花王株式会社				3	県外
金秀鉄工株式会社	1				県内
株式会社日本海藻食品研究所				1	県外
株式会社 AMBIS				1	県内
株式会社 EM 研究機構				5	県内
株式会社エイティング沖縄		1	3		県内
株式会社オルタスジャパン			2		県外
株式会社開邦工業	2			2	県内
株式会社カンセツ 大分事業所	2				県外
株式会社佐喜真義肢	1				県内
株式会社佐久本工機	1				県内
株式会社サンロフト		1			県外
株式会社資生堂				1	県外
株式会社トロピカルテクノセンター				2	県内
株式会社レキサス		2			県内
環境分析センター				1	県内
カンメタエンジニアリング株式会社	2				県外
金秀鉄工株式会社	1				県外
京西テクノス株式会社		1			県外
京セラ株式会社国分工場		1			県外
クオリサイトテクノロジーズ		4			県内
国立健康・栄養研究所				1	県外
産業技術総合研究所		1			県外
三洋化成工業株式会社	1				県外
新糸満造船株式会社	1				県内

インターンシップ受け入れ先	機械	情報	メディア	生物資源	実習場所
新日本製鐵株式会社	1	2			県外
タイガー産業株式会社	2				県内
ダイキン工業株式会社	1				県外
チッソ株式会社				2	県外
東京エレクトロンFE		2			県外
東京エレクトロンデバイス		1			県外
東京薬科大学				1	県外
豊橋技術科学大学		1			県外
南石石油株式会社	2				県内
新潟原動機株式会社	2				県外
日陽エンジニアリング株式会社	2				県外
東日本旅客鉄道株式会社			1		県外
富士通株式会社		4	2		県外
富士通株式会社	1				県外
三菱重工業広島研究所	1				県外
有限会社海生堂				1	県内
リコーテクノシステムズ		3			県内
琉球セメント株式会社	2				県内
沖縄クロス・ヘッド株式会社		1			県内
沖縄コンピュータ販売株式会社			3		県内
沖縄タイムス			2		県内
沖縄テレビ放送株式会社		2			県内
沖縄県農業研究センター				3	県内
株式会社シュガートレイン			3		県内
株式会社 PUREWORKS			1		県外
株式会社アジャスト			1		県外
株式会社アニメトロニカ			1		県外
株式会社エムアイシー沖縄工房			1		県内
株式会社久米島の久米仙				1	県内
株式会社ホームル				1	県内
株式会社リウコム			1		県内
株式会社リウボウインダストリー			1		県内
株式会社リンクアット・ジャパン			4		県外
株式会社レキサス			1		県内
株式会社国際システム		1	1		県内
国際農林水産業研究センター				3	県内
国立健康・栄養研究所				1	県外
三洋化成工業株式会社				1	県外
大和製罐株式会社 九州工場	1	1			県外
東北大学				1	県外
有限会社 S・P プロジェクト	1				県外
有限会社イングデザイン研究所			1		県外
	38	41	38	43	

県内企業	46
県外企業	45



# インターンシップ先 平成23年度

インターンシップ受け入れ先	機械	情報	メディア	生物資源	実習場所
EM 研究機構				1	県内
Jetrun テクノロジ		1	3		県内
JFE スチール株式会社 西日本製鉄所	1				県外
JNC 株式会社				1	県外
NTT		1			県外
TSNET				1	県内
愛農学園農業高等学校				1	県外
アクト・ツー				1	県内
英語キャンプ			2		県外
オキコ株式会社				1	県内
オリオンビール株式会社	1			1	県内
恩賜上野動物園				1	県外
株式会社インフォクラフト			1		県外
株式会社ソーワコーポレーション				1	県外
株式会社琉球銀行			1	1	県内
キューピー株式会社 五霞工場	1				県外
クオリサイトテクノロジーズ株式会社		1	1		県内
久米島の久米仙				1	県内
サントリーブロダクツ				1	県外
サンネット株式会社			1		県内
サンリツオートメイション株式会社		1			県外
瑞泉酒造				2	県内
積水フィルム(株) 九州出水工場				1	県外
摂南大学				1	県外
ダイキン工業株式会社		1			県外
東京エレクトロンFE 株式会社		2			県外
東京エレクトロンデバイス		1			県外
名古屋大学				2	県外
ニフティ株式会社		1	1		県外
ムラテック C.C.S 株式会社	1				県外
メタウォーター株式会社		1			県内
リコーテクノシステムズ株式会社		3			県内
琉球大学医学部保健学科今泉直樹先生				3	県内
旭化成株式会社				1	県外
沖電グローバルシステムズ株式会社		2			県内
沖縄インターマップ株式会社			1		県内
沖縄クロス・ヘッド株式会社		1			県内
沖縄コカ・コーラボトリング株式会社	2				県内
沖縄コンピュータ販売株式会社	1				県内
沖縄ソーリスト株式会社		1			県内
沖縄テクノス株式会社			2		県内
沖縄テレビ放送株式会社			2		県内
沖縄プラント工業株式会社	2				県内
沖縄県衛生環境研究所				1	県内
沖縄県工業技術センター	2			3	県内
沖縄県農業研究センター本所				1	県内
沖縄県農業研究センター名護支所				1	県内
沖縄電力株式会社	1				県内
沖縄明治乳業株式会社				1	県内
花王株式会社	2				県外
株式会社ベアック沖縄 (長野事業所)	3		1		県外
株式会社開邦工業	2				県内
株式会社 NTT ネオメイト 九州支店 沖縄事業所		1	2		県内
株式会社 PUREWORKS				1	県外
株式会社アドスタッフ博報堂				1	県内
株式会社インデックス沖縄				1	県内
株式会社オーシーシー		1			県外

インターンシップ受け入れ先	機械	情報	メディア	生物資源	実習場所
株式会社オルタスジャパン				3	県外
株式会社ジャスミンソフト				1	県内
株式会社シュガートレイン		1	2		県内
株式会社ミヤギパッケージ				3	県内
株式会社リウコム		1			県内
株式会社リバナエス				1	県外
株式会社リンクアット・ジャパン				3	県外
株式会社レキサス			2		県内
株式会社沖縄タイムス			2		県内
株式会社沖縄環境分析センター				1	県内
株式会社興洋電子		1			県内
株式会社佐喜真義肢	1				県外
宮古製糖株式会社				1	県内
京セラ株式会社鹿児島国分工場		1			県外
財団法人沖縄こども未来ゾーン運営財団			2		県内
財団法人沖縄県環境科学センター				1	県内
三菱重工業株式会社 長崎造船所	1				県外
三菱電機ビルテクノサービス株式会社		2			県外
三洋化成工業株式会社				2	県外
出光興産株式会社	1	1			県外
新潟原動機株式会社	1				県外
新日鐵株式会社大分製鐵所	1	1			県外
瑞徳酒造株式会社				2	県内
村田機械株式会社本社	1				県外
大阪ガス株式会社	1	1			県外
大和製罐株式会社 九州工場	1	1			県外
長岡技科大学			1	2	県外
独立行政法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA)	2				県外
独立行政法人海洋研究開発機構 国際海洋環境情報センター		1	1		県外
南西地域産業活性化センター				1	県内
日本一ソフトウェア				1	県外
富士電機ホールディングス株式会社		1			県外
豊橋技術科学大学	1	1			県外
有限会社生物資源研究所				1	県内
	30	32	43	40	

県内企業	47
県外企業	44

# 教育課程表

## 別表第1:一般科目

授業科目	単位数	区 分	学 年 別 配 当										備 考		
			1年		2年		3年		4年		5年				
			単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間			
国語	国語Ⅰ	4	講義	2	通	2	通								
	国語Ⅱ	2	講義					2	通						
	文学概論Ⅰ	1	講義							1	半				
	文学概論Ⅱ	2	講義									2	学半	学修単位	
	科学技術文章	3	講義							1	半	2	学半	5年は学修単位	
英語	英語	9	演習	3	通	3	通	2	通	1	半				
	実用英語 (TOEIC)	10	演習	2	通	2	通	2	通	2	通	2	通		
	科学技術英語	5	演習					1	半	2	通	2	学通	5年は学修単位	
社会科学	歴史学概論	2	講義			2	通								
	地理学概論	2	講義					2	通						
	地域文化論	1	講義							1	半				
	技術者倫理	2	講義									2	学半	学修単位	
数学	基礎数学Ⅰ	4	講義	4	通										
	基礎数学Ⅱ	4	講義	4	通										
	微積分Ⅰ	4	講義			4	通								
	微積分Ⅱ	4	講義					4	通						
	線形代数	2	講義			2	通								
	確率・統計	1	講義							1	半				
自然科学	物理	4	講義	2	通	2	通								
	化学	2	講義・演習	2	通										
	生物	2	講義			2	通								
	地球科学	1	講義							1	半				
	環境科学	1	講義					1	半						
健康科学	スポーツ実技Ⅰ	5	演習・講義	2	通	2	通	1	半						
	健康科学	1	演習・講義					1	半						
修 得 単 位 計			78		21		21		16		10		10		
選 択	中国語	2	講義									2	学半	学修単位	
	韓国語	2	講義									2	学半	学修単位	
	ドイツ語	2	講義									2	学半	学修単位	
	沖縄方言Ⅰ	1	講義	1	半										
	沖縄方言Ⅱ	1	講義			1	半								
	日本語	7	読解・会話			2	通	2	通	1	半	2	学半	※外国人留学生科目、学修単位	
	日本事情	5	講義・実践			2	通	2	通	1	半			※外国人留学生科目	
	英語演習	1	演習							1	半				
	英会話Ⅰ	1	演習	1	半										
	英会話Ⅱ	1	演習			1	半								
	数学演習	1	演習							1	半				
	生命科学	2	講義・実験							2	学半			学修単位	
	音楽	1	演習	1	半										
	美術	1	演習	1	半										
	デザイン	1	演習			1	半								
	特許法・法学	1	講義									1	半		
	スポーツ実技Ⅱ	2	演習・講義							1	半	1	半		
	開 設 単 位 計			32		4		7		4		7		10	本校以外の教育施設に於ける学修単位および資格試験は含まない
修 得 単 位 計			3		1		0		0		1		1		
開 設 単 位 合 計			110		25		28		20		17		20		
修 得 単 位 合 計			81		22		21		16		11		11		

※ 特別学修一般として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含まない。(詳細は別に定める)

教育課程表 別表第2:(1)機械システム工学科

授業科目	単位数	区 分	学 年 別 配 当										備 考			
			1年		2年		3年		4年		5年					
			単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間				
全学共通 専門科目	沖縄高専セミナー	2	講義	2	半											
	情報技術の基礎	3	講義	3	通											
	創造演習	2	演習			2	通									
	産業創造セミナー	2	講義・実習					2	通							
	インターンシップ	3	実習							3	通					
基礎 科目群	専門基礎工学	2	講義	2	半											
	プログラミングⅠ	2	講義・演習			2	通									
	応用数学Ⅰ	2	講義						2	通						
	応用数学Ⅱ	2	講義								2	通				
	応用物理	2	講義				2	通								
	機械力学	3	講義						3	学通					学修単位	
材料 システム群	材料加工システムⅠ	3	実習	3	通											
	材料加工システムⅡ	3	実習			3	通									
	材料加工システムⅢ	3	講義					3	通							
	機械材料	3	講義・実験					3	通							
	CAD・CAMⅠ	2	演習					2	通							
	CAD・CAMⅡ	2	演習							2	通					
	材料科学	2	講義							2	学通				学修単位	
設計 システム群	機械設計基礎学Ⅰ	2	講義・実習	2	通											
	機械設計基礎学Ⅱ	3	講義・実習			3	通									
	材料力学設計Ⅰ	2	講義・実習			2	通									
	材料力学設計Ⅱ	2	講義・演習					2	通							
	総合構造設計	2	演習							2	学通				学修単位	
	熱工学	3	講義							3	通					
	流体工学	2	講義							2	通					
	熱流体機器	2	講義									2	学通		学修単位	
	システム 制御群	電気・電子工学	2	講義					2	通						
		制御工学	2	講義							2	学通				学修単位
メカトロニクス工学		3	講義									3	学通		学修単位	
計測工学		2	講義									2	学半		学修単位	
共通群	機械システム工学実験Ⅰ	3	実験							3	通					
	機械システム工学実験Ⅱ	3	実験									3	通			
	卒業研究	8	実験										8	通		
修 得 単 位 計		84				12		12		16		24		20		
選 択	基礎科目群	プログラミングⅡ	2	講義・演習					2	通						
		化学及び化学実験法	2	講義・演習					2	学通						
	材料 システム群	CAE	2	講義									2	通		
		設計 システム群	エネルギー変換工学	2	講義									2	学通	学修単位
	システム 制御群		生産工学	2	講義									2	通	
		システム制御論	1	講義									1	学半	学修単位	
		知能制御論	1	講義									1	学半	学修単位	
共通群	創造研究*	5	演習	1	通	1	通	1	通	1	通	1	通		*各学年毎に 単位取得可 (最大5単位)	
開 設 単 位 計		17				1		1		5		1		9		
修 得 単 位 計		5				0		0		2		0		3		
開 設 単 位 合 計		101				13		13		21		25		29		
修 得 単 位 合 計		89				12		12		18		24		23		

※ 特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含まない。(詳細は別に定める)

# 教育課程表

## 別表第2:(2)情報通信システム工学科

授業科目	単位数	区 分	学 年 別 配 当										備 考		
			1 年		2 年		3 年		4 年		5 年				
			単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間			
全学共通 専門科目	沖縄高専セミナー	2	講義	2	半										
	情報技術の基礎	3	講義	3	通										
	創造演習	2	演習			2	通								
	産業創造セミナー	2	講義・実習					2	通						
	インターンシップ	3	実習							3	通				
基礎科目群	離散数学	2	講義							2	学半			学修単位	
	応用数学	2	講義							2	通				
	応用物理	2	講義							2	通				
	情報通信工学実験基礎	2	実験	2	半										
	情報通信工学実験Ⅰ	2	実験			2	通								
	情報通信工学実験Ⅱ	2	実験					2	通						
	情報通信工学実験Ⅲ	2	実験							2	通				
	計算機工学Ⅰ	2	講義	2	通										
	計算機工学Ⅱ	2	講義			2	通								
	コンピュータアーキテクチャ	2	講義					2	通						
	ソフトウェア演習	1	演習	1	半										
	プログラミング基礎Ⅰ	2	講義	2	通										
	プログラミング基礎Ⅱ	2	講義			2	通								
	応用プログラミングⅠ	2	講義							2	学通			学修単位	
	応用プログラミングⅡ	4	講義									4	学通	学修単位	
	データベース	2	講義									2	学半	学修単位	
	電気回路Ⅰ	電気回路Ⅰ	2	講義			2	通							
電気回路Ⅱ		2	講義					2	通						
電磁気学		2	講義							2	学通			学修単位	
ネットワーク概論		2	講義			2	通								
情報通信 工学群	信号処理	2	講義							2	学半			学修単位	
	情報理論	2	講義								2	学半		学修単位	
	通信工学Ⅰ	2	講義							2	学半			学修単位	
	通信工学Ⅱ	2	講義								2	学半		学修単位	
電子・集積 回路工学群	半導体工学	1	講義					1	半						
	電子回路Ⅰ	2	講義					2	通						
	電子回路Ⅱ	2	講義					2	通						
	集積回路Ⅰ	2	講義							2	学通			学修単位	
	集積回路Ⅱ	4	講義								4	学通		学修単位	
計算機 ソフト ウェア群	計測工学	2	講義					2	通						
	制御工学	2	講義							2	学半			学修単位	
	オペレーティングシステム	2	講義					2	通						
	アルゴリズムとデータ構造	2	講義					2	通						
共通群	卒業研究	8	実験								8	通			
修 得 単 位 計			88		12		12		19		23		22		
基礎科目群	化学及び化学実験法	2	講義・実習							2	通				
	情報通信 工学群	情報通信総合演習	2	演習							2	学通			学修単位
		電波電送学	2	講義								2	学半		学修単位
		通信法規	1	講義								1	学半		学修単位
	計算機 ソフト ウェア群	IT 応用	2	講義					2	通					
人工知能		2	講義							2	学半			学修単位	
共通群	創造研究*	5	演習	1	通	1	通	1	通	1	通	1	通	*各学年毎に 単位取得可 (最大5単位)	
開 設 単 位 計			16		1		1		3		7		4		
修 得 単 位 計			1		0		0		0		1		0		
開 設 単 位 合 計			104		13		13		22		30		26		
修 得 単 位 合 計			89		12		12		19		24		22		

※ 特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含まない。(詳細は別に定める)

教育課程表 別表第2:(3)メディア情報工学科

授業科目	単位数	区 分	学 年 別 配 当										備 考			
			1 年		2 年		3 年		4 年		5 年					
			単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間				
全学共通 専門科目	沖縄高専セミナー	2	講義	2	半											
	情報技術の基礎	3	講義	3	通											
	創造演習	2	演習			2	通									
	産業創造セミナー	2	講義・実習					2	通							
	インターンシップ	3	実習							3	通					
基礎科目群	離散数学	2	講義					2	通							
	応用数学	2	講義							2	通					
	応用物理	2	講義							2	通					
	情報理論	2	講義									2	学半	学修単位		
	プログラミングⅠ	3	講義	3	通											
	メディア情報工学セミナー	1	講義	1	半											
必 修	コンピュータアーキテクチャ	2	講義					2	通							
	メディアコンテンツ基礎	3	講義・演習	3	通											
	メディア情報工学実験Ⅰ	4	実験			4	通									
	コンピュータグラフィックスⅠ	4	講義							4	学通			学修単位		
	コンピュータグラフィックスⅡ	2	講義									2	学半	学修単位		
	メディア情報工学実験Ⅱ	2	実験					2	通							
	プログラミングⅡ	4	講義			4	通									
	プログラミングⅢ	2	実験					2	通							
	アルゴリズムとデータ構造	2	講義					2	通							
	メディア情報工学実験Ⅳ	2	実験							2	通					
ソフト ウェア群	OSとコンパイラ	4	講義							4	学通			学修単位		
	ハード ウェア群	デジタル回路	2	講義			2	通								
	メディア情報工学実験Ⅲ	2	実験					2	通							
ネット ワーク群	通信工学	2	講義					2	通							
	情報セキュリティ	2	講義									2	学通	学修単位		
	コンピュータネットワークⅠ	2	講義					2	通							
共通群	コンピュータネットワークⅡ	2	講義									2	学通	学修単位		
	卒業研究	8	実験									8	通			
修 得 単 位 計		75		12		12		18		17		16				
選 択	基礎科目群	化学及び化学実験法	2	講義・実習						2	通					
	コンテンツ群	メディアコンテンツ応用	2	講義								2	学半	学修単位		
	ソフト ウェア群	データベース	2	講義								2	学半	学修単位		
		オブジェクト指向言語Ⅰ	2	講義							2	学半		学修単位		
		オブジェクト指向言語Ⅱ	2	講義								2	学半	学修単位		
		組み込みソフトウェア	2	講義								2	学半	学修単位		
		計算機科学	2	講義							2	学半		学修単位		
	ハード ウェア群	デジタルシステム設計	2	講義							2	学半		学修単位		
		アナログ回路	2	講義							2	学半		学修単位		
		制御とロボット	2	講義								2	学半	学修単位		
	ネット ワーク群	ネットワーキングⅠ	2	講義							2	学半		学修単位		
		ネットワーキングⅡ	2	講義							2	学半		学修単位		
		信号処理とメディア通信	2	講義								2	学半	学修単位		
	共通群	創造研究*	5	演習	1	通	1	通	1	通	1	通	1	通	*各学年毎に 単位取得可 (最大5単位)	
開 設 単 位 計		31		1		1		1		15		13				
修 得 単 位 計		14		0		0		0		6		8				
開 設 単 位 合 計		106		13		13		19		32		29				
修 得 単 位 合 計		89		12		12		18		23		24				

※ 特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含まない。(詳細は別に定める)

# 教育課程表

## 別表第2:(4)生物資源工学科

	授業科目	単位数	区 分	学 年 別 配 当										備 考						
				1 年		2 年		3 年		4 年		5 年								
				単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間							
必 修	全学共通 専門科目	沖縄高専セミナー	2	講義	2	半														
		情報技術の基礎	3	講義	3	通														
		創造演習	2	演習			2	通												
		産業創造セミナー	2	講義・実習					2	通										
		インターンシップ	3	実習							3	通								
	基礎科目群	基礎科学	2	講義	2	半														
		応用物理	2	講義					2	通										
		応用数学	2	講義							2	通								
		基礎プログラミング	2	講義	2	通														
		情報技術の応用	2	講義					2	通										
	生物化学 工学群	有機化学・物理化学	4	講義・実習・演習			4	通												
		生物分析化学	2	講義・実習			2	通												
		生物有機化学	2	講義					2	通										
		生化学	3	講義					3	通										
		生化学実験	1	実験					1	通										
		遺伝子工学	2	講義							2	学通							学修単位	
		遺伝子工学実験	2	実験							2	学通							学修単位	
		生物工学	2	講義							2	通								
	環境・ 微生物学群	微生物学	3	講義			3	通												
		微生物学実験	1	実験			1	通												
		発酵学	2	講義・実習					2	通										
		環境学	1	演習					1	半										
		環境学実験	2	実験					2	半										
		環境分析学	2	講義・演習							2	学通							学修単位	
	食品化学 工学群	生物資源利用学Ⅰ	2	講義							2	学通							学修単位	
		生理学	2	講義							2	学通							学修単位	
		生理学実験	2	実験							2	学通							学修単位	
		食品プロセス工学	4	講義									4	学通					学修単位	
		食品製造学	2	講義・実験									2	通						
	共通群	バイオテクノロジー 基礎実験	3	実験	3	通														
		化学及び化学実験法	2	実験					2	通										
		卒業研究	8	実験									8	通						
	修 得 単 位 計		78		12		12		19		21		14							
	選 択	生物化学 工学群	分子生物学	2	講義								2	学通					学修単位	
			細胞工学	2	講義									2	通					
			同位元素利用学	2	講義									2	通					
		環境・ 微生物学群	環境保全学	2	講義							2	半							
			植物生理学	2	講義							2	学通							学修単位
			資源リサイクル学	2	講義									2	通					
		食品化学 工学群	生物資源利用学Ⅱ	2	講義・実験									2	学通					学修単位
タンパク質工学			2	講義									2	通						
共通群		創造研究*	5	演習	1	通	1	通	1	通	1	通	1	通					*各学年毎に 単位取得可 (最大5単位)	
		開 設 単 位 計	21		1		1		1		5		13							
修 得 単 位 計		11		0		0		0		3		8								
開 設 単 位 合 計		99		13		13		20		26		27								
修 得 単 位 合 計		89		12		12		19		24		22								

※ 特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含めない。(詳細は別に定める)

## 教育課程表 **別表第3**

卒業に必要な修得単位数（平成23年度入学以降）

	一般科目の修得単位	専門科目の修得単位	卒業に必要な修得単位
各学科共通	81 以上	89 以上	170 以上

卒業に必要な修得単位数（平成22年度入学以前）

	一般科目の修得単位	専門科目の修得単位	卒業に必要な修得単位
各学科共通	80 以上	87 以上	167 以上

# 教育課程表

## 別表第4:創造システム工学専攻

種別	コース	必修・ 選択の別	科目名	単位数	期間	区分	学年別配当単位数		備考	
							1年	2年		
一般科目	全コース	必修	実用英語Ⅰ	2	後期	講義	2			
			実用英語Ⅱ	2	前期	講義		2		
		選択	日本語・日本文化論	2	前期	講義	2			
			哲学・倫理学	2	後期	講義		2		
			日琉交流史	2	後期	講義	2			
			国際政治経済学	2	後期	講義		2		
			環境変遷学	2	後期	講義	2			
			スポーツバイオメカニクス	2	後期	講義		2		
		修得単位計			8			4	4	
		開設単位計			16			8	8	
専門共通科目	全コース	必修	特別研究	14	通年	実験	6	8		
			創造システム工学実験	4	通年	実験	4			
			専攻科実験	4	通年	実験		4		
		選択	物理学特論	2	後期	講義	2			
			数学通論	2	前期	講義	2			
			応用解析学	2	前期	講義		2		
			応用物理特論	2	前期	講義	2			
			物理化学	2	前期	講義		2		
			バイオテクノロジー	2	後期	講義	2			
			バイオマス利用工学	2	後期	講義	2			
			品質・安全マネジメント特論	1	後期	講義		1		
			技術史	1	前期	講義		1		
			環境システム物理学	2	前期	講義		2		
			経営工学	2	前期	講義		2		
			長期インターンシップ	4	通年	実習	4		2年次選択可	
			グローバルインターンシップ	2	通年	実習		2	1年次選択可	
			修得単位計			34			16	18
開設単位計			48			24	24			
専門科目	機械システム工学コース	選択	材料学特論	2	前期	講義	2			
			溶接・接合工学	2	前期	講義		2		
			連続体力学	2	前期	講義	2			
			材料強度学特論	2	前期	講義		2		
			数値シミュレーションⅠ	2	後期	講義	2			
			数値シミュレーションⅡ	2	前期	講義		2		
			生産工学特論	2	後期	講義	2			
			制御系構成論	2	後期	講義	2			
			表面工学	2	後期	講義		2		
			輸送現象論	2	前期	講義	2			
			流体工学特論	2	後期	講義	2			
			熱機関工学	2	後期	講義	2			
			ロボット工学	2	後期	講義		2		
			技術管理概論	2	後期	講義		2		
			電子通信システム工学コース	シミュレーション工学	2	後期	講義	2		
	数理計画法			2	後期	講義	2			
	生体情報工学			2	前期	講義		2		
	数値解析論			2	前期	講義		2		
	信号処理特論			2	後期	講義	2			
	アルゴリズム理論			2	後期	講義		2		
	マイクロ波工学			2	前期	講義	2			
	システムLSI設計工学			2	前期	講義	2			
	光電子デバイス			2	前期	講義	2			
	半導体物性工学			2	後期	講義	2			
	弾性波工学			2	前期	講義		2		
	電子機器工学			2	後期	講義		2		
	知能システム特論		2	前期	講義		2			
LSIプロセス工学	2	前期	講義	2						



種別	コース	必修・ 選択の別	科目名	単位数	期間	区分	学年別配当単位数		備考		
							1年	2年			
専 門 科 目	情 報 工 学 コ ー ス	選 択	情報数学	2	前期	講義	2				
			メディアコンテンツ特論	2	後期	講義	2				
			応用統計学	2	前期	講義		2			
			組込システム特論	2	前期	講義	2				
			データ工学	2	後期	講義	2				
			情報セキュリティ特論	2	前期	講義		2			
			ソフトウェア開発特論	2	後期	講義		2			
			計算機科学特論	2	前期	講義	2				
			ロボティクス	2	前期	講義		2			
			ヒューマンインタフェイス	2	前期	講義		2			
			パターン認識	2	後期	講義		2			
			モバイル通信方式特論	2	後期	講義	2				
			システム制御理論	2	前期	講義	2				
			光通信システム	2	後期	講義		2			
			適応処理特論	2	後期	講義		2			
			生 物 資 源 工 学 コ ー ス	神経細胞生物学	2	前期	講義	2			
				資源生物機能形態学	2	前期	講義	2			
				分子生物学Ⅱ	2	前期	講義	2			
	植物工学			2	後期	講義		2			
	無機化学			2	後期	講義	2				
	代謝化学			2	前期	講義		2			
	応用微生物学			2	前期	講義	2				
	食品衛生工学			2	後期	講義		2			
	酵素化学			2	前期	講義	2				
	醸造学			2	後期	講義	2				
	生物資源の機能性科学			2	前期	講義		2			
	酸化ストレスの生命科学			2	後期	講義	2				
	タンパク質資源利用学			2	前期	講義		2			
	食品化学			2	後期	講義	2				
	食品機能学			2	前期	講義		2			
	他コースの選択科目							6単位まで認める			
	修得単位計			20			10	10			
	開設単位計			116			64	52			
	修得単位合計			62			30	32			
	開設単位合計			180			96	84			

※ 本校以外の教育施設で修得した単位を認めることがある。

(以上は平成25年度入学生のものである。)

	開催日	沖縄高専フォーラム・技術交流会
第1回	平成16年 11月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「産官学連携に関する経済産業省の施策紹介」 内閣府沖縄総合事務局 経済産業部長 加藤 元彦</li> <li>「産官学連携を効率的に! &amp; 効果的に!」 独立行政法人産業技術総合研究所四国センター 所長代理 勝村 宗英</li> <li>「沖縄県における産官学連携の事例紹介」 沖縄県工業技術センター 次長 國吉 和男</li> </ul>
第2回	平成17年 11月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「OKINAWA 型産業振興プロジェクト推進ネットワーク」における「健康関連産業分野」の概要等について 内閣府沖縄総合事務局 経済産業部 企画振興課長 新垣 全和</li> <li>生物資源の活用による産業育成の方向性を考える 生物資源利用研究所 所長 根路銘 国昭</li> <li>危害分析による食品製造 (HACCP) について 沖縄工業高等専門学校 生物資源工学科教授 三枝 隆裕</li> </ul>
第3回	平成18年 11月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「我が国の IT 政策の現状と沖縄の方向性について」 内閣府沖縄総合事務局経済産業部 地域経済課特許室長・課長補佐 玉城 秀一</li> <li>「事業概要とニュースグループの戦略」 株式会社ビックニュース 代表取締役社長 小森 彦太郎</li> <li>「沖縄高専の教育と地域・企業とのつながり」 沖縄工業高等専門学校 情報通信システム工学科助教 野口 健太郎</li> <li>「メディア情報工学科におけるネットワーク技術者育成」 沖縄工業高等専門学校 メディア情報工学科教授 角田 正豊</li> </ul>
第4回	平成19年 11月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ロボット製作と沖縄の取り組み」 内閣府沖縄総合事務局経済産業部 地域経済課特許室長・課長補佐 玉城 秀一</li> <li>「沖縄におけるロボット研究教育の現状」 琉球大学工学部 情報工学科准教授 山田 孝治</li> <li>「災害に役立つレスキューロボット」 沖縄工業高等専門学校 機械システム工学科准教授 武村 史朗</li> </ul>
第5回	平成20年 11月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「食物資源と生物資源」 愛知学院大学教授・名古屋大学名誉教授 村松 喬</li> <li>「ヴァーム / スポーツ飲料の開発」 明治乳業株式会社研究本部食品開発研究所 常松 雅子</li> <li>「県内健康・食品産官学連携の現状」 株式会社沖縄 TLO 取締役 宮里 大八 沖縄工業高等専門学校 生物資源工学科教授 池松 真也</li> </ul>
第6回	平成21年 11月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「高専発 IT 創業 :ICT 技術とコンテンツの融合ビジネスを目指して」 株式会社ガーコ 代表取締役社長 淵上 英敏</li> <li>「沖縄における IT 創業」 株式会社リユース 代表取締役社長 齋藤 孝春</li> <li>「高専連携による組込み人材育成」 仙台高等専門学校知能エレクトロニクス工学科 准教授 與那嶺 尚弘</li> <li>「沖縄高専における IT 人材育成」 沖縄工業高等専門学校 情報通信システム工科学科長 石田 修己</li> </ul>
第7回	平成22年 11月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「可視光通信技術について」 可視光通信コンソーシアム (VLCC) 事務局長 松村 友邦</li> <li>「水中ロボットと可視光通信」 沖縄工業高等専門学校 機械システム工学科准教授 武村 史朗</li> <li>「沖縄の可視光通信の取り組み①」 株式会社リセ 取締役 上間 秀樹</li> <li>「沖縄の可視光通信の取り組み②」 株式会社国建システム 企画コンサル推進部マネージャー 豊 耕一郎</li> </ul>
第8回	平成23年 11月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「沖縄高専の技術相談、共同研究事例」 沖縄工業高等専門学校 機械システム工学科助教 下嶋 賢</li> <li>「「デザイン」の権利とは」 松尾特許事務所 所長・弁理士 松尾 憲一郎</li> <li>「高専における産官学連携と知的財産」 熊本高等専門学校 地域イノベーションセンター 九州沖縄地区産官学連携コーディネーター 瀬戸 英昭</li> </ul>
第9回	平成24年 11月21日	<p>パネルディスカッション テーマ:「沖縄高専 これまでの10年 これからの10年」</p> <p>パネリスト: 稲嶺 恵一氏 (前沖縄県知事) 親川 敬氏 (名護市副市長) 新垣 昌光氏 (沖縄工業高等専門学校産学連携協会副会長) 糸村 昌祐氏 (前沖縄工業高等専門学校長) 伊東 繁氏 (沖縄工業高等専門学校長) 司会・進行: 池松 真也氏 (沖縄工業高等専門学校 地域共同テクノセンター長)</p>

	開催日	沖縄高専北部地区産学連携フォーラム・技術交流会
第1回	平成18年 2月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「OKIDOが目指す『産学官連携』プロジェクト」 (株)自立型オキナワ経済発展機構 代表取締役副社長 余語 俊彦</li> <li>・「地域振興における産学官連携」 学校法人名護総合学園 北部生涯学習推進センター長 鈴木 邦治</li> </ul>
第2回	平成19年 2月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「見える錆の実際と対応」 株式会社竹中工務店技術研究所建設技術研究部 環境・計画部門環境設計グループ 主任研究員 山手 利博</li> <li>・「錆の予防について」 沖縄工業高等専門学校 機械システム工学科教授 宮田 恵守</li> </ul>
第3回	平成20年 2月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ソフトウェアにおける知的財産制度の概要」 広島大学産学連携センター 知的財産部門知的財産マネージャー 植田 栄治</li> <li>・「グローバル化の帰結であるオフショア開発と沖縄の立ち位置」 (株)ジャスミンソフト 代表取締役 賛 良則</li> <li>・「技術移転と産学官連携システムのあり方」 沖縄工業高等専門学校 情報通信システム工学科准教授 兼城 千波</li> <li>・「情報セキュリティ分野に於ける人材育成について」 沖縄工業高等専門学校 メディア情報工学科准教授 伊波 靖</li> </ul>
第4回	平成21年 2月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生物資源の活用による産業育成の方向性を考える」 生物資源利用研究所 所長 根路銘 国昭</li> <li>・「北部地域連携における沖縄高専の役割」 沖縄工業高等専門学校 生物資源工学科教授 池松 真也</li> </ul>
第5回	平成22年 2月4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「名護市地域新エネルギービジョンについて」 名城大学 北部生涯学習推進センター長 鈴木 邦治</li> <li>・「国際化・技術革新時代の労働安全」 沖縄工業高等専門学校 機械システム工学科准教授 吉永 文雄</li> </ul>
第6回	平成23年 2月3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「特別支援学校教材の開発と改良」 沖縄工業高等専門学校 機械システム工学科教授 眞喜志 隆</li> <li>・「学生生活支援のための出席管理システムの実践的運用」 沖縄工業高等専門学校 情報通信システム工学科教授 杉本 和英</li> <li>・「会議室案内ロボットとOkinawa型ロボット・組み込み研究会」 沖縄工業高等専門学校 メディア情報工学科教授 姉崎 隆</li> <li>・「ドラゴンフルーツのポリフェノール含有量と抗酸化活性の測定」 沖縄工業高等専門学校 生物資源工学科助教 工藤 雄博</li> <li>・「地域の魅力を若者から発信する」 沖縄工業高等専門学校 総合科学科教授 網谷 厚子</li> <li>・「人材育成のためのワンチップマイコンPICボードキット開発」 沖縄工業高等専門学校技術支援室 技術専門職員 藏屋 英介</li> </ul>
第7回	平成25年 3月20日	<p>沖縄高専公開講座 ミニロボットフェスティバル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ベットロボットデモンストレーション (操縦体験あり) 対象:一般 (事前申込み無し)</li> <li>②子ども科学体験教室 (自律飛行ロボット操作) 対象:小学校高学年 (5、6年生) ~中学生</li> </ul>

## 歴代産学連携協力会長

代	任 期	会 長 名
1	平成16年4月22日 ～ 平成22年4月22日	島 袋 周 仁
2	平成22年4月22日 ～	湧 川 昌 秀

※ 会長は、会員のうちから総会において選出される。  
また、沖縄工業連合会の会長に準ずる。

## 歴代後援会長

代	任 期	会 長 名
1	平成16年4月1日 ～ 平成18年9月30日	喜 納 隆
2	平成18年9月30日 ～ 平成20年4月5日	中之藪 昭 一
3	平成20年4月5日 ～ 平成22年5月15日	宮 城 秋 夫
4	平成22年5月15日 ～ 平成23年4月14日	石 垣 克 夫
5	平成23年5月14日 ～ 平成25年4月27日	中 本 正 泰
6	平成25年4月27日 ～	大 濱 安 典

※ 会長は、会員のうちから総会において選出される。

## 編集後記

### 網 谷 厚 子 (部会長・総合科学科教授)

平成23年度から始まった「十周年記念誌」編纂作業も、ようやく終わろうとしています。10年という短い歴史ですが、開校までのさらに数年の歴史があります。それらをすべて掘り起こせたのか、思いは残ります。お忙しい中、ご祝辞をお寄せくださいました皆様、心から感謝申し上げます。また、座談会のために、遠路はるばるおいでくださった諸先生方に感謝申し上げます。本校を離れられている教職員の方からも、貴重なお原稿をいただきました。重ねて感謝申し上げます。記念誌編纂の資料作成に携わってくださったたくさんの皆様に御礼申し上げます。沖縄工業高等専門学校の、長く続く歴史の一つの「礎」となれば幸いです。

### 屋 良 朝 康 (技術支援室・技術長)

平成16年4月に採用され、私の沖縄高専での歴史も10年となります。沖縄工業高等専門学校創立十周年記念誌の編纂部会委員として編纂作業に携わり、開校当初の様子が蘇ってきました。この記念誌では、沖縄工業高等専門学校の10年の一部を皆様に紹介出来たと思います。沖縄高専に関わられた皆さまそれぞれの歴史をお持ちと思います。これまでの10年を振り返り、今後を考えるきっかけとなればと思います。

## 城間 弘 充（学生課長補佐）

2度目の高専勤務となる。創設時に学校立ち上げに、今回は節目の十周年記念誌作成に係わることができた。高専とはまさしく人が人を創っていく場所だと思う。さらなる発展を祈念する。

## 神里 志穂子（情報通信システム工学科准教授）

沖縄高専の10年。この学校に関わったすべての教職員と学生がこの時間を全力で駆け抜けてきた事が記念誌から伝わってきます。なぜ沖縄に高専があるのか。沖縄高専の役割は何か。設立に携わって頂いた方々の思いを受け継ぎ、次の10年を目指し思いも新たに全力で沖縄高専を盛り上げていきたいと思います。この学校を支えて下さった皆様に感謝の気持ちを込めて。

## 玉城 康 智（生物資源工学科准教授）

十周年記念誌の編集に関わることで、改めて卒業生や在校生、教職員が一丸となって沖縄高専を盛り立ててきたんだと実感しました。これをひとつの区切りとし、新たな10年に向かって頑張っていきたいと思います。

## 成田 誠（総合科学科教授）

つくづく「歴史は（事後、人為的に）創られるのだ」ということを実感した。この資料の中にどれ程個々人の主観が盛り込まれたことか。いずれ客観的史実を編纂する機会があるだろうか。しかしそれすらも誰かの主観に依存せざるを得ない。「歴史」とはそんなものなのだろう。

## 比嘉 信（図書情報係）

年度途中から、記念誌編纂に関わらせて頂きました。網谷部会長・編纂委員とコミュニケーションを取り、楽しく作業をさせて頂きました。10年の歴史を作ってくれた職員・学生の皆様へ謝意を表明致します。それと同時に、次の10年への志を新たにしたところであります。ありがとうございました。

## 大城 登樹子（図書情報係長）

編纂部会の事務を担当しました。平成24年春に本校に赴任し、前任者から引継を受けていたものの、最初の頃は部会での話し合いに出てくる先生方の名前すら分からずメモを取るのも一苦勞でした。こうして無事記念誌が発行できるのもご協力いただいたすべての方々のおかげです。ありがとうございました。



国立沖縄工業高等専門学校  
創立十周年記念誌

---

2013（平成25）年7月31日 発行

---

編集・発行

国立沖縄工業高等専門学校

〒905-2192 沖縄県名護市字辺野古 905

TEL：0980-55-4003 FAX：0980-55-4012

---

印刷

株式会社 国際印刷

〒901-0147 沖縄県那覇市宮城 1-13-9

TEL：098-857-3385（代）

---



Okinawa National College of Technology  
10th Anniversary